始

323
374

373-374

學士叢書

和文英譯

文學士

廣田道太郎著

大正
10 3 14
(W) 内交

東京

松邑三松堂

緒　言

此の書は唯一讀通過して貰ふ爲めに作つたのではない、其の語を學ばんと欲する者は須らく其の鄕に入るべしと云ふ言は眞理である、理論や思想ならば之れを理解することがやがて之れを知り得る事に當るけれども、語學に於ては知り得た智識を尙ほ溫め更に習はなければ到底物になるものではない、腦裏に修めた言語はまさかの役には立たぬ、更に練習を重ねて之れを舌頭に集め得た者にして始めて能く語ることを得、又習熟飽くことなくして之れを指頭に集め得た者こそよく文を草し得るのである、言語を學ぶ者に敎ふる秘訣は唯習、と熟、この二字の外に出ない。

學生諸君が習熟の勞を厭ひて唯理解にのみ之れ務むるは甚しき誤りであつて、況んや平易なる英語に馴るゝ事を知らずして徒らに難解の文に走らむとするが如きは其の愚や及ぶ可からざるものと云はねばならぬ、如何に難解の文も其の根質は皆平易なる初步の言語に存する事を知らば、例へばナショナル讀本の第三卷に徹底的習熟を有し得たる者は能くShakepeare を讀み Meredith を解し Brownning を味ふを得べき道理なるを悟るであろう。

若し學生諸君にして眞に精讀熟習の勞を厭はぬならば渺たる此の一卷の書と雖諸君を裨益する事決して少くあるまいと信ずる、本著を精讀し行く中に必要にして且つ充分なる文法上の智識をも得べく、更に進むで自ら筆を取りて一日一文を草すること一年ならば、諸君の進步は驚くべきものがあるであろう。Emerson は "Writing makes an acccurate man"

と云つて居る、實際筆を取つて書かねば到底精確なる智識は得らるゝものではない、著者は由來長たらしい序文は好まぬ、唯一言言語習得の生命が唯練習にのみ存すると云ふ平凡にして且つ偉大なる眞理を諸君に切言して緒言に代へる次第である。

著者識るす

目次

第一篇 用途より見たる文章の種類

第一章 叙説文

1. 肯定文:—有る、在る、である、にある、等の邦語を如何に英譯すべきか …… 3
2. 否定文:—to be, to have, の否定——助動詞を用ふる場合——never, no, hardly, few, little, etc. —— yes and no …… 7

第二章 疑問文

To be, to have の疑問の形——助動詞を用ふる場合——疑問詞——半疑問——附屬疑問節——挿入節 …… 12

第三章 感嘆文

How を用ひたる形 —what を用ひたる形 …… 14

第四章 命令文

普通の形——强勢と否定——let を用ふる形——條件節としての命令文 …… 18

第二篇 品詞

第五章 名詞

1. 普通名詞の六體——團體名詞と群集名詞——數の一致 …… 20
2. 物質名詞の二體——物質名詞に關する注意 …… 21
3. 抽象名詞の二體——抽象名詞に關する注意 …… 23
4. 純粹固有名詞と有意義固有名詞——有意義固有名詞と冠詞 …… 24
5. 格と性 …… 27

第六章 冠詞

1. 二樣の不定冠詞 …… 30
2. 二樣の定冠詞 …… 30
3. 冠詞の省略——冠詞に代る語——冠詞に先行する語 …… 31

第七章 代名詞

1. 人稱代名詞の不定用法——連結主語——to catch one by the neck——it の用法 …… 34
2. 指示代名詞 this の前方及び後方關係——that of——one と it——疑問代名詞 what?——this と that——same——all such …… 37
3. 關係代名詞 of which——關係代名詞の二大區別——that の用法——關係代名詞と前置詞——which——關係代名詞の節約 …… 39

第八章 形容詞

1. 冠辭的用法と述辭的用法——冠辭的形容詞の順序——被形容語より後に來る場合——all, such, certain, many, few, little, some, any, both, every, another. …… 46
2. 邦語の多と大とに對する形容詞——客觀的形容詞 …… 48

第九章 動詞

1. 自動詞と他動詞——補語——主働調と受働調——邦語と英語とに於ける受働調の相違——受働調の形と本動詞＋補語の形——與格動詞——與格動詞の受働調——再歸動詞——自動詞と他動詞の相互轉換 …… 58
2. 現在時の示す四つの方面——the historic present——確定的未來に代る現在時——副詞句中の現在時——完了時に代る現在時——二種の現在時進行形——準進行形——習慣を示す現在時と現在時進行形——往來發着の動詞の進行形と現在時の形——現在完了時の示す四つの意義——現在完了時の使用上陷り易き誤謬——或る種の副詞と完了時——現在完了時進行形——過去時——過去時進行形——過去完了時と其の使用上の注意事項——過去完了時進行形——未來時——未來完了時——未來完了時進行形——時の一致の根本則と其の除外例——時を示す副詞句中の未來完了時 …… 71

3. Part I.
助動詞 shall と will——we will——條件句中の shall と will——簡接話體に用ひられたる shall と will——疑問文中の shall と will——豫定の動作に入る時の I shall——溫和命令の you will——預言の shall と規定する shall——may に代る英人の will——習慣を示す will 78
Part II.
助動詞 can, may, must の第一義と第二義——横柄に認可する can——否定の can と能力の can——完了時と共に用ふる第二義の can——to be able to——許可の may と可能の may——許可の may の否定は must not——可能の may の種々なる場合——完了時と may——必要の must と必然の must と各其の否定——主張の must——to have to——must＋完了時——ought to do と ought to have done——ought not to do——need not do と need not have done——do, have, be 84
4. 條件文——條件節と主節——普通法、條件節法、主節法——條件節法過去及び過去完了の特色——條件節法未來完了の would に就て——主節法の二つの形——條件節又は主節 省略されたる習慣句 93

第拾章 準動詞

A. 根詞
根詞の特有性——主語となる事——動詞の目的語となる事——動詞の補語となる事——名詞を修飾す——動詞を修飾す——原因を示す根詞と結果を示す根詞——形容詞になる根詞——副詞を制限するもの——全文を修飾するもの——完了時根詞の二つの意義——根詞の sign "to" を省く時と省く可からざる場合——根詞補語と分詞補語との意義の相違 99
B. 分詞
過去分詞と現在分詞——過去分詞の二大任務と進行形に用ひらるゝ現在分詞——分詞の性質——形容詞としての分詞——動詞の補語としての現在分詞——分詞構文——三種の分詞構文 101
C. 帶詞
帶詞と分詞との別——帶詞と根詞の類似點と相違點——主語となる帶詞——帶詞の特有性——there is ＋ no＋帶詞——動詞の目的語となる帶詞——前置詞の目的語としての帶詞——動詞の補語となる——形容詞として用ひらるゝ場合 105

第十一章 副詞

副詞の位置——前に置くものと後に置くものと——時の副詞と場所の副詞——yet と still——split infinitive——often, sometimes 等——away, off, out 等——manner を示す副詞と state を示すものと 110

第十二章 接續詞

unless, if, or の關係——and と but——as と

when——because, for, as, since の別——as……as; so……as; so——not only but——not so much as——as soon as——no sooner than——hardly……when——had not＋過去分詞…… before …… 114

第十三章 前置詞

前置詞とは何ぞや——動詞及び其の補語に支配さるゝ場合——名詞及び其の相當語を目的語とする場合——各類例——主要前置詞各語の有する意義 (about, above, across, after, against, along, amidst, among, around, round, at, before, behind, below, beneath, beside, besides, between, beyond, but, by, down, despite, during, except, concerning, for, from, in, into, of, off, notwithstanding, out of, on, upon, outside, inside, over, owing to, past, since, than, through, throughout, till, until, to, towards, under. up, with, within. without …… 152

第三篇 文章の要素と構造

第拾四章 要素

語、句、節——主語要素、動詞、形要詞要素、副詞要素、連絡語 …… 159

第拾五章 構造

單文、複文、合成文——三構造と文體——三構造の性質 …… 161

第四篇

第拾六章 直接說話と間接說話

I. 直接說話より間接說話へ——主節の動詞の時が過去なる場合——if, whether を挿入すべき場合——命令文の場合——感嘆文の場合——從節が眞理、習慣を述ぶる場合 …… 164

II. 直接說話文の體裁の研究——quotation と主節との句點關係——主節の動詞 (reporting verbs) の位置—— …… 166

III. 間接說話文の體裁に就て——he said の輕き場合と重き時——幾度も繰り返さるゝ that の事 …… 167

第拾七章 總練習題 (長文練習)

…… 189

學士叢書

和文英譯

第一篇

用途より見たる文章の種類

第一章　叙説文

1. 肯定文

例題

A　卓子の上に大きな書物が一冊あるでせう——ハイあります、それから紙が少しあります。

"Do you see a big book on the table?"——"Yes, and I see some paper on it."

B　日本は支那の東方に在り。

Japan lies to the east of China.

C　僕は今一年生ですがもうすぐ二年生になります。

I am in the first year class now; but I shall soon be a second year (class) boy.

D　郵便函は丁度其の曲り角に在ります。

The post-box stands just at the corner.

E　街のはずれに西洋館がありまして其れが活動寫眞館ですが

齒醫者の家は其の眞向です。

There is a foreign (style) house, which is a motion-picture hall, at the end of the street, and you will find the dentist's over against it.

F 群集に押されて私はとう々々日比谷公園の中へはいつて居ました。

Pushed by the throng, I found myself in Hibiya Park at last.

G 亞米利加にはそんな物はありませぬ。

We have no such thing in America.

注意

1. 範圍極めて廣き肯定文の例を示すに當りて此處には試みに「有る」「在る」「である」等の邦語を如何に英譯すべきかを說明せり、to see は事物の目前に在るを示し、to lie は都市、國等の如きものに用ひ、to stand は家屋、樹木、山岳等の存在を云ひ、to find something [onself] は在るに氣附く意味を有し、to have は所有の義より轉じ來れる存在を表はす。

2. *There is a book* there. の形は *a book* is there. より遙におちつきて elegant なる表顯法なり、猶 *To sail on a lake* is nice. と云ふよりも *It* is nice *to sail on a lake* とする方遙かに體裁の調へるが如し、文章の體裁を elegant にせむが爲めに主語なる a book 又は to sail on a lake が後方に下りて其の留守へ There 又は it なる無意味にして形式的なる主語を補ひ is 又 is nice なる賓辭がこれに從ひて前方に來れるものなり。

但し *Just outside the gate* was a big pond. の如き文章に於て見る如く場所を指す副詞句が初めに來りたる場合は there を省きたるに注意すべし、又次の二文を比較せよ、

(1) There are some eggs in the basket.
(2) *The eggs* are in the basket.

(1) の形は物の存否を云ふ形にして (2) は the eggs (其の卵) と云ふ定まれる物に就てその所在を述べたる形なり、但し定まれる物に就ても其の存否のみを述ぶる場合は (1) の形を採る、即ち We will go, you and I. O, *there's John*; he must come, too. なる文と *John* is in the next room, なる文とを比較せば其の相違自ら明かなるべし。

3. 又存在を示すに to consist in; to lie in; to exist 等を用ふることあり。

The trouble *lies in* their misunderstanding. 面倒は其の誤解に在り。

Happiness *consists in* contentment. 幸福は滿足に存す。

Such a thought did not *exist* in days gone by, 斯かる思想は昔は無かりき。

4. Do you see.....? は其の形疑問文なれど人の注意を求むる語にて「ありませう」「あるでせう」と云ふ義なり。從つて I see..... も「(成程)あります」の義に用ふ。

5. It is [*to* the] east of China. (東方) 方角を云ふ。

It is *on* the east of China. (東側) 側 (side) を示す。

It is *in* the east of China. (東部) 支那の一部なることを示す。

6. Post-box は略して Post とも云ふ、a letter-box は商店等の私設の物なり。

7. a house *on* the corner; it is left *in* the corner (隅に)。

8. Throng は a crowd of people にて元來人の群集に限る、他の場合に用ゆるは比喩的用法なり、crowd は何の集りにも用ふ a crowd of carriages 等。

9. Such *a* thing なれど no such thing; some such thing; any such thing などゝ用ひて冠詞 "a" の省かれ居るを見るべし。

2. 否定文

例題

A 過去にのみ依賴するは宜しからず、改造は今日の流行語なり。

It **is not** good to be always dependent on the past; reconstruction is the watch-word of the day.

B 私は貴君の御父様の御存生中に眤懇になることを得ませんでした。

I **had not** the pleasure of your father's acquaintance during his lifetime.

C ジョルヂは學校へあがつて居ません而も學校なんかへ行き度ないと云つて居ます。

George **does not go** to school and he says he **will not**.

D 日用品の物價がちつとも下らぬ。

The prices of everyday articles **never come** down.

E どの窓も開けつ放しにしておくな。

Leave **no window** open.

注意

1. 近世英語にては動詞を打消す場合に必ず *do*（助動詞の）と *not* とを併用すべきものとす、即ち I *do not see* にして I see not に非ず、然し稀に I know not. 等の如き文に遭遇するはこれ古文の遺物にして特に文章に重味を附する場合等に用ひらる。又 I suppose not.（そうではないでせう）の如き形は I *suppose* [that it is] *not.* の省略されたる形なれば自ら別の構文と知るべし。

2. 但し *to be* と *to have* を打消す場合は例外にして do を用ひざるを常とす。

They *are not* good boys.
I *have not* the book with me.

然しながら

Do not be a bad boy.
I *do not have* my breakfast earlier than nine o'clock.

の如き特異の場合あるを忘るべからず。

3. *no* (not any) は名詞を打消すものなり。

Read *no books.*（複數普通名詞）。
I have *no book.*（單數普通名詞）。
There is *no wonder* about it.（無形名詞）。
There is *no iuk* in the inkstand.（物質名詞）。

又 *no* が形容詞を打消す場合に It is not good より It is *no good* の方が語勢强きは *no* が not any の意を有し not at all に通ふ故なり。即ち

It is *no good*=It is not good at all.

4. *never* (not ever) を用ふる時は do を用ひず即ち

Never tell a lie.
He *never gets up* early.

而して *never* も勿論强勢の打消なり。

5. I *will not go*, He *must not come*. You *need not stay*. They *can not smoke* 等の *will*; *must*; *need*; *can.* は助動詞にして I *do not go* の *do* に相當す。

6. You *need hardly go*（まづ行くに及ばぬ）。

few people *can play* the piano properly（ピヤノをうまく彈く人はあまりない）。
There *is little* sugar left（砂糖はあまり殘つて居ない）。
He is *the last* man *to come* to our side（彼れはなか〳〵我黨へは附くまい）。

以上の文例にて見る如く英語には no も not もなくして其の實打消の意を有する形多きを知るべし。

7. *Yes, no* の返事を爲すに當り唯一點英語と日本語とが反對になる事に注意すべし。即ち問の言葉に *not*（ない）の來る場合なり。

"*Isn't* this yours?"（これは貴君のではありませぬか）

—{"*No*, that is not."（ハイ僕のでありませぬ）。
"*Yes*, that is."（イヽエ僕のです）。

練　習

1. 此の戰爭も長く續きそうにも思はれない。（八年、廣、高師）
The present war does not seem to last long
{It seems to be true.（心にそう思へる）。
{He looks white.（目にそう見える）。
{He appears to be gentle.（外觀だけはそうらしい）。
The present war seems not to last long.（……續かないらしい。此の not は to last を打ち消す）。

2. 母は五晩と云ふものまんじりともしなかつたようです。
I do not think mother slept a wink for five nights.
To sleep a wink = to have a wink of sleep.
I think mother did not sleep……とするは日本語的なり。英語にては think の方を打消にしたるに注意せよ。

3. 京都は本洲の中央に位す。
Kyoto is situated in the middle of Japan proper.
Japan proper = the main island of Japan.

4. 彼の商店は神戸に於ける第一流のもので店主は少壯で頗る企業心に富んだ人です。（八年、神、高商）
The house is one of the leading firms in Kobe, and the proprietor is a young man of enterprise.
a leading firm = a first-class firm.

5. お久しぶりですね、今日君がお出下さろうとは全く思ひがけがありませんでした。（七年、高等）
It is a long time since I saw you last; I never thought of this kind call of yours.

6. 北に當つて高山が見えませう、あれは駒ケ嶽です。
Do you see a high mountain rise there to the north?
That is Komagatake.
There rises a hill there.（彼處に丘がある）。
I heard him sing. と I see a hill rise there とを比較せよ。

7. 貴君が末から二番目だとお仰いますが、一體御兄弟は御幾人ですか。
You say you are the youngest but one; but tell me how many brothers you have.
The last but one.（一つだけ除いて最後、即ち最後より二番目）。
how many 以下は純粋の疑問文に非ず、故に you have とすべし have you? とすべからず。

8. さあ一本如何です。——ハイ有難う僕は烟草を吸ひません。
"Won't you take a cigarette?"—"No, thank you, I don't smoke."

9. 角を曲がると大きな西洋館の前へ出ました、そして其の門の傍には大きな松の樹がありました。
Turning the corner, I found myself in front of a big foreign house; and, by the gate, I saw a big pine tree.

10. 此の花はちつとも好い香がしませぬ。
This flower has no sweet smell.
This flower does not smell sweet at all.

第二章　疑問文

例題

A　クレマンソー氏は佛蘭西の現總理大臣ですか。
Is Mr. Clemenceau the present Premier of France?

B　露西亞の過激派の頭領等はそんなに多くの金を持つて居てそれを主義の宣傳に使ふのですか。
Have the leaders of Russian Maximalists so much money, which will be spent for the propagation of their ism?

C　雷が鳴つて居ますね、ずつと遠方の樣ですね。
Do you **hear** the thunder? It seems to be a long distance away.

D　校內を案內して下さいませんか。
Won't you **take** me over the school?

E　おや貴君ですか木村さん。御國に御いでの事と思つて居ました、どういふ御用で御出京なさいましたか。
O. is that you, Mr. Kimura? I thought you were in your native place. **what has brought** you here to Tokyo?

F　貴君は朝起でいらつしやいませう、何時に御起きになりますか。
You are an early riser, I suppose. **What time** do you **get** up?

G　電光の方がいつも雷鳴より先に來るのはどういふ次第ですか。

How is it that the lightning comes always before The thunder?

H　何處で僕は時計を掏られたのか覺えがない。
I do not **know where I was** robbed of my watch.

I　此の靴一足に僕が幾何出したと思ひますか。
What do you suppose I gave for this pair of shoes?

J　それでは御父樣は東京へ歸つていらつしやるんですね。
Then, **your father is** back in Tokyo?

注意

1. 英語にては疑問文を作るに助動詞 *do* を用ひ之れを主語の前に置くを本則とす。卽ち

Do you like this?

但し do を用ひざる場合を列擧すれば左の如し。

a. 動詞が ~~to be~~ 又は ~~to have~~ なる時。

Is this yours? *Have* you the books with you?

然し have の時は *Do* you *have* many storms like this? (こんな時化が度々ありますか)と作る例もありて否定文の場合の I *do* not *have* it. の形と相應ず。

b. do 以外の助動詞ある時。

Will you go with him? *Can* you do it? *Must* I stay here?

2. 次の三つの形を比較し特に Come を用ひたるものに注意せよ。

How is it / *How comes it* / *How does it happen* } that you failed in the examination?

How does it come? とせずして *How comes it?* とせる idiom は How is it? の形式に準じたるものか。

3. 疑問代名詞が主語を爲す場合は文章の形全く普通の肯定文のと同樣にして動詞も勿論助動詞 do を取らず且つ主語の後に來る。

Who opens the door? *What happened* then?

4. 附屬疑問節の場合は動詞は主語の後に來り勿論助動詞 do を取らず又 ? も不必要なり。これ純粹の疑問に非ればなり。

Tell me *what it is.* Do you know *where he lives?*

I know *who he is.* I will ask her *whether he is coming or not.*

5. 半疑問は聊か疑問は存すれども自己の所信は定まれる場合に用ひ文體は普通の肯定文と全然同樣にて唯 ? の符號を要するのみ、邦語の「何々……でずね」に相當す。

{ You are writing to your mother?
{ Of course, he is found of her?

6. Who *do you think* he is?=who is he?+do you think?

上文に於て do you think? なる疑問文は挿入節に過ぎずして主文に非るを注意せよ、即ち次の二文を比較すべし。

{ *Will you tell me* who he is?
{ *Who* do you think *he is?*

will you tell me? は主文にして重く do you think? は挿入文にして輕く人の所存を參考の爲めに求むる口吻にして think, suppose, say 等人の意見 (opinion) を聞く場合に用ふる動詞特有の形にして tell, know の如き確定せることを聞く時の動詞にはなき形なり。但し to say なる動詞に限り挿入節にも主節にも用ひらるれど各其の場合によりて意義の輕重を異にするを見よ。

{ *Did he say* what it was? (其れが何であるか、彼は確言しましたか)。
{ *What* did he say *it was?* (其れは一體何でしたか、又彼れは何とか云ひましたか)。

前者は Did he say? が中心意義なれど後者は what was it? が主要意義にして Did he say は序に添へて聞く心なり。

7. their ism=their doctrine.

8. Do you hear? は前段の do you see? と同用法にして人の注意を促す形なり。

9. Won't you take?=*will* you *not* take?

10. What time do you get up? の what の前に at を補ふも可、又 When do you……? も可。

11. How is it? は如何なる順序を經て左樣な事になるかの義。

12. I gave for……=I paid for……

13. 次の二文を比較して前置詞の用法に注意せよ。

{ He has *come* back *to* Tokyo.
{ He *is* back *in* Tokyo.

練習

1. 此の蝙蝠傘は誰れのですか、御心當りはありませんか。 (八年、大、高工)

Whose umbrella is this? Have you any idea?

又 Have you any knowledge whose umbrella this is? も可。

Whose umbrella is this?=whose is this umbrella?

2. 君に頼んだ本を買つて來てくれたか (六年、秋田、鑛)

Have you brought the book which I asked you to buy for me?

2. 貴君は餘程山登りをなさいましたか。

Did you do much climbing?

climbing=mountain-climbing=mountaineering.

4. 英語の智識がなくてもやつて行かれませうか。

Can we do without any knowledge of English?

English=the English language.

5. 此の中のどの子供が私方の店員になるのですか。

Which of these boys is to be my clerk?

6. それでは誰れが二階に住むで居るか御存じですか。

Do you know who lives upstairs then?

7. それでは此の地位に對して誰れが適材だと御思ひですか。
Then, who do you think is the right man for the position?

8. 成程、それでは此處に書いてあるのが貴君の御名前ですね。
Well then, the name put down here is yours?
put down = written down.

9. 君は何故に東京を去る氣になつたのですか。
How **came** you to intend to leave Tokyo?
Why did you intend to leave Tokyo?

10. 海水に浴するには何時が一番よいと御思ひですか。
When do you think is the best time to take a bathe?
{to take a bathe (ベーッズ) 河海に浴する」。
{to take a bath (バツッス) 風呂にはいる」。

第三章　感嘆文

例題

A 昨夜はまア大變な嵐でしたね、僕は殆ど眠れませんでした。
What a storm we had last night! I could scarcely sleep a wink.

B おや霰が降つて來たわ、まア大きな粒だこと。
Oh, it has begun hailing. **What huge hail-stones!**

C 彼の人は眞に愉快そうですね、尤も日本一の果報者には相違ないが。
How happy he looks! He is indeed the happiest fellow in the world though.

D 御座敷の裝飾は甚だ結構で御座いますね。
How beautifully your drawing-room is decorated!

E 彼の男はいつも實に大膽な戰鬪をやるね。
How boldly he fights!

注意

1. 感歎文には大體二樣の形式ありて一つは what を名詞の前に用ひたると他は how を形容詞若しくは副詞の前に用ひたるとなり。然して何れの場合に於ても動詞の形及び位置は叙説文のと何等變りなき事に注意すべし、但し感嘆點 (!) の必要なるは云ふを待たず。

a. What を用ふる場合に名詞の前に形容詞の來る事普通なれど時に然らざる事もあり。
{What a man he is!
{What rascals they are!
{What a *nice* girl she is!
{What a *big* apple this is!

b. {How good it is! (how が形容詞に附く場合)。
{How desperately he fought! (how が副詞に附く場合)。

2. {He is a very bappy fellow. (叙説文)。
{How happy he is! / What a happy fellow he is! } (感嘆文)。

3. {How old *is* he? (疑問文)。。
{How old he is! / What an old man he is! } (感嘆文)
{How many people *are* there? (疑問文)。
{How many people there are! (感嘆文)。
{What a number of people there are! (〃)。

4. {What book *is* it? (疑問文)。
{What a book it is! (感嘆文)。

5. {He is not rich; he is clever *though*.
{He is not rich, but he is clever.

此の though は but の意にして唯語氣稍强し。

練　習

1. まア一日に大變煙草を御吸ひになりますね。

How many cigarettes {a day you smoke!
{you smoke in a day!

2. 何たる愚案ぞや。

What a foolish idea it is!

3. それはまア氣の毒な、然し仕方がない、出來るだけやるさ。

(六年、東、高工)

What a pity it is! It can not be helped though; you can not but do all in your power.

4. あんなに度々御手紙を下さつて御親切まことに難有う存じます。

How kind you are to write me so often! I am much obliged to you.

5. こんな天氣の好い日に散歩に出掛けたら愉快でせう。

(五年、海軍、兵)

How pleasant it would be to go out for a walk in such fine weather!

would=perhaps will=もし散歩に出かけたらさぞ愉快だろう。

6. 御容態は實に危篤です。

How seriously ill he is (lying)!

第四章　命令文

例　題

A 前便申上候書籍二部此の手紙着次第御送附ありたし。

Send me two copies of the book referred to in my last on receipt of this letter.

B じつとしとれ、でないと怪我するぞ。

Do keep still, or you will get hurt.

C 人に侮られるといけないからあむまり度を過ごした儉約をするな。

Do not be too frugal, lest you should be despised.

D 乾度出來るだけ早く來なさい。

Do you come as soon as possible.

E どれ々々財布に幾何あるか知らん。

Let me see what I have in my purse.

F 僕の此處へ歸つて來るまで彼の人をまたせておいてくれ、長くはかゝらぬから。

Let him wait till I am back here again. I shall not be long.

G 君が其の場に居合はせたと思ひ給へ、其の時君は如何なる處置を取つたであろうか。

Suppose you had been present on the occasion, how would you have managed it?

H 機敏にやれ、きつと勝つ。

Be quick, and you will win it.

注意

1. 普通命令は對手に向つて直接に發するものなれば多くは對手を明示する必要なし、これ命令文には大概主語が省かるゝ所以なり。又命令文の時の形は現在のみなるを心得べし。即ち

Read me the letter.

Take this away.

但し主語を明示する必要ある場合は別なり。即ち

You stand back, and *you* keep still,

Don't *you* be afraid; the examination does not kill you.

又主語を明示する場合は大抵語勢强き時なれば從つて助動詞 do をも添ふるが普通なり。

Do you come down from that tree.

而して否定の命令は又 do を要するものとす。

Do you *not* forget to write to me.

2. You を主語とする(假令省かれたりとも) 命令體の外に又 let を以て作る形あり次の文を比較せよ。

{Put this on the table. (=Do you put this.....)
{Let this be on the table.

{Obey me. (=You obey me.)
{Let me be obeyed. } 我が命に從へ。

{Read this book. (=Do you read this book).
{Let me read this book.

普通の形が you を主語とするに對し let を用ふる形は me, us, him, her, it, them 及び總ての名詞を目的語とす。(you は對稱にして me, us は自稱、其の他は皆他稱なり)。

{[do *you*] Come in.
{Let *me* (him, her, it, them, the boys) go.

又此の let を省く事時に之れあり。

{Be it so. (=Let it be so).
{Suffice it to say that..... (まづ今は.....の事を云ふのみに止めて置く)。
{(=Let it suffice to say.....=Let it be sufficient to say.....).
{Work as he can, he will fail in it. (=Let him work as he can, ...).

然して let=allow to なり。

Let me *go*=*Allow* me *to* go.

Make him go=compel him to go. (强うる意あり)。

3. 命令文には要求、命令を發する外に又條件節として用ひらるゝと云ふ大なる任務あり。

Be quick, or you will be too late.

Let us respect ourselves, and we shall be respected by others.

Do what I can, I can not pull it out.

(=Let me do what I can, ...).

Work as he might, he *could* not keep himself above want.

(どんなに稼いでも足りなかつた)。

(=Let him work as he might, ...).

Suppose I were in your place, I could manage it well.

(僕が君の代りになつたら上手にやれるんだがなア)。

(=If I were .....).

練習

1. ドンナ金持でも其の子を遊ばして置く事は出來ない。殊に其の子がこ十歳以上になつた時には。 (七年、神、高商)

Be rich as one may, one can not afford to have his son idle, especially when he is more than twenty years old.

However rich one may be, ...

No matter how rich one may be, ...

2. 後の人の邪魔になりますから端の方に立たず成り丈中の方にはいつて下さい。 (四年、商船)

Do not stand in others' way near the door; please try and step in, will you?

3. 一寸つと學校の歸り途に寄り給へ。

Just look in on your way home from the school.

4. 決して床り上に唾を吐くべからず。

Never spit on the floor.

5. 此のまゝそつと寢かしておいて下さい。

Leave him lying quiet as he is.

6. 好きな通りにするがいゝさ。

Let him have his own way.

7. 何時でもよこして下さい、今日の午後は用がありませぬから。

Let him come any time; I am free this afternoon.

8. 僕も助力するから是非成功を見るまで努力したまへ。 (五年、北、農大)

Do you make efforts and accomplish it, I will come to assist you.

9. 直く停車場へ行きませう、そうしないと此の汽車に乘りおくれるやらも知れません。

Let us go to the station at once, or we may come too late for the train.

10. 唯信ぜよ。さらば救はれん。

Simply believe in God, and you will be delivered.

第二篇

品詞

第五章 名詞

例題

I

A 今日日本に於ては英書の需用甚だ多大にして且つ次第に增加の兆あり。

There is a great and growing demand for English books now in Japan.

B 婦人が自己の生計を營むに最も好い職業と云ふのはまづ何でせうか。

What would be the best profession at which a lady can make for herself a living?

C 鳥類は他の動物より一層大なる視野を有す。

The bird has a much larger field of vision than the other animals.

D 其の當時優勢なる一艦隊が敵を待ちつゝ支那海に居つたと信ずる人もありました。

Some people believed that there had been a powerful fleet then watching for the enemy.

注意

1. 單數複數の觀念を伴ひ且つ冠詞 (a; the) を取るは普通名詞の特

性にして最も注意すべき事なり。從つて此の關係より普通名詞は次の六樣の意義に於て用ひらる。

I have *a book*. (自己が持てるある一册の本を指す。例題 A の a demand と對照せよ)。
A cap is brimless. (any cap の義にしてどの cap も皆の意なり。例題 B の a lady と對照せよ)。

The pen is yours. (其の pen と指定された意。例題 B の the profession に當る)。
Who inventend *the airplane?* (飛行機と云ふ物の義にて一般の意。例題 C の the bird に當る)。

Boys like to run. (一般の boy を指す廣漠たる義。例題 A の books に相當す)。
The girls are in the room. (その girls にして定まれる意。例題 C の the other animals に對す)。

2. 例題 D の a fleet は團體名詞にして people は群集名詞なり。團體名詞は普通の普通名詞と心得て使用して差支なし唯其の實す所の意味が物や人の團體なるに過ぎず。群集名詞はその形常に單數なれど之を複數として取り扱はざる可からず。

There *is* only one family in the building. (團體名詞)。
Are your family all well? (群集名詞)。

3. B の *would* に注意すべし。何が一番よいと決定するのは難事ながらまづ何れと定むるならば扨て何だろうの意なり。

4. *to watch for the enemy* は敵が現れはせぬかと警戒する意にして *to watch the enemy* は敵を前に置いて其の動靜を監視する義なれば兩者を混同すべからず。

II

A 米は日本人の生活に必要缺くべからざる物である。
Rice is indispensable to the Japanese life.

B 積載せる小麥は船と共に沈み行けり。
The wheat aboard went down with the Ship.

注意

1. 物質名詞は單複數の觀念を伴はざれば勿論複數の形を有せず從て不定冠詞 (a) と共に用ひらるゝ事もなし、唯制限されたる意義に用ひらるゝ場合定冠詞 (the) を伴ふのみ、例題 A の *Rice* は無制限の用法にして B の *the wheat* は船に積むだ丈の小麥の意にして制限的用法なり。

2. 物質名詞は普通名詞の助を借りて初めて數量の觀念を伴ふ。
A sheet of paper. *Sixty gallons of* gasolene.

3. 物質が區分、種類の意を伴ふ場合は勢ひ普通名詞となり又或る物質にて作りたる品物は勿論普通名詞ならざる可からず。

The *clouds* in the sky. (區分)。
Sherry is *a wine*. (種類)。
Glasses are fragile. (品物)。

III

A 必要は發明の母なり。
Necessity is the mother of **invention**.

B 無教育者の無智蒙昧は種々なる社會上の難問題を惹起す。
The ignorance of uneducated people brings about many social troubles.

注意

1. 抽象名詞は其の性質物質名詞に酷似し單複數の觀念を伴はざれば複數の形を有せず從つて又不定冠詞 (a) を取る事もなし。例題 A の *necessity*; *invention* の如く廣き意義の場合は無冠詞にして B の場合の如く of uneducated people なる制限句を有する時は *the* を要す。

2. 抽象名詞を具體的の意義に用ふれば皆普通名詞となる。即ち

He has *a good memory*. (一事例を指す)。
Bravery is *a virtue*. (一種類なる意)。
She was *a beauty* in her youth (人を指す)。
It is *a pity*. (事柄を指す)。
The book is *a good work*. (作品を指す)。
I committed *a folly* in trusting hi (行爲を意味す)。
The audience were moved to tears. (集合團體を意味す)。

3. 或る種の抽象名詞はこれに普通名詞を結合せしめて初めて具體的意義を示し得。

It is *a good piece of* information.
This is *an act* of justice.
It requires *a degree of* good advice.
That is *an instance of* good advice.
Memory is *a form of* knowledge.
There are *three cases of* cholera now in this street.
She was seized with *a fit of* hysterics.

4. 病氣の名は學術的のものは皆抽象名詞なれど通俗的のものは普通名詞として用ふ。

She caught *diphtheria*. (學術的)。
The old man is affected with. { *rheumatism*. (學術的)。 *rhumatic pains*. (通俗的)。
He is suffering from. { *laryngitis*. (學術的)。 *a sore throat*. (通俗的)。
I have *a cold* (*a toothache*). (通俗的)。

又 (the) measls; (the) gout; (the) small pox 等の older names は the を有するが普通なり。

5. 抽象名詞は形容詞の役目を勤む。

1. He is *eagerness itself* = he is *quite eager*.
2. She was *all courtesy* = she was *exceedingly courteous*.
3. He is fifteen years *of age* = he is fifteen years *old*.

但し He is eagerness. She was courtesy などゝ云ふ可からず猶は the hat is *of* new style と云ふ可きを The hat is new style と誤るの不可なるが如し。

4. He is a man *of enterprise* = he is *enterprising*.

但し of (前置詞)を省略する事もあり。

Each house is [of] exactly the same height as the next. It is [of] no use.

6. 抽象名詞は前置詞と結合して phrase を形成すると云ふ重要の役目ありて phrase の大部分は此の種のなりと云ふも過言に非ず。

The ship is now *in the sight*.
Every man lives *in the sight of* God.
We are now *in sight of* the lighthouse.
It is now *out of sight*.
The air-ship came *into sight*.
He ran away *upon the sight of* me.

IV

A 世界戰爭中は獨逸に出入する事は容易の業ではなかつた。
Getting in and out of **Germany** was by no means an easy task during the war.

B 列强赤十社總裁會議は今度も亦巴里に於て開催さるゝ筈だと云ふ。
The conference of the presidents of the **Red Cross** societies of the powers is said to be held at **Paris** this time again.

注意

1. 固有名詞は本來無意義の呼稱にして勿論一切冠詞を有せず又複數の形なきものなり。但し稱呼が有意義のものなる場合は例題 B の *the*

Red Cross Society の如く *the* を取る、而して又集團なる場合は複數形となり the を取る。即ち

The Himalayas are the highest mountains on earth.

又河、海、船の稱呼は多くは他の固有名詞に因みて附するが常なれば區別の爲めに the を附するを通則とす。

The Kiso. The Japan Sea. The Siberia.

但し山、湖、沼、岬、島は各 *mount, lake, cape, island* の語を屑書的に又は說明的に附する習例なり。

Mount Fuji.	*Cape Horn.*
The Mount of Sinai.	*The Cape of Good Hope.*
Lake Biwa.	*Sado Island.*
The Lake of Constance.	*The Island of Sado.*

尙ほ公共の設立物、書籍、新聞、雜誌、等の稱呼は多く其の內容性質を指示するが如き有意義語を以て名とするが故に the を有するか通例なり。

The Tokyo Higher Normal School.

The Arabian Nights.

The Times. The New East.

更に又人名の如き純粹固有名詞も說明的形容語を附したる場合は有意味稱呼なれば the を有す。即ち

The infant Jesus. The virgin Mary.

2. 月の名及び曜日の名が固有名詞なるは人の知る處なり。

3. 以下擧ぐる例の如きは皆普通名詞としての用例にて固有名詞に非ず注意すべし。

The Tanaka of your class is from Hokkaido.

Is there *a Mr. Hopkins* living in this part?

There are *two Bostons*: one in American and the other in England.

He is *a Japanese.*

This beautiful picture is *a Turner.*

Japan is *the England* of the Far East.

Our class will produce many *Nelsons.*

V

A 潛航艇は佐久間大尉及び其の乘組員全部を載せたるまゝ沈・沒せり。

The submarine boat went down with Captain Sakuma and all her crew on board.

B 棚の上には御父樣と御母樣との本が載つて居ますそしてお父樣の本の中にはラング氏ブツチヤー氏共著のヲヂセイが交つて居るでせう。

There are father's and mother's books on the shelf, and you will find Lang and Butcher's "Odessey" among those of father's.

C 彼の人を馬鹿だと申しまして相濟みませぬ。

Excuse me for my calling him a fool.

注意

1. 英語の性は自然の性に準ずるものなれば多く注意を要せずと雖國土船舶の如きは特に親しみを以て之を見る時に限り女性として取り扱ひ(例題 A 參照)然らざる時は自然のまゝ中性とし、代名詞も It を用ふ。

又 Sun; anger, thunder; battle 等の如き强きものを男性とし city, moon, charity, pity 等の親み易く女性的のものを女性として取り扱ふは之れ擬人的意義に倚るものなり。

動物に於ては男女の別を以て見る場合は格別、然らざる時は it を以て代表せしむ、然れども事實上に有勢なる方の性を以て男女兩性を代表せしむる事あり。即ち Horse (mare を含み); man (woman を含み); cow (ox を含み); bee (drone を含み)、等の如し、而して斯かる場合も元來性は無視されたるものなれば代名詞は it なり。

A fox caught *a hen* and killed *it.*

尙ほ *The baby* has a top in *its* hand. / *The child* is standing on *its* feet. の如く baby; child なる共

通性の語にして男女の別を要せざる時に用ふるものは又 it を以て其の代名詞とす。

2. The possessive form 's は人、動物及び之れに擬し又準ずるものに用ひ他の場合には of の形を用ふるが原則なり。

{ *The boy's* book.
{ The cover *of the book.*

然れども 's の形は簡潔なる形なれば種々なる理由の下に之れが用途擴大され來れり。

Today's newspaper; a good night's rest; a moment's notice. (時)。
A hair's breadth; a boat's length. (距離)。
A three cent's worth; two pound's weight. (價値と重量)。
The river's banks; the ocean's roar. (擬人)。

3. 次の二つを比較せよ (例題 B 參照)。

{ *father's and mother's* books. (二人が各別々に所有す)。
{ *Lang and Butcher's* "Odessey." (二人にて共に著したる)。

4. 例題 B の *those of father's* の形に注意せよ。

「此の私の鉛筆」の意を *This my pencil.* と譯するは古き形にして然もぎごちなき體なり、宜しく *This pencil af mine* とすべしすべて This, that, some, any, a, 等の指示的語の來る時は所有格の代名詞 my, your, his 等は of mine; of yours, of his となりて名詞の後方に來るなり。即ち *a my friend* と云はずして *a friend of mine* と云ふが如し。

5. 例題 C の形は最も注意を要す。

{ He died in consequence of *the doctor's* coming too late. (1)
{ She died in consequence of *his* coming too late. (2)

{ I insist on *the boak* being published at once. (3)
{ I insist on *its* being published at once. (4)

上揭の如き構文に於ては coming; being の前に來る名詞が The possessive form 's を取り得べき animate なるものなる場合は (1) の如く the doctor's とし (the doctor とする人もあれど) 又 the letter の

如き inanimate なるものゝ時は 's を附せざるが通則なり、而して何れの場合に於ても代名詞を用ふる時は必ず所有格なるに注意せよ。

練習

1. 暫時公園を散歩して來給へ、さうすると朝飯が甘く食へるから。 (四年、廣、高師)
Take a walk in the park for a little while, and it will give you a good appetite at your breakfast.

2. 君は間違ふのを氣遣つて英語を話さないから會話に於て上達しないよ。 (五年、廣、高師)
You do not speak English lest you should make any mistakes, and so you can not make any progress in conversation, I am afraid.

3. 私が今朝起きた時は太陽は立派に輝いて居たけれども今は黑雲に隱れた。 (四年、盛、高農)
The sum was shining brightly when I got up this morning, but it is now behind the black clouds.

4. 昨日の暴風雨で大分被害があつたやうだ。 (元年、東、高師)
Yesterday's storm seems to have done much damage.

5. 旭丸は樺太より歸航の途中暴風に遭遇し爲に豫定より五日遲れて一昨日午後横濱に入港せり。 (二年、東、高商)
The Asahi-maru was caught in a storm on her homeward voyage from Saghalien and made port at the harbour of Yokohama the day before yesterday five days later than the appointed date.

1. To be caught in a shower = to be overtaken by a shower.

2. To make port at the harbour of Yokohama = to enter Yokohama harhour.

3. Later than = behind.

6. タイムス用達代理部は數年前の創立にて海外在住者に對し倫敦居住者同樣の有利なる條件にて英本國より各種の被服、食料、機械類等を供給す。

The Times Supply agency was established several years ago and it supplies people living oversea as advantageously as though living in London with various kinds of food, clothing, machinary, etc. from the home market.

To supply people with food = to supply food to people.

7. 君の此鉛筆はあまり尖つて居ないから別のを借してくれませんか。

This pencil of years have not much point on it, may I not borrow another one, if you please?

8. 米國の政治組織を知悉し、その國情を了解してこそ始めて對米問題は機宜を誤らざるを得ん。 (二年、東、高工)

Until you are thoroghly acquainted with the political system of America and with her state of national affairs, you can never properly settle our American ploblems.

not……until……=何々する迄は……ない、即ち何々して始めて……する。He could not discover the mistake, until he reached home. (家へ歸つて始めて過誤に氣がついた)。

9. 彼は私の忠告に從つてあんなに好きな烟草をやめた。 (八年、醫、專)

Taking my advice, he has given up smoking he was so fond of.

{To take advice. 忠言に從ふ。
{To give advice. 忠告する。

10. 私の遲參に對して私は責任を帶びます。

I hold myself responsible for my coming too late.

To hold oneself responsible for = to answer for = to take responsibility upon oneself for.

第六章 冠詞

例題

A 人は丁年に達すると獨立の生涯を始める。

A man begins to take his life into his own hands when he comes of age.

B 入會申込用紙一枚同封仕り置き候。

A form of application for membership is enclosed herewith.

C 電信、電話、汽船、航空器等は皆科學的智識の產物であります。

The telegraph and telephone, **the** steamboat, and **the** (flying machine) are all **the** productions of scientific knowledge.

D 官立諸學校は必ずしも他の學校より優秀なる教育を施すものでない。

The government schools do not necessarily give a better education than the other schools.

E 此の本は印刷が美事で且つ立派な挿繪がはいつて居ます。
The book is handsomely printed and contains many beautiful illustrations.

注意

1. 不定冠詞 (a; 母音の前には an) には二樣の用法あり即ち
   1. 例題 A の *a* man に於ける如く any の義を有し事物の全般を指す場合。
   2. 例題 B の *a* form の如く事物の中の一個を指す場合。

而して全般的の場合は全く冠詞を有せざる複數形（普通名詞の種類參照）之れに應じ個別的意義の場合は some を有する複數形之れに應ず。即ち

I Have { an apple. / *some* apples. } A boy likes / Boys like { to run fast.

2. 定冠詞 (the) 亦全般的と特定的との別を有す、例題 E の *the* book は特定の意義に用ひられ C の *the* telegraph and telephone, *the* steamboat, and *the* flying machine は皆全般の意義なり。而して *the* productions; *the* government schools; *the* other schools 等の the は特定的意義に用ひられしものにして複數名詞に於ける場合なり。

3. 冠詞を規則的に省略する場合左の如し。
   1. 呼ひかけの時　Come, *old man.*
   2. 肩書の時　*Count* Kabayama; *King* George.
   3. 重複名詞　*Brother and sister*; *from coast to coast.*
   4. 前置詞句、動詞句　Go *to school*; take *to hospital*; to be *at table*; to *take part*; to *keep house*: to *catch cold.*

4. 次の語は皆冠詞に代るものなり。
   1. 定冠詞に代るもの　This, that, which, your, my, his their, Geonge's. 等。
      Your book; This pen.
   2. 不定冠詞に代るもの　one, no, each, every, some, any, 等。
      Some boy; No picture.

5. 次の語と冠詞とを同時に用ふる時は冠詞は常に其の後に來る。
   such a man: *what a* girl!; *both the* brothers; *all the* boys; *many a* big man; 等。

6. 次の如き場合に注意せよ。
   A lawyer would make a better statesman than *a soldier.*
   法律家は軍人に比すれば一層政治家に適するだらう。
   A lawyear would make a better statesman than *soldier.*
   法律家は軍人になるより寧ろ政治家になり易い。
   Bring me *a cup or a glass.*
   茶碗かさもなくばコップ（別々に考ふ）。
   It may be kept in *a cup or glass.*
   茶碗かコップの中へ（何れにても差支なく區別なしに考ふ）。

練習

1. 英國に一人の友人が居ると思ひなさい、そして其の人へ宛てゝ短い手紙を一本英語で書いて御覽んなさい。
   （四年、東、高師）
   Suppose you have a friend in England and write a short letter to him in English.
2. おい此の手紙を明朝早く出してもらいたいな。
   （六年、廣、高師）
   Come, post the letter early to-morrow morning, will you?
3. 近來學生の健康狀態が不良であると云ふのは頗る寒心すべきことだ。
   （六年、廣、高師）

It is very deplorable that the state of students' health is lately found unsatisfactory.

4. 雨が降り出した子供等は遊戯を止めて家の内にはいつてしまつた。
It began to rain, and the boys had get in, giving up their play.

5. 天の星は全く無數と思はれるが望遠鏡で覗くと尙ほ遙かに多數の星が見える。
The stars in heaven seem to be quite innumerable, but far more stars appear in the telescope.

6. 未だ嘗て勤勉の人に非ずして頭角を現はしたる者なし。
There has not been a man of eminence but was a man of industry.

7. 羊は非常に柔和な人に害をなさぬ動物であります。
The sheep is a very gentle and harmless animal.

第七章 代名詞

例題

I

A 友を過誤に陷らしめてはいけない。
We should not betray our friends into error.

B 歐洲人は自分勝手の神を造つておいて、動もすると彼等の所謂神を信ぜざる者を異端視する。
The Europeans have made a God to themselves and is apt to call those people who do not believe in their God heathens.

C 彼れか僕かが外國へ遣らるる筈なんだが實は彼れも僕も行きたくないのだ。
He or I am to be sent abroad; but, to tell the truth, I as well as he am not willing to go.

D 僕が彼奴の頭を撲つたらば、彼奴が怒つて僕の首つ玉を捕へた。
I struck him on the head and he, getting angry, caught me by the neck.

E もう學校へ行かなくちやならぬ時間だ、雨は少ししか降つて居ないが風がきつい。
It is time to go to school; it is blowing hard though raining a little.

F 彼の人が試驗に落第するなんて萬が一にもあり得ない事です、君こそ試驗を怖がつて居る僻に。
It is impossible that he should fail in the examination; it is you that are afraid of the examination.

注意

1. 例題 A に於ける we (our も) は one; you 等に代ふるも其の意通ずゝ *They* say he will be found guilty. なる文に於ける They の如きも people に代ふるもよし、斯くの如く意義の廣漠なる用法 (indefinite sense) の we, you, they の存することを知らざる可からず。

2. B の their は彼等の所謂と云ふ程の心にして之れに類する代名詞の用法を知る事は極めて必要の事なり。
Your ambassador. (貴國大使)。
Your clerk. (貴店店員)。
Our principal. (我校の校長)。

3. 代名詞を連結して用ふる時の注意とし次の例を熟讀せよ。

1. *You, he, and I are* great friends.
2. *Neither she nor they were* reprimanded.
3. *He or I am* to be sent abroad.
4. *They as well as I are* willing to go.

上揭の文例に於て 1. の如く and にて主語を繋ぎたる時は勿論複數なれば動詞も又複數爲らざる可からず。而して代名詞の順序は敬意を拂ふ順序によるが故に目前に居る you を第一とし he, and I を加ふ、他の理由なき限り斯くするが普通なり。

neither.....nor ; either.....or にて語を繋ぐ場合其の一つが複數なる場合は其の複數の語を後方に置くが普通なり、第二例の如し。

or にて主語を繋ぐ場合に於ては（第三例）最後の語が主語の役を勤む、故に He or *I* の時動詞は *am* なり。

as well as にて主語を繋ぐ時は最初の語が主語となる故に *they* as well as I の動詞は複數なり。

4. D の文例は最も注意を要す。邦文の『私は彼れの頭を打つた』を英譯するに I struck his head とするは英文の習慣に非ず。先づ I struck him とし扨て何れの個所を打ちたるかを明にする爲めに on the head と附加すべし He caught me by the neck 亦同樣の構文なり。但し注意すべきは既に him 又は me と置きながら其の後に又 on his head 又は by my neck とするは冗漫なれば宜しく on *the* head ; by *the* neck とすべきなり。猶ほ Open your book at page ten. などゝ云ふが如し。

5. It は that と異り指にて事物を指示する心なく唯心中にて事物を指す（事物が眼前になき場合と雖）程の心にし邦文にては it に當る語を全然用ひず、故に邦文を英譯するに當りては充分の注意を要す。英文にては時、距離、天候、を云ふ時に專ら it を使用し又時の事情を指すにも用ふ。

It is ten o'clock. （時）。
It is only a mile to the city from here. （距離）。
It is fine to-day. （天候）。
It is all the same with me. （事情）。

又 it を使用する構文中次の二項を記憶すべし。

1. *That he is a bad man* is true なる文を改めて elegant style になす爲めに it なる形式的主語を使用して眞の主語を文の後方に置くなり即ち It is true that he is a bad man.

2. I am blameful を强語勢に表顯する時 It is I that am blameful. と書く「私こそ非難を受くべきです」の意なり。

It is a good workman that never blunders（決して過失をしないのこそ良職工と云ふべきだが結極其の樣な職工は世界にないと云ふ意味なれば「弘法にも筆の誤りはあるもの」と云ふ程の意）。

II

A 私の考案は斯うです、まア聞いて下さい。
This is my idea ; let me tell it you, please.

B 僕の貴君に申上げたかつた事はこれで全部御話してしまいました。
This is all that I wanted to tell you.

C 彼れは早く起きて一生懸命に働いて又充分に弟達の面倒を見ましたので母親は非常に滿足して居ました。
He got up early, worked hard and took good care of his younger brothers——**all this** greatly satisfied his mother.

D 服裝は紳士だが言語擧動はまるで野人だ。
His dress is **that of** a gentleman, but his speech and behaviour are **those of** a clown.

E 不德を避けて善行をいそしめ前者は人を不幸に導き後者は人をして幸福ならしむるの道なり。
Eschew vice and practice virtue ; **this** leads to happiness, **that** to misery.

F 僕は學生です、それ相當の待遇を受けたい。
I am a student and want to be treated as **such**.

G 郵便爲替にて五十圓本書と同封いたしおき候間御受け取りの赴何卒エス、リチヤードスン氏方へ御通知被下度候。
I beg to enclose herewith a P. O. O. for ¥50. and you will kindly notify Mr. S. Richardson of your acknowledgment of the receipt of same.

H 貴君が萬年筆を御買ひになる御序に私にも一本買つて下さい、貴君のと同じので結構です。
On the occasion of your buying a fountain-pen, please take **one** for me. **The same** as yours will do.

I 彼れの月給はこれ迄幾何でしたか、又月二百圓出すつもりだと言つたら何と云ふでせうか。
What has been his monthly salary, and **what** would he say for my intention to pay him two hundred yen per month?

注意

1. This は例題 A の如く backward reference に亦 B の如く forward reference にも用ふ。

又多くの事物を連ね來りて最後にこれを一括する場合其の事物が個々別々に働く意ならざる限り *all this* と單數にて結ぶが常なり（例題 C）。

2. I prefer the style of Macaulay to *that of* any other writer.
I prefer Macaulay's style to any other writer's.

3. 示指代名詞の such は all such の如く複數に用ひらるゝ事少からず。

4. The same（例題 H）は商用文等に於て same と用ひらるゝ事多し（例題 G 參照）。

5. one と it とを區別せざる可からず。

You have a top and I want to have { it, (=the top which you have). / one, (=a top=another top). }

然れども名詞が全般的意義（普通名詞の六體參照）なる時は常に it を用ふべし。

A fox is sly and *it* can run as fast as a dog.

6. What do you think about it? と云ふべきを how と誤まる可からず（例題 G）又次の文を比較せよ。

{ *What is* your monthly salary? (salary なる名詞を用ふる時)。
How much do you get a month?

7. 例題 E に於て前者後者を譯するに this と that を以てする時 this は其の直ぐ前の語（例題にては virtue を指す）を指し that は始めにあるもの（例題にては vice）を指す。又 the former; the latter を以て譯する場合は勿論 the former は第一のもの（假題の vice）を指し the latter は第二のものを指す。

8. To eschew は惡い事、不幸な事を避くるに用ふ。

9. p. o. o. は a post-office order.

III

A 何と云つたつけ名は忘れたが新造船が棧橋に横附けになつて居ました。
The New ship, the name **of which** I forget, was lying alongside the pier.

B 味方の守備軍は目下有勢なる砲兵の救援を得たる敵に對して勇敢に防戰中なり。
Our garrison is now valiantly defending the place against the enemy **who** is reinforced with a strong artillery.

C 外交調査會は一兩年前設置されたるものなるが近々開散さ

るるやも知れぬとの噂あり。

Rumour says that the Advisory Board on Diplomatic affairs, **which** was established one or two years ago, would be shortly disorganized.

D 人は萬物の靈長にしてあらゆる動物中語り又笑ふことを得るは獨り人あるのみ。

Man is lord of the creation and he is **the only creature that** can speak and laugh.

E 戰爭に於ては人は決して一個の人間たる事を得ざるものにして必ずや大なる破壞機關の一部分として取り扱はれざる可からず。

War, **in which** man is forced to cease to be a person, necessarily treats him as only an item in a great instrument of destruction.

F 彼れは使者を斬り捨てた、そうしてその事が事實上宣戰の布告となつたのである。

He put the messengers to the sword, **which** was in effect a declaration of war.

注意

1. 人に用ふる關係代名詞 who には whose なる所有格あれど物に用ふる which には所有格の形なし、故に whose を代用するか或は of which (目的格の which が前置詞と結合したるもの)を用ふ。(例題 A)。

Countries like Belgium { *whose industries* / *the industries of which* / *of which the industries* } have been destroyed.

2. who (人に用ふ) と which (物に用ふ) なる關係代名詞には意義制限的用法と (例題 B) 附加說明的用法 (例題 C) との二樣あり、前者は關係代名詞と先行辭との間に (,) なきものにして後者は必ず其の間に

(,) を有するものなり。前者は who 以下の節を以て先行辭 the enemy の意義を明確に規定するものなれば who 以下の節は此場合非常に重きをなし是非ともなくてはならぬものなり。後者は which 以下の節を序に說明的に附加したる迄にて輕く且つ之れを省くとも左して大なる不都合を來さゞるなり兩者の心持をよく翫味せざる可からず。

3. That なる關係代名詞は who にも which にも代用され得べしと雖附加說明的の場合には決して用ふ可からず、卽ち關係代名詞 that は (,) を前に置きて使用せざるなり。而して意義制限的の場合と雖夫に示すが如き極端に先行辭の意義が限られたる時は必ず that を用ふべし。

1. This is *the* { *best* / *only* } *book that I know of the kind.*
2. This is *the third boat that I have ever built for myself.*
3. *All the boy that I teach* were present.
4. This is *the very same hat that I lost.*
5. *It is I that am wrong.*

又關係代名詞の前に前置詞を置く時は必ず whom, which を用ひて that を用ひず。(例題 E)。

He is the boy *of whom* I have spoken to you.

This is the house { *in which* we lived. / *that* we lived *in.* }

4. Which の先行辭が時に一節の文全體なる事あり卽ち例題 F を參照せよ。

5. 長文を綴るに當りて and; but 等の接續詞を以て單文を連結せしむるのみにては文章は單調に陷る、故に斯かゝる場合に關係代名詞は文に曲折變化を齎すものなれば此の語の使用に充分習熟せざる可からず。然し此の重寶なる關係代名詞も其の使用の度を過ぐれば文章にたるみを來し所謂飴の如き齒切れの惡るきものを生ずるに至るが故に頗る注意を要するなり、これを救ふ一つの方法は時に臨むで關係代名詞を省略する事なり、然れども關係代名詞の省略には一定の規則ありて存す、卽ち

關係代名詞が目的格にして且つ意義制限的のものなる場合はこれを省略するも差支なし、何となればこれを省くも全文の意義が晦澁に陷る憂なきが故なり、近代英語より見て之れを關係代名詞の省略と云ふも Old English に於ては初めより關係代名詞なきが自然なりしと云ふ。

He is the man [that] I know.
This is the book [which] I bought on the occasion.
He is the person [whom] I have spoken of.

6. 比較
- I *gorget* the boy's name. (忘れて居る、記憶せぬ。remember に反對にして現狀を語る)。
- I *have forgot* the boy's name. (忘れてしまつた思ひ出せぬ、結果をさす)。

練　習

1. 奈良は我國舊都の一にして名所舊蹟少なからず、從て歷史を研究する者には興多き地なり。 (七年、神、高商)

Nara is one of our ancient capitals, which is rich in noted places and historic sites and therefore is a most interesting place for the students of history.

Historic (mentioned or celebrated in history 史上の歷史に於ける in history).

Historical (belonging or relating to history 歷史的の、歷史に關する、of history).

故に Historical painting 歷史畫、Historical study 史的研究。

Historic character 史上の歷史に現れたる人物。

Historical plays deal with historic persons.

故に Historic sites は歷史に現れたる場所今より見れば舊蹟なり。

又次の二つを比較せよ。

- the most interesting place. (一番面白き所)。
- a most interesting place. (甚だ面白き所)。

2. 伊藤君は兄から電報を受取つて昨日歸國した。 (六年、中卒檢)

Mr. Ito who received a telegram from his brother went back to his native province.

3. あの男は不正直な筈がないよ、あの男を知つて居る者は一人も彼の惡口を云はないもの。 (六年、中卒檢)

He can not be dishonest; for no one, who knows him, does not speak ill of him.

4. 我等の一行は朝早く其地を出發して靜岡迄約五里を歩んだ、途中の光景は頗る美しかつた、 (七年、專門檢)

Our party left the place early in the morning and walked as far as Shizuoka, which covered a distance of about five ri. The views on the way were very fine.

5. 吾人が偉人に見ゆるを得るは重に書籍の賜なり。

It is chiefly through books that we can enjoy intercourse with great minds.

6. 早起の習慣を有せずして卓越せる人物となりたる者は稀なり。

Few ever became distinguished who were not in the habit of early rising.

7. 多くの地下鐵道があつて其の上を汽車が二分置きに走つて居る。

There are many underground railways on which trains run every three minutes.

Every 5 days (五日毎に、故に四日おきに)=very fifth day.

8. 私は今度はじめて倫敦に來ました、どうも色々不可解の事が多くて困ります。

This is the first time that I have visited London, and many things puzzle me.

9. 外國語を學ぶには其言葉を話す國に行くのが最良の方法だろう、然し一度も國外に出ないでよく外國語を解し且つ語り得るものあるを見れば學習の道さへ宜しければ强ち洋行するにも及ばないだろう。 (三年、東北農)

In studying a foreign language, it would be the best way to go to the country where it is spoken; but seeing that some people who have never been abroad can understand and speak it well, you perhaps need not necessarily go abroad if you would study it with a proper method.

10. 彼れは愈豫備試驗に及第しましたが勿論まだ事は決りませぬ、中等教員の免狀を得るにはもう一つ試驗を受けねばなりませぬ。

He has just passed the preliminary examination, which of course does not signify the final settlement, and he has to be in for one more examination to get the middle school teachers' license.

第八章 形容詞

例題

I

A 今日の如き新歩的時勢に於て盲目的に舊慣を墨守するは素より愚なることなれども過去の事物一切を擧げて之を排斥し去らむとするが如きも亦取らず。

Of course it is **foolish** to cling blindly to **old** customs in **these progressive** times as now; but I can not support on the other hand **such** an opinion as will do away **all the old** things.

B 面白くて偉い英國小說は幾つも幾つもあるが然し我が國でそれを讀む人はあまりないと或る英語の先生が僕に申しました。

A certain teacher of English told me that there are **many an interesting great English** novel, but **few** people read them in this country.

C 太田君は修學旅行に必要な品々を買ひに街へ出かけました。

Ota is out in the street to buy **some** articles **necessary in the school excursion.**

D 面白くて且つ教訓的でそして若い人も老人もそれを聞きたがるやうな御話なら何の御話でもようございます。

Any stories **both amusing and instructive**, which people **young and old** would like to listen to, will do.

E 出版された小說を何んでもかんでも讀むと云ふ事と心眼を

以て之れを讀破する事とは自ら別事である。

Reading **every** novel published is **one thing** and then **appreciating them is another.**

注意

1. 形容詞は名詞の前に置きて用ふる所謂冠辭的用法（例題 A の progressive; old の如き）と又之れを動詞の補語とし用ふる述辭的用法（A の foolish の如き）の二つあり。

述辭的{He is *foolish*.（自動詞の補語）。
I think him *foolish*.（他動詞の補語）。

冠辭的{He is a *foolish* man.

2. 冠辭的形容詞を二個以上用ふる時は大體次に示すが如き順序あり。

1. 冠詞、指示形容詞、疑問詞。　2. 數量を示す形容詞。
3. 大小を示す形容詞。　4. 形狀の形容詞。
5. 性質、働作、狀態を示す形容詞。　6. 色彩の形容詞。
7. 年齡、新古を示す形容詞。　8. 材料、所屬の形容詞及び固有名詞より來れる形容詞。（例題 B 參照）。

然れども此の順序たる大體は常識判斷によるものにして名詞に密接なる關係ある形容詞を之れに近く置くべきものとす。然しながら多くの冠辭的形容詞を並ぶる事は拙なる書き振りなればなるべく之を避くべし、其の一方法として之を前後に分つもよし。

He is *a great American* statesman, *able and honorable*.

3. 英語にては冠辭的形容詞は常に名詞に冠するが本則なれど場合によりてはこれが後方に來る場合なしとせず、これを列擧すれば

1. 主要語が代名詞なる時。

There is *something white* there.

He gave it to *us all*.

2. 形容詞が副詞句によりて形容さるる時。(例題 C の necessary)。

I have money *enough to buy a pair of shoes*.

3. 名詞を繰り返すを避くる時。（例題 D）。

People *young and old*=young people and old people.

比較{Boys *tall and short*.
A *tall and strong* man

4 Sunday, January 等の語の前に前置詞を置く時。

I will come to you again {*on* Monday *next*.
next Monday.

4. one thing and another (例題 E) は二個の事自ら別なりとの idiom.

5. all と the とを一度に用ふる時は all the boys と all を第一に置くべし然し the whole class なり。又 all の打消は皆無しと云ふ意には非ずして皆ではないの義なり。

比較{*All* the boys are *not* good=some are good and some are bad.
No boys there are good.（良い子供は一人もなし）。

6. {*these* times. 今の時勢。
these days. 近頃。

7. *Such is* life.（浮世はそんなもの）。

Such を to be の述辭(補語)に用ふる時は通常 Life is such とはせずして Such を初頭に置くが elegant なり何となれば such は斯かる場合多少强勢なればなり。又 such につき次の事を注意せよ。

比較{I don't like *such caps*.（斯んな種類のはきらい）。
I don't like *such a cap*.（斯んなのは大きらい）。

前者は一般種類的に漠然と指し後者は此んなのはどれも皆と眼前の或る一個を代表的に指し不平の意あり。

比較{*Such* men *as* they.
He showed me *such* kindness *that* {程の——下より譯して
I am much obliged.（如き）　だから——上より譯して}

8. Certain（內容は明かなるも敢て示さゞる意——政策的に示さゞるにても不必要なるが故に示さゞるにてもよし）。（B 參照）。

9. 比較 { *Many a* day passed. (幾日も幾日もと day をくり返す强き意)、
I have lived here for *many years*, (多年)。

10. 比較 { There are *few* mistakes in this composition. (*not* many ——程多く無い)。
There are *a few* mistakes in this composition——少しある)。

前者も後者も事實上三個の誤謬ありたりと假定すれば、前者は誤謬多からずと庇護する心、後者は少しありと指摘する意。

同樣に又 { little ink. (*not* much) 無き方より見。
a little ink. 有る方より見る。

又 There are *not a few* people in the room. (少なからざる)。
There is *not a little* sugar in the jar. (少なからざる)。

斯の not は動詞を打消すに非ずして a few; a little を打ち消す。

11. Some (一定して居る筈ながら知らぬ意)。
Some one calls to me from the next room.

any は一定しても居ない、どれでもと廣き義故に疑問、打消、假定等に使用さる。

12. both (the two together 兩方とも)。

比較 { *The two* boys had a quarrel. (其の二人)。
Both [the] boys sing well. (兩方とも)。

又 ~~not both は~~ not all の時と同樣にて片方のみを打消す意にて兩方ではないの意なり。

13. every (each *and all*) 各皆。
not every は not all の時に同じく皆が皆といふ譯でないの意なり。

14. another (=an other) もう一つ又外のの義にて外に多くある中より一つ又取り出す義なれど the other は唯別のと最初より定まれる意なり。

比較 { This will not do. Show me *another* hat.
One boy is standing there and *the other* boy is in the room.

II

A 當今の世に於ては最も無慾の人たりとも清貧に安ずるは難し。
It is almost **impossible** even for the most unselfish persons to be well content in honorable **poverty** in these days.

B 當店は常に本場より直接多量の供給を受け居り候へば目下の如き在荷拂底の時期と雖多額の葡萄酒在庫品を有し居り候。
We have a **big** stock of wine even at the present time when the stock is generally **scarce**, being always provided with direct supplies in **large** quantities from the places of production.

注意

1. 形容詞によりては客觀的に用ひらるゝ樣其性質一定せるものあり(例題 A 參照)之を主觀的に用ふ可からず。

比較 { It is *difficult* for me to read such a book. (客觀的形容詞)。
I can hardly read such a book.

{ It is *agreeable* to do it. (客觀的)。
I am *glad* to do it. (主觀的)。

{ It is *impossible* for me to go. (客觀的)。
I am *unable* to go. (主觀的)。

{ He is *disgusting*. (彼奴はいやな奴だ) (客觀的)。
He is *disgustful* with them. (彼れは彼等を毛蟲の樣に嫌がつてる)。(主觀的)。

比 { It is *undesirable* to make acquaintance with him. (客觀的)。
I am not *desirous* to make acquaintance with him. (主觀的)。

{ The sight was *horrible*. (客觀的)。
They were *horrified* at the sight. (主觀的)。

被 { It is very *kind* of you to come to see me so often. (客觀的)。
You are very *kind* to come to see me so often. (主觀的)。

You are kind を It is very kind of you と用ふるは elegant にして氣の利いたる style なればわざ々々斯かる style が起りしならむか。

故に云ふ迄もなく I am impossible: they are undesirable; we are difficult 等は客觀的形容詞を主觀的に誤用するものなればよく注意すべし。

2. 量、度、額、範圍等を示す普通名詞は數量形容詞 (much, many 等) を以て形容すべからず必ず性狀形容詞 (big, large, small, great, high, 等) を以てすべし、これ日本語の用法よりして陷り易き誤謬なれば大なる注意を要す。(例題 B 參照)。

1. the *demand* is *large* (much に非ず)。
2. a *great loss* (much に非ず)。
3. a *small salary* (little は small に代用し得、又七章例題 II 注意 6 參照)。
4. a *big population* (much に非ず)。
5. a *high price* (much にも dear にも非ず dear は品物にのみ用ふ a dear hat).
6. a *big supply* (much に非ず)。
7. a *high degree* (great にてもよし然し much に非ず)。
8. a *big family* (many に非ず)。
9. a *large audience* (many に非ず)。

10. a *big amount* (much に非ず)。
11. a *large number* (many に非ず)。
12. to a *great extent* (much)に非ず。

然れども measurement (尺度) を示す名詞の場合は除外例なり即ち many inches: a few feet 等。

練習

1. 彼れは商買を營むで行くに足る程の大資本を以て事業を始めました。
He started the business with such a big capital that he could well manage with it to carry it on.

2. 露都に於て傳へらるゝ所に由れば墺國政府は獨逸を除くとも單獨に露西亞と講和する用意ある旨聲明せりと。
(七年、大阪、高工)
A rumour now circulating in the Russian capital says that the Austrian Government has announced that it is prepared to conclude single peace with Russia even withont regard for Germany.

{ To announce a book. (聲明——必しも然らざれど稍事物の豫告の義あり)。
To declare war. (宣明——權威を以て事を明かに告ぐる意)。
To proclaim peace. (宣言——呼ばはる義より公示する意味)。

{ To pay regard to appearance. (外觀の如き目に能く見て pay attention to するものには前置詞 to を用ふ)。
To have regard for truth. (人、事、物、等には前置詞 for を用ふ。

3. 久しい間行方不明となつて居つた汽船常陸丸は昨冬獨逸軍艦の爲めに擊沈されたと判明しました。 (七年、東、高商)

S. S. Hitachimaru missing for a long time is now proved to have been sunk last winter by a German warship.

〔The〕 S.S. Hitachimaru=~~The steamship~~ Hitachimaru.

4. 歐洲戰爭が何時終結するか今の所では誰も豫言することは出來ぬ。 (六年、神、高商)

It is impossible now for anybody to foretell when the great European war will come to an end.

5. 日に一時間宛一事を撓ゆまず專心にやれば宛も小さな種子を播くが如く年の暮には一大收穫を得ん。

One hour a day persistently devoted to one thing, like a small seed, will yield a large increase at the year's end.

increase 此處にては收獲の義なり。

6. 當市に於て勞働に從事する人々に讀書の趣味を鼓吹せんが爲めに某富豪は數百冊の書籍を神戸圖書館に寄贈したり。 (七年、神、高商)

A certain millionaire presented the Kobe Library with several hundred books with the object of inspiring the workmen labouring here in this city with the taste for reading.

{to inspire a man **with** courage.
{to inspire courage **in** a man's heart.

{**with** the object of.
{**for** the purpose of.

{to present one with something.
{to present something to one.
{to present one something.

7. 近頃彼の人の本があまり出ません、恐らく本を書くひまがないのでせう。

Lately few books of his have been published; he finds little time for writing books, I suppose.

8. 何か面白い小說を讀んで見たいのですがどうも讀み甲斐のあるやうなのが見附かりません。

I want to read some interesting novel; but no novel I find worth reading.

{The book is worth reading.
{The book is worth while to read. (暇を潰して讀む價値)。

9. 此の三人は類の少くない利發でしつけのよい好い娘でよよ。

These three are exceptionally nice and intelligent girls of good breeding.

10. 私は非常に古い頗る珍本をほり出した。

I could find out a very old and a most rare book.

Herba boy of bad breeding

第九章　動詞

例題

I

A　歐洲より歸米せんとする大統領ウヰルスン氏を載せたるジョルヂ ワシントン號よりの無線電信は艦の無事を報し併せて天候次第に靜穩に向ひつゝある由を通告せり。

A wireless from the George Washington which has taken on board President Wilson on his homeward voyage from Europe says that all is well and the weather is moderating

B　晴雨計は晴天には昇り雨天には降る。

The barometer rises for fine weather and falls for rainy weather.

C　帝大の競漕會は非常な人出でしたが昨日隅田川でやりました。

The regatta of the Imperial University, which drew a great number of visitors, was held on the Sumida yesterday.

D　少年は父の高い椅子に納まつて亞米利加の叔父樣が送つてよこした繪本見はじめた。

The boy seated himself on the high chair of his father's and began to study the picture book, which his uncle in America sent to him.

E　書狀又は端書は全國如何なる地へも均一料金を以て送る事が出來る.

We may send a post-card or a letter to any part of the country at uniform rates.

F　健康は富に勝る、吾人をして最も幸福ならしむるものは健康なればなり。

Health is better than wealth; it is health that makes us the most happy.

G　家は石材、木材、煉瓦などで作る。

Houses are built of stone, wood, brick, etc.

H　其處に居合せた人々は皆私を見て笑ひましたが、何で笑つたのかわかりませんでした。

All the present laughed at me; but I could not make out what they laughed at.

I　露西亞には讀み書きが出來ぬ者が澤山あると云ふことです。

They say that there are many people in Russia who can not read and write.

J　此の萬年筆はインキが漏れなくて其がよく書ける。

This fountain-pen is non-leakable and writes well.

K　吾人は彼れが斯く種々なる困難を伴ふ地位に任命されたるを羨むものに非ず。

We do not envy him this appointment, which is accompanied with several troubles.

注意

1. 例題 A の take, say; C の drew; D の study, seated; E の send; F の make; K の envy 等の如く主語の爲す働作の及ぶ目的物たる目的語 (take の場合は President Wilson; say の時は that 以下の句; drew の時は a great number 等) を有す動詞を他動詞と云ひ、之れに反して例題 A の is moderating; B の rise; fall; I の read and

write; J の write 等の如く主語の動作が主語のみに終り他に及ばざる意味の動詞を自動詞と云ふ。

2. 而して自動詞にも二種類ありて B の

The barometer *rises* or *falls*.

の如きを完全自動詞と云ひ又 A の

all *is* well 又は

You *look* white. (君は顏色が惡い) に於ける is 及び look の如く well 若しくは white なる補語(補語は名詞、形容詞及び其の相當語なり)と結合せざれば其の意義完全ならざる自動詞を不完全自動詞と云ふ。

3. 補語は又他動詞にも結び附きて其の意味を補ふ即ち F の

Health *makes us the most happy*.

に於て happy なる補語は make なる他動詞の意味を完全ならしむる役目を勤む。尙ほ一例を示せば He *called me a fool*. の a fool.

4. 他動詞には主動詞、受動詞の變化あり、變動詞は *to be*＋過去分詞の形式を取る。

He *wrote* a book. (主動)。

The book *was written* by him. (受動)。

日本語に於ては受動詞を用ふる範圍甚だ狹く人間動物等活動するもののみに限る、例へば手紙又は書物の如き語に於て「此の手紙は誰れに書かれたか」とは云はず又「此の書物は何某によりて書かれた」などゝも云はざれど英語にては斯かる場合主動、受動何れにも言ひ表はさる。

By whom *was* the letter *written*?

The Book *was written* by Mr. A.

{ The street *was reached* by the fire.
{ 火事は其の街まで燃えて來た。

又驚く、恐るゝ、氣に入る、信ずる、呆れる、等精神の働きを示す語は日本語に於ては人間を主とするが故に皆主動詞なれど、英語に於ては反對に其の精神の働を生ぜしむる外界の事情に重きを置くが故に皆受動詞なり。

I *am surprised* to hear it.

They *are frightened*.

We *were pleased* to see him,

She *was convinced* that he is honest.

Aren't you *astonished* by the news?

尙ほ次の二文を比較せよ。

{ 1. Houses are *built* of stone, wood, brick, etc. (建てらるゝ)。
{ 2. The houses *are* built of granite. (出來て居る)。

1 は單に動作を示すものにして受動詞の文なり。

2 は狀態を說明する意にして are なる不完全自動詞に built なる補語が結合せる形なり。前者は built 重く後者に於ては are 重し。

5. 又他動詞中には二個の目的語を有する與格動詞なるものあり。日本語に譯して「ヲ」の假名を有するものを直接目的と云ひ「ニ」の假名を有するを間接目的と云ふ。例題 K の

We do not *envy him this appointment*.

に於て This appointment は直接目的にて him は間接目的なり。

而して間接目的の位置を動かさむと欲する時は必ずこれに前置詞を附すべし、これ其の間接目的語たる事を明瞭ならしむる爲なり。即ち

{ I gave her the book.
{ I gave the book *to* her.

然れども兩目的語が共に代名詞なる場合は意義自ら明なれば次の如く二樣に書きて差支なし。

{ I gave it to her.
{ I gave it her.

又次の文例の如き場合をよく玩味すべし。(例題 D)。

{ 1. He began to study the picture book, which his uncle sent *to him*.
{ 2. He began to study the picture book, which his uncle sent *him* to the summer resort.

which なる直接目的語が其位置を離れて前方に出たるのみなれば him

ば理論上其儘にて前置詞を要せざれども、又轉つて考察すれば to him とする方意義の明瞭を加ふる感なしとせず、故に 1. の如く to him とする方多し、然れども 2. の如く尙ほ其の後に to the summer resort なる句の來る亦如き場合には單に sent him とする方宜し。

與格動詞を受動詞に爲す場合には其の兩目的語の中何れをも主語となし得。

He told me a story. より

{ *I* was told a story.
{ *A story* was told to me.

6. 動詞の多くはその使用の意義如何によりて他動詞にも自動詞にもなる（後段に於て說明する如く）ものなれども中には他動詞にして自動詞の意義なきものあり、斯かる動詞を自動詞の意義に使用せんと欲せばこれを受動詞にするか或は又主語と同じものを目的語として再歸動詞の用法によらざる可からず。即ち

to seat には「坐らせる」の意のみありて「坐る」の義なし。

He *seated the doll* on the small chair. （坐らせた）。

これを自動詞的意義に用ゐんとせば

{ He *seated himself* on the bench. （坐つた）。
{ *He was seated* on the bench. （坐つた）。

尙ほ此の種の例を擧ぐれば

{ I *established myself* as a banker.
{ I *was established* as a banker.

{ Boys *amuse themselves* by running fast.
{ Boys *are amused* by running fast.

{ He *concealed himself* in the wood.
{ He *was concealed* in the wood.

{ I *will revenge myself* upon him for the insult.
{ I *will be revenged* upon him for the insult.

此等の動詞も皆普通の他動詞として用ひらるゝは言を待たず。

He concealed his children in the wood.

I will revenge you upon him.

又普通の他動詞も再歸的に使用し得ることも勿論なり。

{ I made a box.
{ You will *make yourself* sick by overwork.

{ He killed a dog.
{ He *killed himself*.

7. 動詞の多くは其の使用の如何によりて他働詞にも自働詞にもなる。

{ Never *tell a lie*. （他）
{ Every shot *told*. （手ごたえがあつた、當つた）（自）

{ He *speaks English* very well. （他）
{ Will you *speak* with him? （自）

{ He quietly *walked his horse*. （他）
{ He *walked* along the bank. （自）

然れども又本來他動詞なる語を自動詞に又元來自働詞なる語を他動詞に使用する事多し其の經路の一般を云へば左の如し。

8. 自動詞を本來とする語が他動詞に變ずる場合は概ね左の三つとす。1. 事を爲さしむる意味即ち所謂使役動詞的用法の時。2. 動詞と同語義の名詞即ち所謂同語義目的語を取る場合。3. 自動詞と前置詞と結合して所謂合成動詞となる場合。

1. { He *returned* to the city. （自）
{ He *returned the book* to me. （他）

{ We *play* in the room, （自）
{ Let us *play* ball. （他）

{ The troop *marched* upon the town. （自）
{ The general *marched his men* out of the castle. （他）

2. { Last might I never *dreamed*. （自）
{ Last night I *dreamed a good dream*. （他）

{ He *died* at eighty years. （自）
{ He *died a miserable death*. （他）

{I *live* in the country. (自)
{I *lived a happy life*. (他)

3. {He *arrived* safe. (自)
{He *arrived at* the town. (他)

{Do not talk or *laugh* in the class-room. (自)
{They *laughed at* her. (他)

合成他動詞は勿論受動詞になし得。

No resolution *was arrived at*. (何等の決議を見ざりき)

I don't like *to be laughed at*.

9. 本來他動詞の語が自動詞となる場合次の如し。1. 動詞の意義が一般的に廣義なる場合。2. 動詞の意義が受動的となる場合。

1. {I *wrote* a letter and he *read* a book. (他)
{He can not *write and read*. (自)

{Yes, I *see it*. (他)
{We *see* with the eyes and *smell* with the nose. (自)

2. {I never *taste wine*. (他)
{It *tastes* nice. (自)

{I *wrote a book*. (他)
{The pen *writes* well. (自)

{I *read the book*. (他)
{The telegram *reads* thus:—..... (自)

練　習

1. 氷の拂底が直に影響するのは夏冬通して氷を用ふる魚市場と病院とである。 (四年、東、高商)

It is in hospitals and fish-markets where ice is used all the year round that the scarcity of ice is keenly and immediately felt.

2. 私は二月十九日に生れたのですから誕生日は四年に一度しか來ません。 (五年、東、高商)

I was born on the 29th of February, so my birth-day comes round only once every four years.

3. 世の中は善事をなせば喜を以て酬ひられ惡事には悲を齎すやううまく出來て居る。

The world is so arranged that goodness brings joy and evil sorrow.

4. 日本人の英語を研究するや日もこれ足らずと雖若し彼等にして更に賢明なる方法に倚らんか其の勞する所今より少くして猶ほよく遙に多大の效果を收め得べし。

The Japanese study English very hard but their labours would be better repaid if they studied less hard and more wisely.

5. 有名なるバートランドラツセル氏は人間の財物を所有せんとする慾念を卑劣なる心事と思意すと云はる。

The famous Mr. Bertrand Russel is said to consider man's love of possession a mean motive.

6. ヨーロツパよりシベリヤ鐵道にて東方に向へば二週間あまりにして日本へ歸着する事を得べし。 (六年、水産)

If you leave Europe for the East by the Siberian Railway, you will be able to get back to Japan in a little more than two weeks.

7. 有名なる獨逸の哲學者カントは毎日降つても照つても散歩に出ることにきめて居た。

Kant, a famous German philosoper, made it a rule to go out for a walk every day rain or shine.

8. 目的地へ着いたら何をおいても電報を打つてくれ給へ。
Mind you the first thing you have to do on arriving at the destination is to send me a telegram to the effect.

9. 彼の男はどちらかと云へば無口の方だが、一度口を開くとなか々々要領を得ます。
He is rather a man of few words; but his mouth once opened, he speaks always to the point.

10. 決して食ひ過ぎ飲み過ぎをするな。
You should never overead or over-drink yourself.

11. 若し窓が開いて居るなら入口の戸を開けないでよろしい。
The door need not be opened, if the window is open.

12. 此の名稱はいけない、何か外に呼び方はなからうか。
This appellation won't do; can't we call it something different.

13. 勞働者があの贅澤を罷めなければ迚も勞働問題に對して本氣になれない。
I could not interest myself in labor problems unless laborers would deny themselves those luxuries

14. 僕は三晩續けて不思議な夢を見た
I dreamed a strange dream three nights in succession.

15. 前便申上 書籍の發送方暫時御見合せ下され度候。
I beg you to postpone for the present the forwarding of the book which was referred to in my last letter.

例題

II

A バーミンハム大學校長サー・オリヴアー・ロツヂ氏は佛蘭西の戰場にて戰死せる其の子レイモンドの幽靈を見且つ言葉を換はした事を公言して居ます。
Sir Oliver Lodge, the principal of Birmingham University claims to have seen and talked with the ghost of his son Raymond who was killed on the battlefield of France.

B ヤア彼の男が居た居た、こちらへやつて來るぞ、子息の手を引いて。
O, I see him now; he comes this way. He leads his son by the hand.

C 殆んど凡ての法則には皆除外例があります。いたずら小僧が偉い人物になる事があるとて別に不思議はないんでせう。
Almost every law has its exceptions; there is no wonder a bad boy sometimes makes a great man.

D 太田君は大變上手に英文を作ります、英字新聞を幾種類も取つて居ます。
Mr. Ota makes English compositions very well; he takes [in] several English papers.

E 軍勢は愈々戰場に着いた、皆靜かに指揮者の命令を待つ、敵は傾斜の極めて緩漫なる丘陵の上に扣へて居る。
The troop at last arrived at the field. They quietly

wait for the leader's orders. The enemy **are** upon the hill, the **slope** of which is very slight.

F ハイ、彼れは明早朝當地を發して京都へ向ひます。
Yes, he leaves for Kyoto to-morrow early in the morning.

G 紐育電報によれば米國に鐵道同盟罷業が起つたさうだ。
I **hear** a New York telegram **says** that a railway strike occurred in America.

H 先生はベンチに腰をかけて居ます、そして少年等がボール投げをして居るのを見て居ます。
The teacher **is sitting** on the bench and **is watching** the boys who **are playing** ball.

I 列車がもう來ますから後へよつてください。
Please stand back; the train **is just coming** in.

J 此の本の著者はまだ高齢で生きて居ますよ、そして今又新しく本を書いて居ます。
The author of the book **is still living** at his advanced age and **is writing** a new book.

K おや々々僕は時計を家へ忘れて來た。
O dear me. I **have left** my watch at home.

L 解散當日に於ける原首相の衆議員に對する態度に關しては余は前に充分之を述べたり。
I **have said** much as to the attitude of Premier Hara before the House of Commons at the time of the dissolution.

M 世界の政治狀態は近年次第に各國民にとりて最重要事項となり來れり。
The world politics **have been making** hemselves the most important things with every nation.

N 首相は議會に於て普通選擧案の提出は時期尙早の旨を斷言せり。
The Premier **pronounced** in the House of Representatives that it **was** premature to introduce the Universal Suffrage Bills to the Diet.

O 先週の日曜日迄何の返事も來なかつたから私は至急に又一昨日手紙を出しておきました。
Up to Sunday last no answer **had been** given to my letter, so I **sent** a second letter in haste the day before yesterday.

P 僕等は知らぬ間に敵に包圍されてしまつて居た、實際咄嗟の間でした。
We **had been encircled** by the enemy before we **knew**. Indeed, it **came** so suddenly.

Q 彼れが常に魔法の本を讀むで居たと云ふ事が明かになりました。
It **was discovered** that he **had been reading** a magic book.

R 若し私の授業を參觀して下さるなら、何卒明朝十時に來て下さい、丁度教授して居る最中ですから。
If you **will visit** me at our school, please come at ten o'clock to-morrow morning. I **shall be teaching** the boys then.

S 私は此の年末で滿十年此の店に勤める事になります。
I **shall have served** in this shop for full ten years at the close of this year.

T 職工達は今晩の六時迄働くと三十時間ぶつとうしに働くわけです。

The workmen **will have been working** thirty hours running without rest by six o'clock this evening.

注意

1. 動詞の現在時は人間の言語文章に於ける時の基礎にして或る場合には(後段に示せる如く)過去時も未來時も現在時に引き直さるゝこともある程にして最も肝要なる時の形なり。殊に英語の現在時と邦語のそれとは比較上大なる注意を必要とすべし。

英語の現在時は大體左の四種の場合を示す。

A. 現在の事實狀態を表はし B. 現在の動作を示し。C. 現在の習慣を云ひ又 D 普通の眞理を叙す。

A, She *loves* them. (愛して居る)。

We *know* her. (知つて居る)。

I *like* it. (好いて居る)。

I *have* a book in my hand. (持つて居る)。

注意すべきは此の種の動詞は現在の事實狀態を示すものにして所謂進行形(眼前に於ける或る動作の繼續を示す)と混同すべからず、邦語の「居る」と云ふ語に誤られてこれを「走つて居る」(He is running.) など云ふ場合と混同して She is loving them など云ふは誤謬なり。

但し

I arrived here yesterday night and am *having* a pleasant time now. なる文に於ては一時的繼續の動作たる意を以て I am having と用ひたるなりなり。having=enjoying なり。(例題 A 參照)

B. 例題 B の see; come; lead. は現在の動作を直叙せるものにして I see. を I am seeing と進行形に誤る憂はなからむも He comes; he leads. を He is coming 又は He is leading his son by the hand など云ふ誤る事はあるべし。He is coming は彼は將に來んとして居るもう來るだらうの意にし He comes は目のあたり此方へ來る狀態を見ての言ひ

り。故に

O, the train *comes*, the train *comes*. (あゝ汽車が來た來た)。
The train *is* just *coming*. (汽車はもうすぐ來ます)。

(尙ほ此の事につきては後段に說明する處あるべし)。而して He *is leading* his son は段々此方へ連れて來るなどの意にして動作の繼續を示す言方なり。He *leads* his son は狀態の直叙にして兩文の意義の差に能く注意すべき事なり。尙ほ一例を示せば

I *take up* this book, *open* it at page one and *read* it.

C. 例題 D の make, take は日常の習慣的動作を述べたるものにして、これも時に誤りて進行形に作る憂ひあり。「貴君は何新聞を取つて居らつしやいますか」は What newspaper *do* you *take*? にして *are* you *taking*? としては誤謬なり。

I *go* to school. (日常習慣)。
I *am going* io school. (一時の動作)。

又

Do you *go* to school? (日常習慣)。
Are you *going* to school? (一時の動作)。
Will you *go* to school? (意志)。

D. 例題 C の has, is, make は普通の眞理を叙するものにして普遍不易の眞理事實は現在、過去、未來によりて變化せざるものなれば常に之れを時の基礎なる現在時を以て示すは當然の事なりとす。

Time *kills* and *cures*.
The earth *goes* round the sun.
Two plus two *is* four.

2. 例題 E に於て arrived は過去時の形にして wait; are に至つて急に現在に落したるは過去の事實を叙するに當り、arrived 迄は普通に過去時を用ひ來りたるも其後の叙事に至り過去の事を宛も現在に起りたる如く讀者の眼前に髣髴せしめむが爲めに故意に現在の時を使用せるなり、斯く用ひられたる現在時は叙事に大なる力を與ふるものなれば用もなきに無暗に之を濫用すべからず。

3. 上述の如く叙事に力を與へむが爲めに過去時を現在時に引き直して用ふると同時に又之れと反對に未來時を現在時に引き直して用ふる事あり、元來未來に起るべき動作ながらそが確定の事實にして宛も現在起る事の如く見做し得る場合なり。(例題 F 參照)。

但し斯かる場合未來を示す副詞(例題に於ける to-morrow の如く)あるが常にして come, go, leave, start 等來往發着の動詞は皆此の種の使用を受く。

O yes, I *come* next Sunday.

Now I *am* off; it is late in the night. (もう御暇にしませう)。

又副詞句に於ては常に現在時が未來時に代る。

Will you stay here till I *come* back?

Get up before the sun *rises*.

4. 更に例題 G の hear, say の如く本來完了時 (*have heard*; the telegram *has said*) を用ひて表はすべきが至當なる場合に完了の意義よりは寧ろ現在の狀態事實に重きを置く時、完了時に代ふるに現在時を以てす。

I *come* to see Mr. Rochester.

5. To be+現在分詞を以て進行形を作る。而して動詞の表はす動作が本來繼續的のもの (to read; to run; to walk; to play 等) と又一時的のもの (to die; to set; to begin; to leave 等) との二樣あり前者の進行形は動作の繼續進行しつゝあるを示し後者のそれは事の將に起らむとするを示す。

I *am reading* the paper. (今新聞を讀むで居ます)。
The sun *is setting*. (太陽は將に沒せんとす)。

繼續の意の進行形が多く從事の意に用ひらるゝは當然の事なり。

I *am preparing* for to-morrow's lessons.

現在時進行形は元來現在眼前に於て一時的に事の進行しつゝあるを示すが當然なれど、又長時日に渡る動作を眼前の動作と見做して現在時進行形を用ふるは殆ほ邦語に於けると同樣なり。

What *are* you *doing* now? (眼前)。
He *is doing* business at Osaka. (目下)。

然し長時間を示す副詞 (all day; three months; a year など) を明瞭に用ひたる場合は進行形を用ひず、(但し完了時の進行形は此の限りに非ず)。

Rip Van Winkle *slept* for twenty years. (was sleeping を用ふ可からず)。

The baby *kept crying* all the night. (was crying は不可)。

尙ほ次の文を比較せよ。

The teacher *is standing* at the door. (只今立つて居る)。
The tower *stands* there. (常に立つて居る)。

I *was* just *thinking* so. (そう思つて居る所でした)。
I *thought* so. (そう思つて居ました)。

又 I love you. I know him. の love; know が進行形を存せざるは本來日常習慣を示す動詞にして一時的動作の進行を表示し得ぬ故なることは現在時の說明條下に述べたるが如し。

發着往來の動詞 leave; start; arrive; go; come. 等の現在時が未來の副詞と共に用ひらるゝ時は確定的に未來に起る事を表はし得る事は前段述べたる所なるが、何故に然るかと云ふに本來此等の動詞は一時的動作を示すものなれば其の進行形なる to be leaving; to be arriving 等が將に事の起らむとするを示すが故に一種の未來にして I *am leaving* to-morrow. を確定的に I *leave* to-morrow と云ひ得るが故なり。又 going と coming とは二樣の意に用ひ得、左の文を比較せよ。

I *am going* to him. (I am on the way) (行く途中です)。
I *am going* to him when I have done the task. (I am going to go) (つもりです)。

6. 現在完了時は文法上現在時の一種として取り扱ふべきものにして或る動作が現在に於て完了せるを示す。而して其の完了に四つの種類あり。

1. 完了其のもののみを表す場合。

Now, we *have done* it. (例題 L)。

1. 動作の完了を表はしながらも完了其のものよりも寧ろ其の完結せし時までの動作の繼續の方に重きを置ける場合。

I *have lived* here for ten years.

3. 完了には相違なきも寧ろ完了せる動作の結果そのものに重きを置ける場合。(例題 K)。

He *has gone*. (行つて今居ない)。

4. 完了せる動作の結果が人の頭に經驗とし殘れる場合。

I *have* often *been* there. (度々行つたことがある、經驗がある)。

此の故に過去を意味する副詞と共に現在完了時を使用すべからず。

I *have met* him *yesterday*. (誤謬)。

When has he *arrived*? (誤謬 When did he arrive? なり)。

又英語の過去時も現在完了時も共に日本語にては「何々した」と譯し得るが故に往々次の如き誤謬に陷ることあり。

Have you brought your book?——Yes, I *brought* it. (I brought は誤りにして I have brought it とせざる可からず。

但し to-day, this morning; this week; this month; lately 等の副詞は其の時の心持次第にて過去時とも又現在完了とも使用し得。

I *wrote* / I *have written* } a letter *this morning*.

7. 例題 M の have been making は現在完了時進行形にして現在まである動物の進行繼續し來れるを示す。故に此の形たるや彼の現在時にて日常の習慣を示し從つて又其の完了時に於て專ら事の繼續を示すが如き動詞 (to love; to know; to have; to live; to resemble 等) に於ては使用されざるものとす。これ其の必要なければなり。

I *live* here. (住んで居る)。
I *have lived* here for five years. (今迄に十年住居し來つた)。

住居の意の to live には現在時進行形及び現在完了時進行形なきは勿論なり。

又現在完了進行形も現在時進行形の如く或る事に從事する意に用ひらるゝは當然なり。

Have you *been writing* a book of late?

8. 過去時の形 (例題 N 等參照) は專ら過去の事實を云ふに用ふるものにして殆ど總ての叙述說話は此の形を用ふるものなれば其の用途非常に廣し。

9. 過去時進行形は過去の或る時間一時動作の進行繼續しつゝありしを示す。

I *was reading* a book when you called.

10. 過去完了時は過去の或る時に於て動作の完了せる事を示すものにして、過去時の過去完了時に對する關係は猶ほ現在時の現在完了に對する關係の如し、而して又此の過去完了時は 1. 完結、2. 繼續、3. 結果、4. 經驗を示すと宛も現在完了時の時の如し。

1. He *had* just *finished* it when I entered the room. (完結)、(例題 O)。
2. I was glad to see him, for it *had* long *been* my wish. (繼續)。
3. I knew that he *had gone* out. (結果)。
4. I told him that I *had* often *seen* her since. (經驗)。

玆に注意すべきは、過去完了時を現在完了時の如く文法に從ひてあまり嚴密に使用する時は却て文章を煩雜拙劣ならしむる憂あり、左に理論上過去完了時を用ふべきも實際上は却て用ふる必要なく、否寧ろ之れを使用せざるを可とし、凡てこれを過去時の形に引き直すべき場合を概說すべし。

二つ若しくはそれ以上の動作を發生の順序に書き列ねたるか又はこれを than, that, before, after, but, and 等の接續詞を以て繋ぎたる場合に其の發生時の先きなると後なるとが別に問題とならざるか或は前後の文章によりて自明なる時は凡てこれ等の動作を一律に過去の出事としてながめ皆過去時を用ひて之を云ひ表はし、煩雜丁寧に過去完了時を用ふるの拙きを避くべし。(例題 P)。

I gave him the hat which I *bought* (又は had bought) at Osaka
He arrived much earlier than I *expected*.

Some people knew that he *fled* (又は had fled) out of the country.

They *started* before the orders were given.

I went to see him after I *came home*.

It occurred after the class *was dismissed*.

I *went* to the place, *saw* him in his house, and immediately came home.

I *bought a* pencil, but gave it to my son.

11. 例題 Q は過去完了時進行形にし過去の或る時まで或る動作の繼續し來れるを示し、He had been reading a magic book. は魔法書研究に從事せるを意味す。

12. 例題 R の will visit は未來時にして此場合は主語の意思をも示し御出下さる思召ならばの義なり。

13. R の shall be teaching は未來時進行形にして未來に於て或る動作が一時的に繼續進行しつゝあるを示す。

14. 例題 S の shall have served は未來完了時の形にして未來の或時に或る動作の完了するを前以て示す義なり。

15. 例題 T の will have been working は未來完了進行形にして未來の或る時まで或る動作の繼續するを意味す。

16. 上來述べたる十二の時の形を取り合せ用ひて文章を作爲するは概ね常識的判斷によりて大過なからむも二三注意すべき事項を忽にすれば文法上時の矛盾不一致を來す恐れあれば左に示す時の一致の法則の要點に注意すべし。

根本法則としては唯一事項を記憶すれば足る、即ち文章の主節が過去時なる時は從節に於て過去時（完了時も含む）を以て應ずべし、これ日本語の語法と異る所なれば充分の注意を要す。

He *said* that he *was* ill.
彼は病氣であると申しました。

He *promised* he *would come*.

I *told* him that she *had lost* her watch.

We *asked* him if she *had returned*.

但し普通不易の眞理事實を述ぶる場合は此の法則を守る必要なきは當然のことゝす。

He *discovered* that the earth *is* round.

There *was* a great flood in Holland, which *is* a very flat land.

又 *as* 及び *than* の後には如何なる時の形來るも差支なし、何となれば此等比較に用ふる接續詞は時の現在、未來、過去、の中何れの二つをも任意に取りて比較し得ればなり。

He *did* it better than { you *have done* it. / you *did* it. / you *will do* it. }

愛に又注意すべきは when, till, before, as soon as, 等の如き副詞的（時を示す）の接續詞に率ひられたる副詞句に於ては未來完了時の代りに現在完了時を使用するものとす、之れ尙ほ注意 10 の條にて述べたる過去完了時を過度に嚴密に使用せず却つて文章を拙惡ならしむると同理由に基くものなり。

When you *have written* the letter, you will have it posted.

（其の手紙を書いてしまつたら出して貰ひなさいね）。

上例に於て When you will have written the letter.....などゝせざる樣注意すべし。

練習

1. 好景氣の爲め一般商品の價格漸次騰貴の模樣なり。
   Owing to the general business briskness, the market prices of commodities indicate a gradually upward tendency.
2. 我國よりの輸出貿易の總額は歐洲戰亂の爲めに非常なる高に上れり。（七年、神、高商）
   The total amount of our export trade has exceedingly increased on account of the European war.
3. 猫は常に美味を食する時は鼠を捕らず。（五年、商船）

A cat will not catch rats when well-fed.

4. 日本政府は西比利亞に於ける一般狀況を改修せんとしてあらゆる手段に訴へつゝあり、然れど現時の狀態を以てすれば今後同地との商業關係の如き頗る寒心すべきものあり。
The Japanese Government is employing every possible effort to remedy the general condition of Siberia, but the present situation is so broken there that the prospect of commercial relations with the place makes us nearly hopeless.

5. 月蝕は午後五時半に始まり十一時十分過に終る筈です。
The eclipse of the moon is to begin at 5.30 p.m. and is to be over at 11.10.

6. 僕は僕の健康の勝れざる主要原因は怠惰に日を送りたる事に外ならざる儀に今更ながら氣づき申候。
I see now at last that the idle life itself has been the main cause of my ill health.

7. 木村君は只今仕掛けた仕事を終へ次第大阪を立つて東京へ向ふつもりだと云つて居ます。
Mr. Kimura says that he will leave Osaka for Tokyo as soon as he has finished the task in his hands.

8. 同氏は其の演說を結ぶに財界の劇甚なる動搖程不祥なる事はなしとの言を以てせり。
The gentleman concluded his speech by saying that nothing would be more unwelcome than the violent fluctuation of the market.

9. 大戰の結果英佛の交誼昔日に比して更に親密の度を加へたるは敢て云ふを用ひず。

It is needless to say that the anglo-French friendship has been cemented more than ever, as a result of the great war.

10. 所謂禁酒問題は今や米國に於て一切の議政壇上の諸問題以上に火の手を上げつゝあり。
What is called the prohibition question is now a bigger issue in American than any other one disputed on the platform.

11. 君、用心しなくちやいけないよ、君が來月下旬に大阪へはいる頃には虎烈刺が大變になつてゐるだろう。
You must take great care of yourself, my friend, for the cholera situation in Osaka will have become alarming by the end of next month when you are to enter the city.

12. 巡査が駈けつけた時にはもう盜賊は逃げて居た。
The thief had taken to flight, when the policeman came rushing.

13. 今やニコライエフスク凶變は日本全土を通じて悲憤の的とならむとするの形勢にあり。
The Nikolaievsk disaster is now becoming the focus of national sorrow and indignation throughout the whole country of Japan.

14. 總選擧の結果政友會は又もや衆議員の絕對多數を制することゝなれり、然れど不完全なる憲政政治の下に於ける多數黨が必ずしも民意を代表するものに非るや明かなり。
The Seiyu-kai has come again to command an absolute majority in the House of Representatives as a result

of the general election; but it is self-evident that a majority party does not always represent the nation, under an imperfect constitutional government.

15. 人種暴動又起る。

二十一日市俄高來電——人種暴動あり、二名の白人巡査及び一名の黑人巡査殺され、多數の黑人負傷せり、之より先き黑人は所謂『亞非利加へ歸還』の運動に贊成の示威運動を行ひ米國々旗を燒棄せりといふ。

A Racial Disturbance again.

Chicago, 21st:——A racial riot broke out. Two white policemen and a black one were killed and a few negroes wounded. The black, it is said, previously took to a demonstration for what is called "Back to Africa" movement and went as far as to burn up the Stars and Stripes.

例　題

III

(Part I)

A 所で君食堂へいつて一杯やりませうかね。

Well then, **shall** we go and have a drink in the dining-car?

B それでは御機嫌よろしく。

Well, I hope you **will** have a happy journey.

C 御構ひなくば父に會ひに御出なさい、父は喜んでお目にかゝるでせう。

Come and see my father, if you **will**. He **will** be very pleased to see you.

D きつと此の小說は僕に面白いでせう、家へ歸つたら直ぐに讀むで見ませう。

I am sure I **shall** find this novel interesting. I **will** begin to read it at once when I have got home.

E 先づ御事情を承りませう、何も彼も打ち開けていたゞかなくちや。

I **will** first have your tale; you **shall** tell it me all.

E 必ず正午迄には來て貰はなくちやなりませぬ、尤もあの男は自分で遲參しないと云つては居ますが。

He **shall** be here by noon. He says he **shall** be in time though.

注意

未來を示す助動詞 *shall, will* は大體下に示すが如き三つの意義を有す。

1. 純粹未來……I (we) shall; you will; he (she, it, they) will.
2. 主語の意向……I (we) will; you will; he (she, it, they) will.
3. 話主の意向……I (we) will; you shall; he (she, it, they) shall.

【註】

(イ) 自稱の *shall* は意志を示さゞるが故に時には慇懃を示すに用ひらる。Yes, sir, I shall come. は自己の意志を表明して I will と云ふべき所をわざと避けて婉曲に云ふ慇懃語法 (Polite speech) にして特別なる交際語的用法なれば例題 D の I shall find the novel interesting. の shall の如く純粹未來にして意志の表明全然なき場合とは自ら異るものなり。

(ロ) 自稱の *will* は D. E. の I will begin to read it. 及び I will first have your tale. 等に於ける如く主語 I の意志を表明せるものにし

て I will begin の場合の如く約束を爲はすに傾く事多し。

We will play baseball. は子供の團隊などの餓鬼大將か自己の意志を團隊に强ゆる心なり。

Now we will play baseball. (さァベースボールをするぞ)。
Now let us peay baseball. (さァベースボールをしやうや)。
Now we shall play baseball. (さァベースボールをしませう)。
Now shall we play baseball? (ほんとにベースボールをするの?)。

又 I (we) will の場合に於ては主語たる I, we は同時に話主なれば理論上主語の意向話主の意向と二つに別れたれど自稱の時に限り此の兩者が一致して實際は一つとなることに注意せよ。

(ハ) されば實際上二樣の用法あるは *You will* と He (she, it, they) *will* のみなり。

You *will* be a great soldier.
He *will* grow tall. } 純粹未來。

Come at once, if you *will*.
He says he *will* do it. } 主語の意向。

(ニ) You shall go out of the room. (出て行け)
He shall die. 〔彼れを殺せ〕 } 話主の意向。

對稱及び他稱の代名詞を主語とする shall は其語句を述ぶる者の意向を示すものにして其の度合の强弱により或は嚴命となり强迫となり通常の命令となり單に意志の表示ともなる。

2. 上來述べたる如く shall, will の意義は其の文の主語の人稱により甚しく異るものなれどもこれ英語の近代的變化にして古くは shall, will の意義は斯く複雜なりしに非ず昔は shall は大體に於て總ての人稱を通じて事の成り行き(即ち普通の未來)を示し will は各人稱を通じて主語の意向を示したるなり。**此の古き** *shall, will* **の用法**は今代英語に於て全然消滅したるに非ずして**條件句中に用ひらるる** *shall will* は全く此の古き用法によるものにし通常の場合と大に其の趣を異にす、但し近代英語にては條件句中に用ひらる、shall は之れを全く省略して用

ひず唯 will のみ其の形を存して人稱の如何に拘らず常に主語の意向を表示するものなり。

If you *will* have a cup of milk, I shall tell the waiter so.
(召し上りたいなら……)。
此の will は主語は you にても又自稱にても他稱にても常に意志を表明す。

If it (shall) rain, we will not go out.
括弧中の shall は現今に於ては全然省略す。

3. 間接話體に用ひられたる shall, will は直接話體に用ひられたる shall, will が其まゝ現れたるものなれば注意せざれば往々誤らるゝとあり。

He says that he *shall* come.
此の shall は He says, "I *shall* come" の shall が此處に現れたるものなれば**純粹の未來**なり。

You say tbat he *shall* come.
此の shall は you say, "He *shall* come" の shall にして**話主** (*speaker*) **の意志**なり。『彼れを來させろ』なり。

You say that you *will* come.
You say, "I *will* come." よりの will にして**主語の意志**なり。

He says that you *will* grow tall.
He says, "He *will* grow tall" 又は He says, "you *will* grow tall". の will にして何れにしても**純粹未來**なり。

4. 疑問文中の shall, will.

Shall I?
What book shall I read? 指圖命令を乞ふ、對手の意志を聞く。
Shall we arrive in time? 成行を聞く純粹未來。

Shall you?
Shall you visit Kyoto on your way? は will you? にすれば意志を明ら樣に聞く故 shall you にして控へ目に京都へ御立寄と云ふ事に相成りますかと普通未來の成行の樣にして聞く丁寧なる形。

Shall you be rewarded?.....普通未來。

Shall he?

Shall he come to-morrow? 指圖命令を乞ひ、對手の意志を聞く。(明日彼れに何はせますか)。

What shall he do? (何をさせませうか)。

Will you?

Will you give me this book?
Will you please (to) do so?
Won't you come in?

對手の意志を聞く形なれば要求、催促、懇望、等となる、特に又 won't you? の形は誘引を意味す。

Will he?

Will he recover his health in a few days?

純粹未來、成行を又豫想を聞く。

Who will?

Who will come out next.

(次は誰れでせう) 純粹未來、成行を聞く。

Who shall?

Who shall be the leader?

(誰れかよく之を率ゆる者ぞ) 誰れも頭領になる人はあるまい。

(No one shall be.....) にて否定。

5. Now, I *will* tell you a story. (1)
Now, I *shall* come to the next story. (2)

(1) は自己の意志表明に過ぎずして即座の思ひ附きなどの心持なれど (2) は愈次の話へ取りかゝる事に成つたとの意にて最初より豫定の行動なるを思はせる言ひ振りなり。

6. *You will* read, Mr. A. (讀んでくれ給へ)。

この形は溫和なる命令なり。I beg you to read.

7. Then a prophet *shall* come. (其の時一人の豫言者出でむ)。

此の shall は必ず左樣なるべしのべしにして豫言者などが何々なるぞよなどゝ斷定的に云ふ意味なり。

8. The party *shall* be called "The Kensei-kai."

規則等に於て事を規定する shall なり。

9. It *will* be called a green house.

此の will は英人の用ゆるものにして may の義なり。

10. He *will* pass here a[illegible] morning.

習慣を示す。

例題

III

(Part II)

A あらゆる手段を盡して見ましたが、駄目でした。
I tried all that I **can** do, but in vain.

B あの樣子を見てもどうしたつて彼の女は素人じやない。
From her manners, she **can** not be a lady.

C 失禮ですが當地にはどれ位御滯在の御心算ですか。
How long, **may** I ask, do you intend to stay here?

D 勿論來ないとは限りませんが、私はどうも今日は彼の男は不參だろうと思ひます。
Of course, he **may** come yet; but I hardly think he will come to-day.

E どうしても成功しようと云ふならまづ朝起きにならなくちやならぬ
If you **are to** be successful, you **must** first be an early-riser.

F 何人たりとも國の爲めに死ぬと云ふのはつらいに違いないが又名譽な事に相違ない。

It **must** be a hard but honourable thing for one to die for one's country.

G 父に相談して見なければなりません。

I **ought** to consult my father.

H 其のナイフを買はなくつたつてよかつたのだ、僕のをやつたのに。

You **need not have bought** the knife; I would have given you mine.

注意

1. 助動詞 can, may, must は各第一第二の兩義を有す。

can { 能　　力(第一義)……I can read and write.
　　 推斷の否定(第二義) ……It can not be true.

能力を示す第一義の can は意志動詞と合し何々し能ふ、能はぬの意となり。(例題 A) 第二義の can は be の如き無意志動詞と合して推斷的否定を示し何々である筈なし、何々でありつこはないの義となる。(例題 B)。

You *can* enter the room. はいつてよい。此の can は第一義の變體にして You may enter に比すれば横柄なる許可にして權威を示す許可なり。余の權威を以て汝に入室の能力を授くと云ふ程の心持なり。故に店員などが What can I do for you? (如何なる御用を勤めさせて頂きませうかの義) と云ふは非常に對手を奉つた言ひ方なり。

You *can not be too careful* in the choice of companions. (友を選ぶに用心のしすぎはない)。

I *can not help doing* so. (せざるを得ず)。

I *can not but do* so. (する外に道なし)。

I *can but do* so. (そうすりやいゝのさ)。

等は皆第一義の can の Idiom なり。

第二義の can は否定なれども玆に注意すべきは必しも not を有せざる事なり。

It can hardly be true.

How can it possibly be true?

It is impossible that it can be true.

Can it be true?

(疑問の形は半面に常に否定を含む事に注意せよ)。

又完了時と共に用ひたる *can* は常に第二義なるを知るべし。

How *can* I *have said* such a thing? (云はう筈がない)。

How *could* I *have said* such a thing? (云はう筈はなかつた)。

又 can には過去の形 could の外には何もなし故に to be able to の形を借りて *was* able to go; *have been* able to do; *had been* able to do; *shall be* able to go 等の形を作るは人の皆知る處なり。

2. You *may* take it. (第一義)……許可。

I fear he *may* meet with an accident. (第二義)……可能。

第一義の may は意志動詞と合して許可の意 (何々してよろしい、差支ない) を表はし、第二義の may は無意志動詞と合して何々であり得る可能であるの意を示す。

第一義の may の否定は may not に非して *must not* なるに注意せよ。

{ You *may* go with him. (よろしい、差支ない)。
　 Yon *must not* go with him. (いけない、行つてはならぬ)(禁止)。

但し疑問體にて Must I not go? と云ふを柔かにねだる意をもたせて May I not go? と云ふ場合丈は特別なり。これ you may go の返答を豫想したる意を示すものなり。

尙ほ第一義の例にして稍注意を要すべき文を示せば

You *may* believe me. (命令的)。

You *may* rest assured that I am always your friend.

What *may* be your name? (What is your name, may I ask?).

第二義の可能 (possibility) を示す may には種々の場合あり。

(イ) 唯、事の可能、不可能を推定す。

He *may* have said so. (かも知れぬ)。

A war *may* break out at any moment. (やらも知れぬ)。

The news *may* or *may not* be true.

此の may の打消は may not.（そうでないかも知れぬ）なる事は文例中に明かに示されたり。

（ロ） 許容、承認、讓歩。

He *may* be a kind man for aught I know.

Whoever *may* have said so, it is not true.

I will provide you with anything that you *may* require.

You *may* call him a lazy fellow, but you *can not* call him a fool.

He *may* be an able man, but he is not an honest man.

Though he *may* be simple, he is innocent.

此の意味の may の打消は can not なり。

He *can not* be a kind man.

You *can not* call him a lazy man.

（ハ） 目的を示す（附屬句中に用ひられて）。

Man d.es not live *that* he *may* eat.

I made haste *that* I *might* be in time.

He works hard *in order that* he *may* become famous.

此の意味の may の打消は may not なり。

Make haste *that* you *may not* be too late.

（ホ） 祈禱、希望、願望。

O *that* I *might* recall him from the grave!

I pray that he *may* be safe.

（ヘ） 能力の承認。

He *might* do so, but he never tried.

Gather roses while you *may*.

He *may have said* so.（彼れはそう言つたやらも知れぬ）。
I *might have been* rich.（金持になれたのだつたが）。

上例に見る如く完了時と結合したる may は皆第二の意義なり。

又 may は might なる過去の形以外の變化を缺くが故に to be at liberty to を變化させて will be at liberty to go; was at liberty to go; had been at liberty to go 等の形を以て補ふとなしとせず。

3. You *must* go.（第一義）……必要。
It *must* be your book.（第二義）……必然。

前者の打消は you *need not* go にし後者のは It *can not* be your book なり。

又 I must see him. の如く第一義の must が主張を示すことあり、此の際には第二義（必然）の場合と同じく must を其の儘過去の形とす。

You *had to* go.（必要）。
I *thought* that it *must* be your book.（必然）。
I *said* I *must* see him.（主張）。

これ必然、主張等は稍普遍性を帶ぶるものにして時を超越する傾向あるが故なり。

Must は過去未來等の形を全く缺如するが故に *have to* の形を借り未來には *shall* (*will*) *have to go* とし過去には *had to go* とする場合ある事は上述の如し。

Must が完了時と結合したる時は左の如き三つの意味を生ず。

He *must have eaten* it up.（必然）相違ない。
You *must have done* your task.（必要）何々して居なくちやならぬ。
I *must have finished* it, if I had tried.（假想）終つて居つたのに。

4. You *ought to tell* this to them.（話すべきだ）。
You *ought to have told* this to them.（話すべきだつたのに）。

ought には上例の如き二つの時あるのみ。

又 ought の形に not を加ふる時は次の如き形となる。

You ought *not* to tell this to them.

又

比較 He ought to know it.
You ought to tell it him.

又 ought は本動詞の不定法（to tell, to do, 等 to を有する形）と結

合する時其の to を落す可からず ought to go にして ought go に非ず。

2. {You *need not do* so. (及ばぬ、必要なし)。
{He *need not have done* so. (及ばないのであつたのに)。

need not 亦上の如き二つの時の形あるのみ、但し注意すべきは need not が本動詞と結合する場合は普通の助動詞 shall, may, can, must 等と同樣にして本動詞の不定法の to を必要とせざれども need は助動詞に非れば此の不定法の to を必要とす。即ち

{He *need not go.*
{He *needs to go.*

又 not を有せざれども其の實打消にして need not に相當する場合を二三擧ぐれば

{You need hardly go. (まづ行くに及ばぬ)。
{You need only read it. (=you have only to read it).
{No fear need be entertained.
{You need fear nothing.

6. {*Do* you go?
{I *do not* go.
{I *have read* it.
{Stars *are seen* by night.

上の文例に於て見る如く疑問文、打消文に於ては助動詞 do を又完了時に於ては助動詞 have を而して受動調に於ては助働詞 be を用ふ、而して此等三樣の助働詞 do, have, be は元來本動詞なれば此等が助動詞として用ひらるゝ場合にも本動詞の如く他稱、單數、現在の S (又は es) を取るこれ本來の助動詞にはなき事なり。

Does he come here every morning?
He *has* not read it.
The moon *is* sometimes seen in the day-time.

練　習

1. 此の手紙を書いてしまつたら僕も仲間になれるだらう。

When I have finished this letter, I shall be able to join you.

2. 一生君の御好意は忘れません。
I shall never forget your kindness all the days of my life.

3. 此の土曜日に友達四五人と海岸へ行かうと思つてゐますが御閑でしたら一所に御出になりませんか。 (九年、高等)
I am going to the seaside with four or five of my friends this Saturday. Won't you come and join us, if you are not engaged?

4. 失はれたる富は勤勉によりて失はれたる健康はよい食物と藥とによりて恢復する事が出來る、然し失はれたる時は何物を以てしても償ふ事は出來ぬ。 (九年、高等)
A lost riches might be recovered by industry, and the loss of one's good health by some good food and medicine; but, when one's time is lost, it can not be made good in any way.

5. 君は云はれた通り勉强しなくちやいけない。
You ought to study your lessons as hard as you were told.

6. 彼んな上手な演說の出來る人は一流の辯舌家の數に入れなければならぬ。
He who can deliver such an eloquent speech must be one of the best orators.

7. 其の金は何時までに御入用ですか。
How soon shall you need the money?

8. 僕に御會ひなさる御考へならば明日正午頃事務所に居ますから。

I shall be at the office about noon to-morrow, if you will see me.

9. 途中で一寸パーマーさんの所へよつて行つてもようございますか。
May I just look in Mr. Palmer's on my way?

10. 雨のふるのに出かけて行つてはいけない。
You must not go out in the rain.

11. 大概御晝までには歸るでせうが、然し確かな所は申上げられません。
I may come home by noon, but I can not say for certain.

12. 大浦君は落第したから悲觀してるに相違ない。
Mr. Oura must be in grief, for he failed in the examination.

13. 一時間や二時間でこれを暗誦することは出來ますまい。
You will not be able to learn this by heart in one hour or two.

14. 誰れが君なんかを連れて行くものか。
Who shall take you?

15. 吾人は百尺竿頭一歩を進めて現代の特徴は精神界と宗教界との分離にありと云ふを得ん。
We may go further and say that a characteristic of the present times is a divorce between the religious and the spiritual.

例題

IV

A 彼の人は金持だが然し甚だ儉約だ。
He is very frugal, though he is a rich man.

B もし寒ければ僕は出かけません。
If it is (be) cold, I will not go out.

C 假令金があろうが權勢があろうが、僕は彼んな男に用はないね。
Whether he might be rich or in power, I would have nothing to do with such a man as he.

D 若し獨乙人が豫め戰爭の準備をして居なかつたとすればあの樣に優勢な戰鬪を爲す事は出來なかつたらう。
If the Germans had not prepared for the war, they would not have been able to fight so advantageously.

E 若し同君に御面會の機も御座候はゞ何卒宜しく御傳へ被下度候。
If you should see him, kindly give my love to him.

F 君が其の氣になつて新聞雜誌を讀みさへすればもつと利口になるだらうになア。
If you would only read papers, you would be wiser.

G 萬一まだ到着して居なかつたら、どうしよう。
If he should not have arrived yet, what shall we do?

注意

1. 之れを書き附けて置かなかつたら忘れるだらう。

條件文

I *should forget* this, if I *did not write* it down.

主節　條件節

上掲の文例に於けるが如く、或る條件を表明する節を備へたる文を條件文と云ふ、而して條件を表明する節其のもの即ち條件節は常に從屬節にして主節に非ず。

英語にては條件文の動詞に特に注意を要すべき變化ありて日本語に於けるが如く簡單ならず、日本語に於ては條件文と普通文との兩者の間に左程大なる相違なきが故に特に條件文なるものを重要視する必要なけれど英語に於ては此の兩者の間に甚しき徑庭ありて特に大に注意するに非れば條件文を解し又之を作爲すること困難なるものあれば心せざる可からず。

條件文に於て注意すべき事は、條件節と主節とは各別個の文法的意義を有しながら而も此の兩者が矛盾なき條一致せざる可からざる點なりとす。

2. 左に掲げたる表は一目にして此等の關係を知らしめんが爲めにして以下順次此の表につきて説明する所あらむとす。

意義	條件節	主節
事實…… 豫想……	…普通法　現在、過去 …條件節法現在(完了時を含む)	……普通法
純粹假想……	條件節法過去（完了時を含む）…	……主節法
豫想…… (殆ど假想に近き)	…條件節法未來（完了時を含む）…	…普通法又は主節法

上掲の表に於て法 (mode) と云ふは動詞の體を云ふものにして普通文には自ら定まりたる動詞の體あり之れを普通法と云ひ、又條件文の場合に於ては前にも一寸述べたる如く條件節と主節とに於て各別樣の動詞の體あり前者を條件節法と名づけ後者を主節法と云ふ。

（イ）表に示すが如く條件文の條件節が普通法にて表はされたる場合は其の條件節は事實を意味するものにして之れに應ずる主節の法は普通法なり。

Though he *is* a rich man, he *is* very frugal.

Although she *was* blameful, she *was* a good woman at heart.

（ロ）條件節が條件節法現在なる時は豫想を表示するものにしてこれに應ずる主節は普通法なりとす。

If it *be* cold, I *will* not *go* out.

If he *have* gone, I *will talk* with his father.

但しの此の條件節法現在は近來普通法を以て言ひ表はさるゝ傾向あり、これ實用上殆ど何等の相違を兩者の間に認め得ざるが故に條件節法が廢れて次第に普通法に統一さるゝものならむか、故に上の文例の如きも If it *is* cold,……又は If he has gone,……とする場合の方多し。

而して又 If it be cold は If it shall be cold の shall を drop したるものなる事に注意すべし。

（ハ）上來述べたる條件節の現在と更に後段に於て述べんとする條件節未來とは勿論條件文を構成するには相違なきも之れに應ずる主節が多くは普通法となるが故に條件文としての特色を充分に發揮したるものに非ず、されば條件文の眞體とも云ふべきは今玆に述べんとする條件節法過去及び過去完了にして、兩者共に純然たる假想を表示し、前者は現在の事實に反する假想を表示す、而して之れ等に應ずる主節の動詞の體は必ず主節法なりとす。

主節法とは假想的條件節の意義に應ずる主節の動詞の體にして Should, would, might, could, must 等にて作る、而して此等 should, would, 等の意義は普通法の場合の shall, will の用法に準ずるものにして極めて理解し易く、條件節に於ける should, would とは全然意義を異に

するものなることは助動詞 shall, will の條下に於ても一言せし事なり。即ち條件節中の should, would は主語の人稱如何に拘らず should は純粹未來の義 would は主語の意向をも示すものなれども主節中の *should*; *would* は主語の人稱によつて其の意義に變化を生ずること普通法の場合の *shall*, *will* に準ずるものとす。

1. If there *were* no earthquake in Japan, it *would be* a pleasanter place to live in.
2. If Napoleon *had not been defeated* at Waterloo, the history of Europe *would have been* different.

1 の were は條件節法過去にして、日本には地震多しと云ふ事實（現在の）に反對の假想をなし、日本に地震がなかつたらの意を示す、而し此の were は普通法の *was* になすこと近代英語の傾向なり、猶ほ條件節に現在の場合に普通法を用ふるが如し。

2 の had not been defeated は條件節法過去完了にして過去の事實即ち Napoleon had been defeated に反對の假想を構へたる言ひ方なり、即ち敗北して居なかつたならば云々なり。

又、1 の would は主節法未來にして現在の事實の拒否を假想す、即ちもつと住み心地のよい場所だらうに（事實は然らず）の意なり。

2 の would have been は主節法未來完了にして過去の事實の拒否を假想す。

主節法には此の二つ形即ち主節法未來（現在の事實の拒否を假想する）と主節法未來完了（過去の事實又は完了したる事實の拒否を假想する）とのみなり。（例題 F と D 參照）。

（二）前にも述べたる如く條件節法未來に於ける should は各人稱を通じて純粹の未來を示し would は未來と共に主語の意向をも示す、而して此の條件節法未來（完了時を含む）は條件節として豫想を示すものにして（イ）に述べたる條件節法現在と相似たりと雖未來の場合の豫想は現在の場合のよりは甚しく實現の確信を缺き殆んど假想に近きものなり。

If it *be* cold, I will not go out. （條件節法現在）。
（寒ければ……）。
If any one *should* call, say I am out. （條件節法未來）。
（萬一誰れか來たら、……）。

上掲の文例を比較すれば自ら分明なる如く should を用ひたる場合は豫想が甚しく不確實にして殆ど實現さるることなき假想に近きものなれば邦語にては『萬一』とか或は『ひよつと何々するやうな場合』などの語を添ゆれば略ぼその意味を表し得。

說明の便宜上條件節法未來と未來完了とを別に取扱ふ事とし左に未來の場合の文例を揭ぐべし。

I fear lest he *should* fail. （萬一失敗するやうな事があるといけないと心配する）。
If he *should* meet her, he would tell her his tale. （若し萬一にも彼の女に出逢ふやうな事があれば、彼れは自分の身の上話をするだらうにねえ）。
I am sure I can do it, if I *would*. （若し僕がやる氣なら、きつと出來るがねえ）。
If you *would* grant my request, I should esteem it a great favour. （萬一御きゝ屆け下され候はゞ望外の御恩と存じ候）。

次に條件節法未來完了の例を示せば

If he *should not have finished* it yet, I must have him give it up. （萬一まだ仕上げて居ないやうな事があれば、是非彼れに斷念させなくちや）。
If he *would but have come* to me, I would have offered him every assistance. （彼れが唯自ら進んで我輩の下に來てさへ居たら、我輩は手段を盡して彼れを援助すべき旨を告たであらうに殘念な事であつた。

條件節法未來完了に於て殊に注意すべきは would have＋過去分詞の形にして、上掲の文例にて之を說明すれば If he would have come は If he had willingly come に等しく過去の事實の反對の假想にして條件

節法過去完了に酷似すれども唯常に意志動詞と合して主語の意向を明に示す點が更に加へられたるを注意すべし。

而して條件節法未來及び未來完了は主節法を以て之れに對應する場合もあれば又普通法の事もありて其の時の意義大革なり。

If I should die now, she *will* be in great grief.
若しおれが今死にでもすれば彼いつが嘆くだろう。
If I should die now, she *would* be in great grief.
若しおれが今死にでもすれば彼いつが嘆くだらうけれどまづ死ぬ樣な事もあるまい。

3. 以上條件文の條件節と主節との關係につき其の要領を說明し得たりと信ず、而して尙ほ更に知るべきは條件節が自明なる爲め省略されて主節のみなる條件文あり、又時には條件節のみ存して主節が省略されたる事もあり、此等兩樣の場合は皆習慣的表顯となり居りて一般に使用さるゝものなれば、よく注意しおかざる可らず。

1. Any strong cloth *would* do. は Any cloth would do, if it were (was) strong の意なり。(丈夫でさへあつたらどんな布だつて差支なからうが)。

2. I *should like* to hear her sing. は if I had an opportunity なる條件節が understood され居るものにして、其の機會を得ないけれど若し機會さへ得たらば彼の女の歌ふのを聞きたいものだが、と云ふ程の意なり。此の形はもし事情さへ許すなら何々したのだがの意を含み居れば屢慇懃語法として用ひらる、卽ち I should think so. 又は I should like it 等はまづ左樣思ふのですが、又私がそれが好きなんで御座いますが、など云ふ心にして if I might なる條件節を略せるなり、卽ち對手の意志考慮に敬意を表して自己の意志を曖昧に表白する形なり

3. He *would* rather be a lawyer than an engineer は if he had to choose one of the two と云はん程の條件節を略したるなり。(土木家よりは寧ろ法律家たる事を欲するであらう)。

4. Children *should* obey their parents. は if they would be dutiful ones など云ふ程の條件節が略されたるものなり。(子たるものは其の親

の命に從ふべし)。

5. (I) *would* rather die than yield. は if it were necessary for me to die 等の條件節を略す、(屈服よりは寧ろ死を擇ばん)。

6. Heaven *help* you.
God *bless* you.
は *May* heaven *help* you! にして I hope that God may bless you 等の心持なり。

7. You *had better go.* は It would be better for you to go の意なり。(まづ君は行つた方が好いだろうなア)。

8. It was, *as it were*, a bolt from the blue to him の as it were は as if it were the fact 等の心にして邦語の云はゞ(たとへて云はゞ)の意なり。

9. It is time that he *came* back. は He ought to have come back の意を含む、(もう、とつくに歸つて居るべき時間だのに)。

10. *Could* you come to-morrow? は if I might well ask 等の心を有するものにして、失禮ですが明日御出になられますでせうかと丁寧に聞く語なり。

11. *If* he only *were* here! は主節を省略したる形にして、彼の人が此所に居合せてくれさへすれば何も云ふ事はないのだがと云ふ意なり。*O, that* I *could* see him once again! (あゝもう一度彼の人に合ひたいのだが)等も亦同樣の例なり。

12. *It is strange that* he *should* say such a cruel thing. 彼の人がそんな殘酷な言を云ふとは不思議だ。

練習

1. 若し邪魔されなかつたら此の仕事を終まつて居たらうに。
I should have finished the task, if I had not been disturbed.

2. 彼奴が紳士ならもつと時間を正確に守るべきだが。

If he were a gentleman, he should be more punctual.

3. すんだら休みにしてやらう。
You shall be free, if you have done it.

4. 勝負に勝つたのでなくちやあんなににこ々々して居るものじやない。
They would not look so happy, unless they had won the game.

5. こちらであんなに早く眼をそらさなかつたらむかうの方で眼をそらしたんだけれど。
He would have looked away, if my eyes had not dropped so quickly.

6. 雨がふれば在宅の筈です。
I shall be at home, if it rain.

7. それが好い娘なら貰ひませう。
If she is a nice girl, I will marry her.

8. あの子供は大人の樣な口をきく。
The child talks as if it were a man.

9. 試驗に級第出來ればよかつたなア。
(I) would that I could pass the examination.

10. 若しコロンバスガ亞米利加を發見して居なくても誰れか外の人が發見し居たであらう。
Had Columbus not discovered America, some one else would have discovered it.

11. 若し佛蘭西がその巴里を獨乙人の手に渡して居たならば吾人の最後の勝利もその價値の殆んど半を失ふの感ありしならむ。
It France had given up her Paris into the hands of the Germans, we should have felt that our ultimate victory lost nearly half its worth.

12. 少々足りない人間なら此の有樣を見て笑ひもしよう。
A man who is out of sense might laugh at this sight.

13. 彼の男がもう少し用心深かつたら大丈夫だつたのだけれど。
If he had been a little more cautious, he would have been safe.

14. 君が居なくともすむ位なら誰れが呼ぶものかね。
If I could do without you, I would not call you in.

15. 日本が太平洋を支配せんとするの意圖に出んは素より當然の事なりとす。
It is simply natural that Japan should intend to control the Pacific Ocean.

第拾章　準動詞

例題

A　ウオルゾースの詩の中には時代と場所との差別なく何人が何時之を讀むも相當の佳篇なりと思はるゝもの數篇ありと云ふも敢て過言に非ず。
It is not too much to say that some of wordsworth's poems are not bad to be read in spite of differences of age and place.

B　如何な小說でも一讀の價値充分なるものならばそれで宜しい。

Any novel, which is well worth **reading**, will do.

C 元來文學上の傑作なるものは時の經過の爲めに其の作品の價値を失ふこと少きものなれば殆ど如何なる時に於ても必ずや其の讀者に興味を與へ得るものなり。

A literary masterpiece, which loses little by the passage of time, can not fail to **interest** readers at any time.

D バイロン卿は再び歸り來らじとて其の故國を去れり。

Lord Byron left his native land never **to return** again.

E 右へ曲がると直ぐ前面に看板のある西洋館があります、それがお尋ねになる店です。

Turning to the right, you will soon find a tall building of foreign style, with a sign-board on the front; that is the very shop you are **looking** for.

F 地平線上の雲をじつと見つめて居るうちにいつしか日がくれてしまつた。

While I sat **gazing** at the clouds on the horizon, night and darkness had come on.

G 御靴一足御註文の貴翰正に接手仕り候。

We have duly **received** your favour **ordering** a pair of shoes from us.

H クレマンソーの爲めに紀念像が其の鄕里ヴァンデーに建てらるゝ由、同氏が塹壕の一端に立てる樣を寫せるものなりと云ふ。

A monument for Clemenceau is said **to** be **erected** in his native place, the Vendee, **showing** him **standing** at the edge of a trench.

I 生きたる野獸の價甚だ高きが故に獨逸に於ては其の動物園に野獸を補充することは之れを養殖するの外始んど不可能の有樣なりと。

On account of exceedingly high prices of wild animals alive, **replenishing** the zoos in Germany is said **to be** almost impossible except by **breeding**.

J 一晩にそんなに消費つたとはねえ。

I am sorry of **his having wasted** so much money in one night.

注意

1. **根詞** (the infinitive), **分詞** (the participle), 及び**帶詞** (the gerund) は各一面に於て動詞の性質を具有すると同時に又他の一面に於て名詞となり形容詞となり或は又副詞となるが故に準動詞の名あり。

A. **根詞**は常に to go; to see; to show 等の如く其の形に於て to なる前置詞を有し一面動詞として動作を意味し（存在をも）時には目的格を取りなどすると同時に又他の一面に於て又名詞の性質を示し文章の主語となり、動詞の目的格となり、且つ動詞の補語ともなり、又或る時は形容詞の性質を示し名詞を形容し、又或る時は副詞の性質を表はし動詞、形容詞、副詞、及び全文句を形容し制限す。

1. *To do* nothing is a pain.
2. *Not to do* anything is a painful thing.
3. *It* would have been better *to have done so.*
4. He does not know *what it* is *to work.*

上揭の文例は皆根詞が主語となりたる場合を示すものにして 2 に於ける not to do は根詞に打消の語 not を附する時は常に其の前に置くべきを示し 3. 4. に於ける it は各 to have done so と to work とを代表する形式的主語にして眞の主語卽ち主語の本體は to have done so と to work なれば it は形式を飾る爲めの語に過ぎずして此の it を省けば 1. 2. の形の文となり To have done so would have been better となるなり。

1. I *want you to study* hard.
2. He did not *know* what *to do.*
3. We *expected to succeed.*
4. They *decided to do it.*
5. I *made it* a rule *to get up* early in the morning
6. I *thought* nothing but *to go home.*

上掲の文例は皆根詞が動詞の目的語となりたる場合を示す。5 の it は形式的目的語にして其の本體は to get up なり。

1. I *know him to have gone.*
2. He *proved to be* an able man.
3. It *seems to be* true.
4. She *was made to go.*
5. It *is to be borne* in mind that he is a fool.

上掲の文例も皆根詞が各動詞 (knew, proved, seems 等) の補語となりて其の意味を完全ならしむるものなり。

1. There was *no one to go* there.
2. There is *a house to let.*
3. I want to have *some straw to lie down upon.*
4. This is *the best time to visit* Europe.
5. I made *a promise to go* with him.

此等の根詞は皆名詞（代名詞をも含む）no one, a house, some straw 等にかゝるものと知るべし。

1. I will *come* here *to see* you again.
2. I *called* at the office *in order to have* an interview with him.
3. I *went out to take* a walk.
4. *Go home to have* your dinner.
5. I *wept to see* her baby,
6. He awoke one morning *to find* himself famous.
7. He lived *to see* the world much changed.

上掲の文例は皆根詞が動詞 come, called, went out, go home 等にか

欠

欠

1. a smoking-room.　2. a dining-car.
3. a speaking-trumpet.　4. playing-cards.

此等は皆帶詞を形容詞的に借りたるものにして眞の形容詞なる分詞と其の意味を區別すべし、即ち次の兩語を比較すべし。

a *sleeping*-room.（寢室）……帶詞。
a *sleeping* child.（眠れる小兒）……分詞。

練　習

1. 人は時に或る國へ唯だ行きたるのみにして既に之れを觀察し終れる如く思ふものなり。
We sometimes think as if to visit a country and to observe it were the same thing.
2. 軍人は勇敢に戰ふ事を以て己が任となすべし。
A soldier is a man whose duty it is to bravely fight.
3. 例の書籍直樣御返送に預り度願ひ上申候。
I beg you to send the book immediately back to me.
4. 私は學校から歸りがけに御宅へ御寄りする積りでしたが、案外遲くなりましたので餘儀なく伺ひませんでした。
（七年、秋田、鑛）
I intended to have called upon you on my way from school, though, it being unexpectedly late, I could not.
5. 僕はまだ露西亞語をしやべるのを聞いた事がない。
I have never heard Russian spoken.
6. むかし巨勢金岡と云ふ畫を善く描く人があつた、誰れ一人金岡ほど馬を巧みに畫き得る人はなかつた、或る時金岡は宮殿の壁に立派な馬を畫いた。其頃近傍の田の中で夜分しきりに稻を嚙むものがあつた、人々は何者がそんな事をするのか知らなかつたが、たまたま畫馬の蹄に泥の附いて居

るのを見た、試みに畫馬の兩眼を刮つて見たら其の後稻を食ふものはなくなつた。 〔六年、商船〕

Once upon a time there lived a man known as Kose-no-Kanaoka, a good hand at painting pictures; and nobody could show himself to be so much skilful in painting horses as he. At one time he painted amazing splendid horses on a wall of the Imperial palace. Strange to say, in the rice-fields in the vicinity, much rice was eaten and damaged every night, no one knowing whose doing it was. People, however, happened to find the hoofs of the painted horses on the wall dirty with mud. Thereupon they, to make a trial, took out the eyes of the horses on the wall and lo! the rice-plants thenceforth were never found damaged again.

7. あいつはなかなかこちらへ加擔しない。
He is the last man to side with us.

8. 僕は成長の後は政治家になるんだ。
I will be a statesman, when I grow up to be a man

9. 彼の男は氣むづかしい。
He is hard to please.

10. 父は『宜しい』と口にこそ云はね首肯いて見せた。
father nodded as much as to say "all right".

11. 云ふも悲しき事ながら私の叔父は尼港でパルチザンの爲めに殺されました。
Sad to say, my uncle was killed by the Partisans at Nicolaievsk.

12. 災難と云へば君は伊藤君の事件を聞いたか。
Talking of accidents, have you heard of the one that happened to Mr. Ito?

13. 若い時に勤勉であつたもんだから彼の人は今は氣樂に暮して居る。
Having been diligent in his youth, he lives now a comfortable life.

14. 貸家があります、七間で家賃は月に五十圓で敷金は二百圓です。
There is a house to let. It has seven rooms and the rent is 50 yen per month, the deposit being 200 yen.

15. 彼れは自分の兄が學者だと云つて自慢して居る。
He boasts of his brother's being a learned man.

16. 英語を勉强する目的は何ですか。
What is the object of studying English?

17. あいつは一番になるつもりで一生懸命勉强して居る。
He is studying with utmost effort with a view to being the head boy of the class.

第拾一章　副詞

例題

A 『必しも左樣と限つた事はない』と云ふべき所を『必ずや左樣な事はない』と云つてはいけない。
Never say "It is necessarily not so." instead of "It is not necessarily so".

B つい二三日前の事だが彼の人が電車の運轉臺から投り出さ

れました、尤も頃を怪我したばかりなんだけれど。

It happened **only a few days** ago that he was thrown out of the motor-man's platform of a car, though he **only got hurt** his chin.

C 扨て僕は君に話して置かねばならぬが、彼の男は今米國へ行つてるよ。

Now I must tell you that he **is now** in America.

D 其れより大きいのがまだ見附からない以上は今英國皇室の所有にかゝる金剛石が矢張り世界一になつて居る。

As any larger one is **not yet found**, the diamond which **is now in the possession of** the British Imperial Household is **still the largest** one in the world.

E 人々は彼れが安全にナイヤガラ河の急流を渡ることを豫期して居ました。

They expected him **to safely cross** the rapids of the Niagara.

F 彼れは先づ最初にどちらの少年が第一着であつたかを知らんとした。

He **first tried** to know which boy made the winning post **first**.

注意

1, 副詞は其の役目として重に動詞を修飾制限し次に形容詞及び己れより他の副詞を制限す。

副詞につきて注意すべきは其の位置にして、大體に於ては日本語と略ぼ同樣にて文章を作爲するものゝ常識を以て之れを判斷し得べき事なれど原則としては副詞は其の制限せんとする語に出來得る限り接近せしめ多くの場合其の前に置くものとす。

2. 例題 A に於て necessarily なる副詞が not so を modify すれば

『必ず然らず』の意を生じ not が necessarily so を打ち消せば『必ず左樣であると云ふ事はない』の意卽ち必ずしも然らずとなる。not, always, necessarily, only 等の副詞は皆事を決定する力を有すれば其の位置によりて甚しく文意に相違を來すものなれば充分注意すべし。

例題 B に於て only は generally, usually, rarely 等の副詞と等しく其の制限せんとする語の前に置くものにして若し動詞が助動詞を伴ふ場合は助動詞と動詞との間に置くを常とす。

例題 C に於て見る如く now, first (例題 F) once, then, there, here, 等の時と所とを示す副詞は本來有する意味の時は其の修飾さるべき語の後に來るべきものにして之れに反して前に在る時は此等の副詞は常に事の順序を示す意味となる。

例題 D に於て yet, も still も邦語にては『まだ』に當れども yet は常に未來を眼中に置きて『今はまだ』の意味を有し still は常に過去を思ひつゝ『矢張りまだ』の心なり。

例題 E に於て to safely cross とありて to cross なる根詞の前置詞 to と cross との間に safely なる副詞を挿めり。此の形は人によりては bad English なりとなし safely to cross とせざる可からずと云ふも safely を to と cross の間に挿みたる方がまとまりが能くなりて元來殆ど一語の如きまとまりたる意義を有する語として取り扱ひ上甚だ便利にして且つ適切なれば此の形は split infinitive と稱して good writers の間に次第に用ひらるゝ傾あり。

3. 此の外 yet, sometimes, often の如く比較的其の位置自由にして文勢上の都合によりて之れを其の修飾せんとする語の前におきても後におきても又或は文末におきても差支なき種類の副詞もあり。

4. 又 away, off, out の如き前置詞に關係を有する副詞は皆動詞の後に來る事勿論なり。

Let us take it away.

5. He is safely lying. (安全にねてゐる)。
He is lying safe. (ちやんとねてゐる)。

前者は動詞を modify し後者は全文を modify す、而して又前者は

manner を示し後者は state を示す。

6. *The more* men have, *the more* they want to have.

此の例の如く the+comparative を重複せしむる習慣語は邦語の『何々すればするほど愈々益々』など云ふを譯するに適當の語にして、此の the は元來副詞的力を有して so much, in the degree, to the extent などの意味を存す。而して the..... the と二つ重きなる所に接續詞的の力を存し『.....する程それ程』『.....であるだけそれだけ.....』等の語義を生ずるなり。

7. I will have it, { *however* dear it may be. / *no matter how* dear it may be. }

The article is just the thing that I want to have, *only* it is too dear.

此の例に於ける副詞も皆接續詞的の力を有す 6. 及び 7. に於て見る如く副詞にして接續的の力を有するものあるは言語の使用上極めて自然に起る事なりとす、又副詞と接續詞と結合して文中に現はるゝものには as soon as; hardly when; so that 等種々あるもこは接續詞の章に於て說明することとすべし。

8. 又副詞が二語以上より成立する長きものなる時は勢ひ又文句の末端に來る傾向あり、此の故に副詞句にして短きものは場合によりて文句の中間に挿むも稍や長きものは之れを文末に置く方文章に安定の感を與ふ。即ち

1. I must explain it *more fully*.
2. *Once* I went to Kyoto and I will visit the city *some day next year*.

練　習

1. 今度一回だけ立換へてやろう。
   I will pay for you once for all.
2. 小生昨夜無事歸宅仕候。出發の際は停車場まで御見送下され有りがたく御禮申上候。（八年、大高商）
   I safely got home last night. Thanks for your kindness to see me off at the station when I started.

3. 私の友人はこの程彼の祖先が着したる鎧を米國大統領ウヰルスン氏に贈呈した。（八年、東高商）
   A friend of mine recently made Mr. Wilson, President of the United States of America, a present of the armour that was worn by one of his forefathers.
4. 柳の下にいつも鰌は居ない。
   A fox is not caught twice in the same snare.
5. あいつは何時でも左樣だと云ふ譯ではないんだが。
   It is not always so with him.
6. 毎年今頃は大概こんなに波が高いですか。
   Is the sea generally so high at this time of the year?
7. 本月二日附の御手紙正に拜誦仕り候。
   We have duly received your favour under date of the 2nd inst.
8. 日本軍は近々四比利亞より撤退すべしと。
   The Japanese troops will shortly evacuate Manchuria.

第拾二章　接續詞

例　題

A 其の實力なくして徒らに虛名を博するは不幸なり。
One won't be happy to be famous, unless one is really able.

B テームス河上の大學端艇競漕に於て牛津大學は昨年劍橋大學に負けたり、然して本年は二艇身半の差を以て美事に勝利を得たり。

Oxford lost the University boat-race on the Thames last year, **but** they splendidly won it this year, beating Cambridge by two **and** a half lengths.

C アイスクリーム・ソーダは亞米利加が本家本元だそうですが、佛蘭西人殊に巴里兒が大へんに好みます。
Ice-cream soda is said to have the origin in America, **and** French people especially Parisians are very fond of it.

D 私は小學校時代に父につれられて京都へまいりました。
Father took me to Kyoto **when** I was a school boy.

E 私は弱者だから助けてもらへるでせう。
I shall be helped, **because** I am the weaker.

F 彼の人程の研究的學者は尊敬すべきものである。
So studious scholar **as** he should be respected.

G 獨り商業に於てのみならず一切萬事に於て正直は最良の政策なり。
Not only in business, **but**, in anything whatever, honesty is the best policy.

H 惡漢共は巡査の姿を見るや否や逃げ去つた。
The villains **had no sooner** caught sight of the constable **than** they ran away.

注意

1. 比較
   1. One won't be happy to be famous, *unless* one is really able.
   2. One won't be happy to be famous, *if* one is not really able.
   3. Let one be really able, *or* one won't be happy to be famous.

3. 例題 B と C に於けるが如く and は相並行せる事を意味する文章を繋ぎ but は意味相反對せる文句を接續す、而して but に關しては次の如き文に注意しおくべし。

He is *indeed* clever, *but* dishonest.

It is true that he is clever; *but* he is dishonest.

此等の文章は but の特色を强烈に表顯せるものなり。又 and にも斯くの如く强き言ひ方あり。即ち

He is a villain, *and* ex-convict. (彼れは惡漢だ而も前科者だ)。

3. Never look to right and left *as* you walk. (歩きながら)。
   Promptly stand up, *when* it comes to your turn. (番になると)。

as は比較的永續する時間を示し when は常に一時的にして其の事柄、場合等に成るの意なり。

4.
   1. We can not have a bathe to-day, *because* the weather is foul.
   2. It is morning, *for* birds are singing in the woods.
   3. *Since* he is unkind, I will not go with him.
   4. *As* it is very cold, I do not like to go out.
      (=It is very cold, *so* I do not like to go out).

Because は why? なる質問に答ふる意にして最も强く理由を揭げ示す語なり、此の語は by cause なる語原より來れるものにて原因はと云へば何々なりと特に原因を明示するものなり。

for は or にして同樣の事を言ひ換ふる位の意にして邦語にて『即ち』『……と云ふのは……』『と云ふ心は……』などに當る、故に此の語は because に比すれば甚しく輕きものにして決して兩者を混同すべからず、理由なる事を至つて輕く示す語にして前に述べたる事を再び輕く言ひ換ふるものなれば決して此の for にて率ひらるゝ句を本文より前に出すべからず、because, since, as 等は各其の率ふる句と本文との順序は何れを先にするも差支なし。

since は元來『それ以來』の語義を有する語にして斯く理由を擧ぐる

接續詞となりても矢張り時の前後の意味を有し、既に知り得たる初めの知識を理由根據として後の事を斷定する語義を有す。

as は本來關連の語義を有し原因と結果が相結びて離れず連結並行する意なり。

5. 接續詞が副詞と相關連して文章の節を連結する場合種々なる意味を成す。

1. She is *as* nice a girl *as* Jane.
   It is *not so* good *as* yours. (打消の時は so を普通とす)。
   I will give you as much money as I can.

元來 so なる副詞は明かに度合を限る意味の語にして語勢强し故に打消と共に用ひらるれども、又打消に非ずとも明かに度合を限定する强き語勢の場合に用ふ。即ち

   I am found of *so nice* a girl *as* she is.
   He is *so careful* of his health.

2. He works *so* hard *that* he will impair his health.
   He speaks *so fast that* we can not understand him.
3. Rossetti is *not only* a poet *but* (also) a painter.
   A man's worth lies *not so much* in what he has *as* in what he is.
4. He shut the door after him *as soon as* he got out of the room.
   He *had no sooner got* out of the room *than* he shut the door after him.
   (=no sooner had he got out of the room than he shut the door after him) 括弧内の言ひ方はやゝ强し。
   He *had hardly* (scarcely) *got* out of the room *when* (before) he shut the door after him.
   〔=Hardly (scarcely) had he got out of the room when (before) he shut the door after him.〕
5. He *had not seen much* of the world *before* (when) he began his own life.

練習

1. 僕は彼れより早く家を出るが彼れはいつでも登校の途中で僕に追ひつく。 (三年、秋田、鎭)
   I start off earlier than he, but he always overtakes me on the way to school.
2. 今年は寒氣が殊の外强かつたから嵐山の櫻花は四月十日頃でなくては滿開に至らぬだろう。 (六年、神、高商)
   Since it has been unusually cold this year, the cherry-blossoms will not be in full bloom at Arashi-yama before about the 10th of April.
3. 彼の人は君に負けない位の大家族を養つて行く。
   He supports as big a family as yours.
4. 僕はその手紙を書き終るか終らぬにポストへ入れたのです。
   I had hardly finished writing the letter when I posted it.
5. 商業上の成功は政策よりも寧ろ正直に由る事多し。
   Success in business depends not so much upon policies as upon honesty.
6. 時間を精確に守らないと紳士の交際は出來ぬ。
   You can not keep social intercourse with gentlemen, unless you are punctual.
7. 太田君は當分學校を休むでせう、と云ふのは病氣で今ねて居るんです。
   Mr. Ota will be absent from school for the time being, for he is now lying ill.

8. 青年は英語を讀み得るのみならず可なり流暢に話し候。
The young man can not only read but also speak English fairly fluently.

第拾三章　前置詞

例題

A 株主は總會に於て事業擴張の目的を以て資本を倍額にする事を決議せり。
The shareholders have voted **in** the mass meeting **for** the plan **of** increasing the capital **to** the double amount, **with** the object **of** extending the business.

B 車掌臺に立つて居た若い紳士の帽子が風に吹き飛ばされたので其の人は急に疾走して居る電車からとび降りて帽子をとりに行つた。
Having his hat blown off **by** a blast **of** wind, a young gentleman who was standing on the conductor's platform suddenly leapt down **from** the running car and ran **for** his hat.

C 帝國飛行協會は更に又本年十一月下旬瀨戸內海を縱斷する大阪大村（九州長崎附近）間の郵便飛行を行ふ由。
The Imperial Civil Aviation Association is said to have planned another mail carrying flight to be made **in** the latter part **of** November **of** this year, **between** Osaka and Omura (**near** Nagasaki, **in** Kyushu), **across** the Inland Sea.

D 君の頭の上の棚にある字引をどうぞ御隨意に。
The dictionary **on** the shelf **over** your head **is at** your disposal.

E 私は爐を圍むで居る人々の中にリチヤード君の居るのを認めた。
I recognized Mr. Richard **among** the people who sat **around** the fire.

F 本月一日の朝の新聞に出る迄は彼の死んだのを知らなかつた。
I did not know **of** his death **until** the notice appeared **in** the newspaper **on** the morning **of** the first inst.

注意

1. 前置詞なる名稱は此等の語が名詞（代名詞をも含み）の前に置かるゝが故に名づけられたるものなり。

前置詞は動詞（又は其の補語）と名詞（又は名詞に相當する語）との間に介在して兩者の關係を表示する語なり。故に此の語は一種の連絡語なり。動詞の補語としては名詞、代名詞、形容詞、分詞、根詞、副詞、句、等あり又一方に於て名詞の相當語としては代名詞、形容詞、帶詞、副詞、句、節、根詞等あり、故に此等諸種の語の間に立ちて其の關係を示す前置詞が頗る複雜なる意義を表示するは自然の勢なりとす。

A. 動詞及び其の補語に支配さるゝ場合。

1. I *went to* Kyoto. （動詞）。
2. He is *absent* { *from* school. （學校を缺席）。 / *at* school. （學校へ行つて留守）。 } （形容詞）
3. The ship is *built of* steel. （分詞）。
4. They are *to start in* business as junior clerks. （根詞）。
5. The aeroplane is high *up in* the air. （副詞）。

B. 名詞及び其の相當語を目的とする場合。

1. He is *in the room.* (名詞)。
2. He is kind *to the poor.* (形容詞より來れる名詞)。
3. He is interested *in reading.* (帶詞)。
4. He is back *from abroad.* (副詞より來れる名詞)。
5. It was so *till lately.* (副詞)。
6. He was looking *at how it was done.* (節)。
7. He thought nothing *but to go* home. (根詞)。
8. Come to-day *instead of on Sunday next.* (句)。

2. He is put *in place of* her.

It was sent *by means of* a curious kind of vehicle.

此の例の如く多くの語より成れるものを合成前置詞と云ふ、此の種の前置詞は其の語意より推量して大體其の意義性質を知るに難からず。

3. 注意 1 に於て說明したる所を實用的に約言すれば前置詞は動詞、形容詞等に支配さるゝも大凡其の規約あり又一方に於て其の目的語の意義關係より其の用ひらるゝ前置詞にも大凡の規定あり。

A. 動詞、形容詞、名詞、副詞等に支配さるゝ場合の例。

abound in or *with* fish.
accord with or to a things.
account for a fact.
accuse of some guilt.
admit of no objection. (大概打消と共に用ひ此の場 admit は自動詞)。
admit the fact. (他動詞、其の事實を認むると云ふ義)。
admit to or into a place.
admit one into one's heart.
believe in something. (有效なるを信ず)。
believe one. (……の云ふ事を信ず)。
border on a place.
charge a man with a crime.
charge payment to a person.
charge a sum to one's account. (金額を one の勘定に記入すと)。

charge one so much for an article. (取る、拂はせる)。
charge at or on or upon the enemy. (突貫する)。
clear the table *of* the things.
compare this with that. (比較する)
compare one to a devil. (にたとへる)。
consent to some proposal.
correspond with one. (通信する)。
correspond to something. (相對應する、一致する)。
count on or upon something. (あてにする、たよる)。
count for nothing. (物の數に入れぬ……勘定に入れる、入れぬ)。
cut a thing *in* or *to* pieces.
consist in diligence. (成功は勤勉に在り等、存在又因る心)。
consist of materials. (何々より成立す)。
consult to a person. (へ相談す、醫者に見て貰ふ等)。
consult with a person. (と相談す、相互に意見を述べ合ふ意)。
deal in paper. (商ふ)。
deal with something. (取り扱ふ)。
decide on something. (何々の方へ決める)。
decide against something. (せずと決定す)。
despair of success.
detract from one's reputation.
differ with a person on a subject. (意見が異る)。
differ from anything. (物と異る)。
dream of strange things.
Embark on board ship.
embark in business.
enter upon a career. (始める)。
enter into one's plans. (事に入り込む)。
enter a room. (物に入る)。
excel in something.

escape from a prison. (場所より逃る)。
escape punishment. (事を免る)。
get to a city. (到着する)。
get at the facts. (つきとめる)。
identify this with that. (一致せしむる、同じに取り扱ふ)。
identify this as that. (同一物なりと認める)。
indulge in something.
indulge oneself with something.
inquire for one. (在否を問ふ)。
inquire after one. (安否を問ふ)。
inquire into a matter. (穿鑿する)。
inquire of one about something. (人に事を聞く)。
invest money in some business. (投資する)。
invest a man with a right. (權利等を附與する)。
join in a game.
join the party.
judge of something by something. (物を以て物を評る、評價する)。
judge one. (人を裁判する)。
know of a person. (左樣の人の存在する事を知る)。
know a person. (其の人と知り合ひ)。
lean against a wall.
lean on a staff.
lean to a certain opinion.
level a city with the ground.
level a gun at a bird.
listen to a song. (耳を傾けてきく)。
listen for a discordant note. (ありはしないか、きこえはしないかと耳を傾ける)。
look for something. (さがす、たずねる)。
look at something. (注意して見る)。

look after some business. (監督する、世話を焼く)。
look into a matter. (調査する)。
mourn for the dead.
murmur at or against anything.
muse upon the beauties of nature.
object to some proposal,
occur to one's mind. (ふと思ひつく)。
part from one. (と別れる)。
part with one or a thing. (別れ難きものと別れを惜しむ)。
pass by one's door. (通り過ぎる)。
pass for a clever man. (何々と世間に通用する)。
pass from one thing *into* another, (甲より乙に轉化する)。
point to one. (指して示す)。
point at one. (指して笑ふ)。
reckon on something. (をたよりにする)。
reckon with one. (と結算する)。
rejoice at the success of another.
rejoice in one's own success.
repent of imprudence.
repine at misfortune.
repose on a bed.
repose confidence in a person.
revenge myself on some one for some injury.
rob a person of something.
run after one. (追つかける)。
run at one. (狙ふ、攻擊する)。
run into debt. (に陷る)。
search for something lost. (搜す)。
search into a matter. (調べる)。
see about a matter. (考慮する)。

see into a matter. (穿鑿する)。
see through his meaning. (了解する)。
see to a matter. (に注意を拂ふ)。
smile at person. (嘲り笑ふ)。
smile on a person. (人に目をかけてやる、好意を表はす)。
speak of a subject. (簡單に)。
speak on a subject. (充分に)。
stand against an enemy. (對抗する)。
stand by a friend. (後援する)。
stand on ceremony. (遠慮する、儀式ばる)。
stand to one's opinion. (支持する、主張する)。
stare at one. (目を丸くして見つめる)。
stare upon or on it. (驚いて其の方を見る)。
stick at nothing. (躊躇する、故に何事でも構はずする)。
stick to nothing, 固執する、故に何事にも固執せぬ、飽き易い)。
succeed to the throne. (相續する)。
succeed in something. (成功する)。
suffer from a disease. (罹りて惱む)。
suffer for something. (其事あるか爲めに色々惱まされる)。
sympathise with one. (同感である)。
sympathise for one. (憐む、同情する)。
talk of it. (其の事に關する話をする)。
talk to one. (……へ話す)。
talk with one. (……と談話する、互に話し合ふ)。
treat of a subject. (論ずる)。
treat one. (待遇する)。
wait for one. (待つ)。
wait upon one. (侍づく)。
(上は動詞に支配さるゝもの)。
neglect of duty.

neglect in doing something.
partnership in a thing.
partnership with a person.
reply to a letter.
responsibility to the law.
responsibility for action.
appetite for something.
affection for anything.
taste for hard work. (趣味、好み)。
taste of hard work. (經驗)。
love for anything.
aversion to anything.
objection to a proposal.
antipathy to one.
(以上名詞に支配さるゝもの)。
accomplished in an art.
accurate in his statistics.
accused of a crime.
acquainted with a person or thing.
adapted to his taste. (趣味に適應したる)。
adapted for an occupation. (職業に適應したる)。
affectionate to a person.
afflicted with rheumatism.
afraid of death.
ambitious of distinction.
apprehensive of danger.
anxious for his safety.
anxious about the result.
apprised of a fact.
apt in mathematics. (習熟したる)。

apt for a purpose. (適したる)。
ashamed of his bad conduct.
assured of the truth.
astonished at it.
aware of his intentions.
betrayed to the enemy.
blind to his own faults.
blind of one eye.
blind in his right eye.
born of rich parents.
born in England.
careful of his money.
careful about his dress.
celebrated for his ability.
certain of success.
common to them.
concerned at or about some mishap.
concerned for a person's welfare.
concerned in some business.
confident of success.
conscious of a fault.
consequent on some cause.
conversant with persons or things.
conversant in some matter. (關係する)。
convinced of a fact.
correct in a statement.
cured of a disease.
customary for a person.
deaf to entreaties.
defeated of his purpose.

defective in point of style.
deficient in energy.
delighted with success.
He delighted in novels. (自動詞、常に道樂として樂しむ)。
dependent on a person or thing.
deserving of praise.
desirous of success.
destitute of money.
determined on doing something.
dexterous in or at doing something.
different from something.
diligent in business.
disappointed of a thing not obtained.
disappointed in a thing obtained.
disappointed with a person.
disgusted with a thing.
disgusted at or with a person.
doubtful of success.
dull of understanding.
eager for distinction.
earnest in his endeavours.
eminent for his learning.
engaged to some person. (約束)。
engaged in some business. (從事)。
envious of another's success.
essential to happiness.
exhausted with labour.
fit for a position.
fond of music.
free from blame.

full of things.
glad of his assistance.
glad at a result.
good for nothing.
good at cricket. (上手)。
guilty of theft.
healed of a disease.
honest in his dealings.
hungry after wealth.
identical with anything.
ignorant of English.
ill with fever.
inclined to laziness.
indebted to one.
indebted for some kindness.
indebted in a large sum.
independent of his parents.
indifferent to something.
indispensable to success.
informed of a fact.
inspired with hope.
intent on his studies.
interested in a person or thing.
introduced to a person.
introduced into a place.
jealous of his reputation.
lavish of money.
level with the ground.
mad with disappointment.
made for a soldier.

made of iron.
moved to tears.
moved with pity.
moved at the sight.
moved by entreaties.
natural to a person.
necessary to happiness.
obliged to a person for some kindness.
occupied with some work. (手がふさがつてる)。
occupied in reading a book. (從事してる)。
patient of suffering.
polite in manner.
polite to one.
poor in spirit.
preventive to fever. (熱をさます、形容詞)。
preventive of fever. (熱ざまし、名詞)。
proficient in mathematics.
proper for the occasion.
proud of his wealth.
qualified for teaching music.
quick of understanding.
ready for action.
rich in property.
satisfied of a fact.
satisfied with his income.
secure from harm.
sensible of kindness.
sensitive to blame.
sick of waiting.
similar to a thing.

slow of hearing.
slow at accounts.
slow in making up his mind.
sorry for your sufferings.
sufficient for a purpose.
suitable to the person, place or occasion. (適したる)。
suitable for something.
suited to the person, place or occasion. (適して居る)。
suited for doing something.
sure of success.
suspicious of something.
tired of doing nothing. (飽きた)。
tired with his exertions. (何々をして疲れた)。
uneasy about consequences.
useful for a certain purpose.
useful to some one.
vain of his fine dress.
void of meaning.
wanting in common sense.
weak of understanding.
weak in his head.
weary of doing something.
worthy of praise.
zealous for improvement.
zealous in a cause.
(以上形容詞に支配さるゝもの)。
agreeably to one's interests.
agreeably with some one.
effectively for a purpose.
favourably to one's interests.

offensively to a person.
profitably to oneself.
simultaneously with some event.
subsequently to some event.
sufficiently for the purpose.
(以上副詞に支配さるゝ例)。

B 名詞及び其の相當語なる目的語に支配さるゝ場合の例。
arrive *at or in a city.*
arrive *in a country.* (國の如き廣き場所の時は at は不可)。
gratitude *for a thing.* (事物)。
gratitude *to a person.* (人)。
grief *at an event.* (事物)。
grief *for a person.* (人)。
interest *in a subject.* (事物)。(興味)。
interest *with a person.* (人)。(信用)。
aggravated *at a thing.* (事物)。
aggravated *with a person.* (人)。
allied *to a thing.* (事物)。
allied *with a person or country.* (人)。
angry *at a thing.* (事物)。
angry *with a person.* (人)。
annoyed *at a thing.* (事物)。
annoyed *with a person.* (人)。
associated *in some business.* (事物)。
associated *with a person.* (人)。
indignant *at something done.* (事物)。
indignant *with a person.* (人)。
offended *at something done.* (事物)。
offended *with a person.* (人)。
reconciled *to a position or a condition.* (事物)。

reconciled *with an opponent.* (人)。
responsible *for his actions.* (事物)。
responsible *to a person.* (人)。
vexed *at a thing.* (事物)。
vexed *with a person for doing something.* (人)。
agree *to a proposal.* (事物)。
agree *with a person.* (人)。
appeal *for help.* (事物)。
appeal *to a person.* (人)。
apply *to a person for a thing.*
apologise *to a person for rudeness.*
ask *for a thing.* (事物)。
ask *of or from a person.* (人)。
consult *with a person on a matter.*
complain *to a person of some annoyance.*
die *of a disease.*
die *from overwork.*
fail *in an attempt.*
fail *of a purpose.*
originate *in a thing or place.* (場所、事物)。
originate *with a person.* (人)。
perish *by the sword.* (手段)。
perish *with cold.* (原因)。
on time, (定時期に遲れざる義)。
in time. (時間に間に合ふ心)。
in good condition. (狀態)。
under conditions. (事情、境遇)。
on conditions. (條件)。
depend *on circumstances.* (事情)。
in or under these circumstances. (財政、經濟上の事情)。

at the distance of 100 yard. (距離)。
in the distance. (場所、遠方にの意)。
at the beginning of next month. (初めに)。
in the beginning, Gode made heaven and earth. (まづ)。
to examine *in turn.* (自分の番が來て)。
to examine *by turns.* (交る々々)。
to have *in mind.* (記憶する)。
to have *on mind.* (氣にかける)。
on this side.
on the occasion.
for the purpose.
with the object of doing something.

4. 前置詞各詞の有する意義。

About.

此の語は around (圓周の意味比較的明瞭完全なる) に比すれば場所の概念不明瞭にして只漠然と『附近』の意味を有す、隨つて時に於ても數に於ても大凡其の時、大凡その數の意を有するに至り更に轉じて事物に關係する意味と從事する意味とを生ず。

Her hair hung *about* her neck. (あたりに)。
There was no boy *about* the door. (附近に)。
It was *about* midnight. (頃)。
They were *about* three hundred in number. (概略)。
He is writing a book *about* the origin of the Olympic games. (關する)。
What are you about? (何事に從事して居るか)。

Above.

其の物體を離れて位置のそれより高きを示す、隨て事物の勝れたる事、高尚なる事又以上なる事等を示す。Below に對す。

The sun is *above* us. (高く)。
(over us と云へば吾人を太陽が上空より支配する心あり)。

They value honour *above* wealth. (勝れたる貌)。

She is *above* such a mean action. (品性高尚にして卑劣事に全然無關係の心)。

He awoke *above* ten times during the night. (以上)。

across. (=on the cross).

一方より他方へ物を横ぎる意。

You must go *across* the Atlantic.

He laid the book *across* the knees.

After.

時及び順序に於て物の後れたる意義を有す、故に又追從、穿鑿、捜索、欲望乃至は模倣等の意を有す。Before に對す。

Gentlemen must be served *after* ladies.

He arrived *after* dark.

I ran *after* them.

The divers are *after* pearls.

He thirsts *after* knowledge.

We inquired *after* their health.

This was painted *after* Turner.

Against.

此の語は對抗、反對を意味するが故に敵等に對して事物を侵襲し、甲に對して乙を比較し、損害に對して賠償をなし、未來の出來事危險等に對して準備をなし、又時の前置詞としては未來の時を限りて今より之れを目標として事を行ふ意義を有す、又或る事物の中に色彩等の非常に異れる他の物の存在せる對照を意味する事あり。

Don't lean *against* the wall. (對して倚りかゝる)。

I can not swim *against* the stream. (逆行)。

They marched *against* the enemy. (對抗)。

Palm leaves serve as a protection *against* strong sun-heat. (保護)。

We had only two dogs *against* their three. (比較)。

It is true that she has no beauty, but *against* that you may set

her wit, (償ひ)。

Store up your grain *against* famine. (準備)。

I want a new saddle *against* the race. (未來の出來事を目標とする)。

Against the sky we found a speck. (對照)。

Along.

across に對する語にして線又は面に沿ひて進む貌なり。

He draw a line *along* the margin of the page.

I want a text book *along* this line. (此の種の)。

Amid(st).

單に事物に圍繞されて物の存する意にし among の如く周圍の物と相伍し共同的に働く意味なし故に among はやゝ周圍と調和的なれど amidst は對照的不調和的にして異種類の事物に圍繞さるゝ意あり。

The stream went roaring *amidst* innumerable rocks.

Amid blame and trouble he never gave up his purpose.

They found themselves *amidst* the enemy.

Among(st).

物の仲間に交りて相互に調和し行く意あり、隨つて物を仲間に分配する意にも用ひ又其の仲間に於ける習慣を云ふにも用ひらる。

Howl when you are *among* wolves.

The land was portioned by lot *among* the immigrants. (分配)。

Among our forefathers honour was everything. (習慣)。

Around.

Round.

此の兩語は實用上殆ど區別なけれど around は about に近くやゝ場所の意義漠然たる心ありて又靜止的の場合に適する心持あれど round は何れかと云へば運動的にして圓周の意義甚だ完全なる傾あり。

They sat *around* the fire.

We have just sent invitations *around*.

The wheels turns *round*.

The straw rope was tied *round* the tree.

There is a moat *round* the castle.

At.

此の前置詞は時及び場所の前置詞として常に一點を示し時と場所を明瞭に指す、隨つて事物に於ても細かき點を示す傾きありて率、價格、度、順序、狀態、從事、出席、關係、等の意に轉々す。

He got up *at* daybreak. (時)。

It will begin *at* noon. (時)。

He is *at* the window. (場所)。

The meeting was held *at* Yokohama. (場所)。

The ship was steaming *at* a speed of 10 knots. (割合、率)。

The goods were sold *at* ten yen per case. (價格)。

Thermometre stood *at* 50 degrees. (度合)。

At first they were set *at* liberty. (順序) (狀態)。

They were *at* work while she was *at* play. (從事)。

I was *at* the meeting. (出席)。

They were slow *at* arriving *at* the resolution. (關係) (事)。

He is a good man *at* heart. (心底は) (關係)。

He thought so *in* his heart. (心中窃かに)。

Before.

after, behind 等に對する前置詞にして時及び場所に於て前なる意味を有す、隨つて又優勝の意にも轉じ又自己の面前に存するものに支配さるゝ意義にもなる。

He was brought *before* the chief.

I went to bed a little *before* ten o'clock.

Death *before* dishonour and duty *before* everything.

The general decided to retreat slowly *before* a force so superior to his own. (支配さるゝ心)。

Behind.

物の奥に後ろにの意味にして時に用ひらるゝ事稀にあり。

The dog was *behind* me. (後について)。

after は追つかける心あり。

The sun is shining *behind* the clouds. (奥くに)。

The man *behind* the counter. (奥、向ふ)。

I was left *behind*. (とりのこされた)。

The train is *behind* its time.

You are *behind* in your payment.

Below

Above に對する語にして位置の下なる意味を有し隨つて劣れる心にもなる。

The water wheel is *below* the bridge.

The surgeon cut off the leg *below* the knee.

A captain of army ranks *below* a major.

Beneath.

Below と同樣に物の下位に在る事を示すも唯垂直に下位に在る意味を有し從つて劣れる意味も强く殆んど無價値の心に近し、故に below に under の意味を加ふればやゝその意味を知る事を得。

Beneath the cliff runs a gurgling stream. (直下)。

Beneath this stone he lies. (under).

That is *beneath* our notice. (迚も注意の價値なし、コンマ以下なり)。

It would be *beneath* the gentleman to do that. (紳士たるものは迚もこんな事は出來ない)。

Beside.

物の側に在る心、從つて種々比喩的に別義に轉ず。

She took her seat *beside* me.

The custom-house is *beside* the steamship office.

It is *beside* my present purpose to enlarge upon the subject.

He was *beside* himself (almost mad).

You speak *beside* the question. (顧みて他を云ふ)。

Besides.

附加する意、轉じて除外する心。

Besides these, I have some at home. (加ふる心)。

Is there anything to drink *besides* tea. (除く心、外に)。

Between.

二個の物の間の意にし三個以上には among を用ふ。

A railway was laid *between* the two cities,

Belgium is *between* France and Holland.

There was no love *between* these three brothers. (love は二人宛相互間のものなれば斯く使用し得)。

The lake lies midway *between* Nikko and Yumoto.

They possess the property *between* them. (二人)。

Choose *between* a fine and imprisonment.

Beyond.

越えて、先き、又過ぎて、彼方の意にして場所にも時にも使用し又事物の場合にも轉用す。

The village is *beyond* the bridge.

He lay in bed *beyond* his usual time.

The task is *beyond* his strength.

Such a story is *beyond* belief.

But.

此の語は except の如く物を除外する意なれど其の用途 except より狹く no, any, all 及び最上級の形容詞等と共に用ふ。

All *but* one were caught. (all).

It is the next room *but* two. (二つおいて次の室)、(next).

He is the youngest brother *but* one. (youngest).

He is anything *but* healthy. (健康どころか)。(any).

That is nothing *but* wrong doing. (no).

By.

此の前置詞は元來『接近』の意味を有するより場所を指し、轉じて時

を限り、更に又數量を定むる等に使用さる、而して事物に接近しそれに沿ふ心より手段を表示するに用ひられ此の義より轉じて働作を司どる主體を示す、又手段を表示する意義より更に他の方面に轉じて理由、狀態を示し尙ほ進んで人の職業、身分、姓名等を示說するに用ふ。

I saw a dog lying *by* the side of the road (かたわら)。

The pine tree stands *by* the well. (そば)。

We walked *by* the river. (沿ふて)。

Come back *by* six o'clock. (までに、よりおくれずに)。

I will be back *by* this time to-morrow.

The owl sleeps *by* day and feeds *by* night. (晝は……夜は……)。

He is taller *by* a head than John. (だけ)。

Pork and beef are sold *by* the pound. (單位を示す)。

By degrees the color faded. (度合を示す)。

I am going *by* train. (で、手段を示す)。

The book was written *by* Goethe. (働作主體)。

He was helped *by* his father.

A way was opened *by* pioneers with axes.

(by は働作主體を with は道具を示す)。

By his accent I thought him to be a Scotchman. (理由)。

He succeeded *by* chance. (理由)。

We walk *by* faith, not *by* sight. (狀態)。

He is a Chinese *by* birth, and a tailor *by* trade. (產れ、職業)。

An old philosopher *by* the name of Diogenes lived in a tub. (名)。

Down.

up に對す。

They run *down* the slope.

Go *down* the hill.

Despite.

此れは *in spite of* に等し。

Despite my efforts he was not elected.

During.

或る一定の時の間常に事の續く心。

During this anxious night, he could sleep only one hour.

During his rule the country enjoyed peace.

Except.

事物を除外する意。

All were drowned *except* (but) one man.

He has few friends *except* her.

They were all killed, *except for* the little boy.

(*except for* は邦語の但し何々だけは除きの義にして次に來る目的語を强く指示する心あり)。

Except your packages, they were all damaged.

They were all damaged, *not excepting* your packages.

(not の來る場合 excepting を用ふるに注意)。

Concerning.

關係する意にして respecting, touching, regarding, relating to 等に等し。

I should like to talk with you *concerning* the matter.

For.

此の前置詞は before の意より來り或る事物の前に或るものを對立せしむる意にして從つて方向と目的、配分と寄與の意より又轉じて關係、比例、割合、等の意味より又更に理由を指示し交換、返酬、代理、資格、名義、支拂、一致、等の意義より又距離、時間の範圍を示すに用ひらる。

They set out *for* home. (方向)。
The ship is bound *for* Australia
He is going to Izu *for* change of air. (目的)。
For this purpose we are here.
My voice is *for* war. (贊成)。
He fought hard *for* his friends. (ために)。
She is in *for* dance this evening.

I fought *for* the doctrine.
This stuff is not fit *for* food. (適する)。

This is *for* you. (配分)。
Good fortune is not *for* such as I. (寄與)。
What can I do *for* you?

He does not hold himself responsible *for* that. (關係)。

He is tall *for* his years. (比例)。

For all his learning, he has little sense. (割合には、かかはらず、引きかへ)。

They were beheaded *for* treason. (理由)。
He could not do so *for* fear of her.

He sold his house *for* a small sum. (交換)。
What a noble mind to return good *for* evil! (返酬)。
I used large shells *for* plates. (代理)。
We took him *for* his brother. (誤認)。
It is not to be had *for* money or *for* love.

We walked *for* an hour. (時間)。
He is imprisoned *for* life.
For a mile and a half the road lay by the side of the river.
The whole land was under water *for* miles and miles.

From.

此の語は本來時、場所、事物よりものゝ分離する意なれば從つて動機、起元、原因、を示し一面又轉化、相違、抑止、不在、隱蔽、免除、救護等種々の意味を產む。

How far is it *from* school? (距離)。
He started *from* here. (出發)。
Take two *from* four. (分離)。
He dwells apart *from* the other people.
He fell *from* the horse.

We have the article *from* five cents upwards. (五仙から以上の價のもの)。
The sky changed *from* blue to pitchy black. (轉化)。
This is different *from* that. (相違)。
We were hindered *from* entering the room. (抑止)。
The house is hidden *from* view. (隱蔽)。
He is absent *from* school. (缺席)。
I live now free *from* all cares. (免除)。
He rescued her *from* being drowned. (救護)。
It is far *from* being true. (相異)。

I traveled *from* Tokyo to Kyoto. (起點)。
This is a quotation *from* Shakespeare. (起原)。
They acted *from* no unworthy motive. (動機)。
I did that *from* gratitude. (原因)。
He is suffering *from* a disease. (原因)。
He was weak *from* his youth up. (時の起元)。
You must begin *from* daybreak.
I shall be at home *from* one to three.

In.

事物が時、場所、又は事物の中に存する意より事物の狀態、位置、形體等を示し又人の事を行ふ方法、職業、從事等の意をも有し、更に形式、數、量、材料、度合、根據、等を示し又 in the point of. (何の點に於ては、何々に關しては) の意味より事物の關係を云ふに用ふ。

Rice is planted out *in* June. (時)。

1. *in* 1920. (年、月等比較的長き時には in なり)。
2. *in* the evening; *in* the morning.
3. *on the morning of the 1st*; *on Sunday*; *on the 2nd*, (定まれる日を示すには on を用ふ)。
4. *at ten o'clock.* (時間には at)。

It will be done *in* ten days. (十日立てば出來るだらう、期間の如きは長き時間なれば in を用ふ)。

I shall be back *in* three minutes. (期間)。
He is *in* the garden and she *in* the room. (場所)。
Hokkaido is *in* the north of the Main Island. (北部の場所に)。
It is [to the] north of the town. (北方、方角のみの意)。
It is on the north of the lake. (北側、side を示す)。
Japan is *in* Asia.
He is a wolf *in* sheep's clothing. (服裝)。
You see a lady *in* white. (服裝)。
Keep it *in* mind.
I read it *in* the newspaper.
He is *in* a deep slumber: (狀態)。
The thief was put *in* chains. (狀態)。
He is *in* bad temper. (狀態)。
They were *in* a high state of patriotic excitement.
In health the pulse is about seventy-two a minute.
I spoke it *in* a whisper. (方法)。
It may be solved *in* another way.
He claimed it *in* right of an ancestor. (形式)。
He shook his head *in* denial.
God created man *in* his image.
They are found *in* great mumbers. (數)。
It is produced *in* a great quantity. (量)。
It did not harm me *in* the least. (度合)。
A statute cut *in* marble was found. (材料)。
It was wrought *in* gold.
Virtue consists *in* doing right. (根據)。
He is engaged *in* the business. (從事、職業)。
I took pleasure *in* accepting this. (關係)。
They are varted *in* color and size. (關係)。

It is ten feet *in* length.

In power of describing natural scenery he has no equal.

Though rough *in* appearance, he is mild *in* manner.

Into.

事物の中へ物の動き移る義なれば從つて狀態の變化を示す。

All ran out *into* the street.

One stream flows *into* the other.

I poured the oil *into* the lamp.

She sat late *into* the night. (時)。

He stayed in the place *into* the middle of July. (時)。

I entered *into* conversation with him.

I made an investigation *into* the matter.

Do this *into* English. (變化)。

A caterpillar changes *into* a butterfly. (變化)。

England, Scotland and Irland were united *into* one kingdom.

Water is changed *into* steam by heat.

He fell *into* low spirits.

It sprang *into* blossom.

Of,

元來此の語は off, from 等と同じく事物の分離關係を示すものにして分離を示すと同時に又其の根源を示すにも用ひらる、然かれども其の主要なる意義は離出關係より轉じて本體に附屬する意義を示す所の所屬關係にして傍ら又部分關係をも示す、英語に於て所屬關係を示す語は本來所有格 ('s を以て表はす) なれど所有格の用ひらるゝ範圍は限定され居りて殆んど生動する物にのみ限られたれば其の範圍以外に於て所屬關係を示すには勢ひ of に依らざる可からず。

The boy's hat.
The top *of* the mountain.

更に上揭の二つの形を檢するに所有格の語 boy's は常に强勢にして又 of の形に於て the top は常に强勢なれば of the mountain なる of に

率ひられたる句は常に弱勢なる傾向を有す、此の弱勢の傾向が更に進みて此の前置詞句が所屬を示す意より轉じて單に形容語となり專ら形容關係を示すに至り又場合によりては同格關係を表示することあり。

又前に述べたる根源を示す of より更に一轉して單に事物の關係をのみ示す場合も少なからず。

They robbed him *of* his money. (分離)。

I wish I could get rid *of* him.

I am cured *of* rheumatism.

I borrowed it *of* them. (根源)。

This comes *of* your neglecting the duty.

He comes *of* a noble family.

Evil comes *of* evil.

It took place in a room *of* the church. (所屬)。

Look at the ball on the roof *of* the house.

The noise *of* the train was heard.

What is the thickness *of* the board?

The hue *of* her lips was whitish.

This is one *of* the three. (部分)。

Give me a cup *of* tea.

Some *of* them were foreigners.

He is a man *of* letters. (形容)。

Is he a man *of* means?

He has nerves *of* iron.

The city *of* Tokyo. (同格)。

I have an experience *of* his kindness. (關係)。

Though ignorant *of* botany, I am fond *of* flowers.

What do you think *of* it?

Yes, I know *of* such a fellow.

Notwithstanding.

despite (=in spite of) は無視する意なれど notwithstanding は兩立並

行せざる意なり。

He failed *notwithstanding* his good intentions.

Notwithstanding these difficulties, he set to work.

Off.

on（接觸を意味する）に對する前置詞にして分離を意味す。

I am *off* my work to-day.

Ceylon is an island *off* the south of India.

He committed suicile by jumping *off* the top of the tower.

Out of.

Into の反對の語にして事物より分離移動する意なり、故に原因、を示し又一面に於て除外の意を有し且つ in に對しては事物の外に在る意義を示す。

Get *out of* the way.（分離移動）。

Don't throw thing *out of* the window.

He wrote it *out of* his own head.（起源）。

He said that *out of* ill temper.（原因）。

It is *out of* number.（除外）。

Is he *out of* the town?（外）。

On and upon.

Upon は素より up+on の意なれど實際上此の兩語が區別さるゝ場合殆どなし、唯語句の調子によりて擇ばるゝ傾向あり、此の前置詞は物の表面に接觸する意にして從つて事物を支持する根據を示指す、此の根據の意義より、理由 條件、誓約の手段、依賴等を示すに至り次に接觸せんとする目的物への方向をも表示し更に轉じて關係をのみ示す、而して根據、基礎の意は變じて或る狀態に身を置く意義ともなり、又時に關して用ひらるゝ場合には明かに定まれる日、夕方、夜を示すものとなり或は或る事件の結果に依る意味より『何々するや即刻』の意を生ず。

The lamp is *on* the table.（接觸）。

Write it *on* the paper.

What are there *on* the ceiling and the walls?

Snow lay thick *on* the ground.

A dwelling *on* a farm is called a farm-house.

He is standing *on* the ground.

We gathered fruit *in* his grounds.

上の二例を比較し又 a set determination *in* his face と a smile *on* his face を比較すれば on は常に物の surface（表面）を指す心ありて從つて又 in の場合より比較的觀念の明白なる即ちまとまりたる object（事物）を目的語とする傾向あり。

It stands *on* the right hand side of the street.（側）。

The city is situated *on* the river.（臨みて、ほとりに）。

接觸より生じたる此の on は『河にのぞみて』『河のほとり』など云ふ意にして大體その附近を示し猶ほ漢文にて『枕頭』又は『枕上』など云ふ時の頭、上に相當す。

We live *on* rice.（根據、たより）。

He is dependent *on* his brother.

We rely *upon* him.（依賴）。

His novel is founded *on* fact.

On what ground do you say that?（理由）。

On doctor's advice I gave up smoking.

He gave up the scheme *on* this account.

I accepted it *on* this conditon.（條件）。

On any condition I will not consent to it.

He swore *upon* the Bible never to divulge the secret.（誓約）。

Upon my honour, I will do it.

Japan declared war *on* Germany.（方向）。

The troops marched *on* the town.

They made an attack *on* the castle.

The house faces *on* the south.

The telescope was set to bear *on* the star.

Reflect carefully *on* the matter.（關係）。

We agree with them *on* this point.

They are *on* sale now. (狀態)。

I have been *on* duty.

The house is *on* fire.

The vacation began *on* the tenth of last month. (日)。

He is to arrive *on* the evening of next Sunday. (夜)。

On a cold night of December he left the village.

Sometimes *of a evening* I have about twenty callers.

(of a evening 夕刻などには)。

On his arrival I will tell it to him. (即刻)。

The idea occurred to me *on* his taking leave.

Outside and inside.

Footsteps *outside* the room show that some one has been here.

It lies *outside* of my interests.

The tree stands *just inside* the gate.

Inside the room all was in silence.

Over.

事物を蔽ふ意の前置詞にして轉じて事物の全體に行き渡る意、事物を支配する義、神身を或る事物に沒頭する心、過度又は以上の意味等に使用さる、又事物を越え、過ぎ、渡り、終る等の意もあり。

The sky is *over* us. (蔽ふ)。

The flying-machine flew *over* the hill. (越ゆ)。

He pulled his hat down *over* his eyes. (蔽ふ)。

He took me all *over* the building. (行き渡る)。

The shepherds were keeping watch *over* their flocks. (支配、監督)。

They had a king *over* them. (支配)。

He wept *over* the misfortune. (沒頭)。

They sat talking *over* tea and cakes.

Over three hundred of the inhabitants were killed. (以上)。

Owing to.

何々に左右されて、何々のせいで、何々の御かげで。

Owing to the bad weather, he could not go out.

Past.

It was *past* midnight. (時)。

A carriage went *past* me.

They *go past* it. We *ran past* them. A bullet *whistled past* me.

上例の如き動詞の時は前置詞が past なれど動詞 pass を用ふれば to pass by となりて前置詞が by となる。

We *passed by* them.

The patient is *past* hope of recovery.

Since.

此の前置詞は過去に於ける或る時以來或る事件動作が今日迄繼續せるを示すに用ひらる、故に現在完了時と共に用ひらるゝ事多し。

Since the day before yesterday, I have been here.

Since his boyhood I have known him.

It is not a year *since* its establishment.

I have lived with my uncle *since* then.

Than.

比較の意味の前置詞にして又差違を示す。

I will not take less *than* one thousand yen. (比較)。

I took with me no other person *than* him. (相違)。

Through and throughout.

此等の前置詞は事物の全延長を通過する意にして轉じて仲介の意より、又原因、動機、侵置等を示す、而して throughout は all through の義にして、意味 through より重く all over (行き渡る) の意を含むこと多し。

The railway runs *through* the town. (通過)。

We walked *through* the wood.

It came down to me *through* many hands.

The rumour spread *throughout* the country. (行き渡る)。

Throughout the sixteenth century disputes about religious embroil-

ed Europe.

He will hardly live *through* the winter.

I have sent the money *through* the Mitsui Bank. (仲介)。

I talked to him *through* an interpreter.

He rose to a high position *through* sheer industry. (理由)。

Through the swiftness of the horse he was safe. (便宜)。

I could do it *through* his help.

All this was done *through* envy. (動機)。

Till and until.

兩者の間に區別なし to の古體に unto ある如く until は古體の遺物なり、唯句調によりて兩者を取捨す、又 until は寧ろ接續詞として多く用ひらる、何時までと時を限る意味を示す。

I shall stay here *till* the end of next month.

I did not know of his death *until* the notice appeared in the newspaper. (接續詞)。

He was true *till* death.

I will stay here from seven *till* ten.

To.

根本觀念は目的物を目指す運動にして時には其の目的物を指すを重なる意味とし所屬、連結、附加、結果、適應、調和、追從、對應、反對、比較、比例、等の關係を示し又方向に重きを置く意より轉じて方角を示す、而して運動が目的物にて止まる意より限度を示すに至る場合も多し。

I have been *to* my native place. (目指す運動)。

I go *to* school.

We were invited *to* a dinner.

He is private secretary *to* the minister. (所屬)。

There are two sides *to* every question.

That is the porch *to* the house.

This added *to* his fame. (附加)。

Fasten the rope *to* the tree. (連結)。

Love of knowledge is allied *to* love of truth.

He was burnt *to* death. (結果)。

It was done *to* your benefit.

It ended *to* his ruin.

A telegram *to* the effect was sent.

Dance *to* the music. (調和)。

The curtain fell *to* slow music. (從伴)。

He was bred *to* the law. (適應)。

Every man may act according *to* his taste.

It sounded strange *to* us. (對應)。

They fought hand *to* hand. (對抗)。

I have no objection *to* it.

This is opposite *to* that.

Two *to* one is not fair play. (比較)。

Ten is *to* fifteen as two *to* three. (比例)。

This is nothing *to* what we expected. (比較)。

The lake lies *to* the north of our town. (方角)。

Far *to* the south a plume of smoke was seen.

I sank up *to* my knees in mud. (限度、度合)

Count *to* ten.

The items come *to* 5 dollars.

Ye shall pay *to* the last penny.

Toward(s).

此の語も To と同樣に目的物へ向ふ運動を示し又方向をも意味すと雖 To の如く目的物を指す事强からず、To は目的物に到達する意强けれどもこれは唯向ふ運動をのみ示す。

They are hastening *towards* the city.

I was draw *towards* the side of the king.

They were kind *towards* the travelers.

We may meet him, if we walk *towards* his office.

All eyes were directed *towards* the door.

He made every effort *towards* the conclusion of peace.

Towards evening we came to a village. (頃)。

He touched the question *towards* the end of the speech.

Under.

此の語は物を蔽ふ意の over に對して事物に蔽はれたる場所位置を示し、over が眞上を示すに反して眞下を示す、Below は唯位置の下方なる事を示すのみなれど under は事物に蔽はれて其の下に在る意にして beneath (垂直に下位に在る事を示す)にはゃゝ under の意ありて此等兩語相合して underneath となり物の眞下に物を蔽ひ隱くす意に用ひらる。

under は又其の根本義より轉じて服從、依賴、保護、包含、隱蔽の意をも示し又更に事情を述ぶるに用ひ尙ほ轉じて劣れる意、下位に在る意、以下未滿の意等にも用ひらる。

I found the money hidden *under* the bedding. (隱蔽)。

We were seated *under* the tree. (蔽はれたる場所)。

They all fall *under* the same head. (包含)。

The child was left *under* the care of a governess. (保護監督)。

The house is *under* repair. (事情)。

His proposal is now *under* consideration.

They enjoyed the peace *under* this sovereign. (服從)。

He studied painting *under* several masters. (依賴)。

He was traveling *under* a false name. (名義、口實)。

He did this *under* the name of charity.

He was *under* twenty. (未滿)。

Formerly merchants ranked *under* artisans. (劣れる意)。

No one *under* Chokunin rank was invited. (〃)。

He weighs *under* ten stone.

Up.

Down に對し下より上に移動する意。

The monkey is seated *up* the tree.

He ran *up* the hill.

They swam *up* the river.

With.

此の前置詞の本來の意義は事物の間の連結にしてそれより物を所有する意を生じ更に物を道具として使用する觀を示す、而して連結共同の意義は時にも場所にも性質狀態にも又事物一切に渡りて使用され、隨つて關係、原因、樣子等より友誼、敵意、混入、一致、調和等種々なる意義を表示するに至る。

He lived *with* her aunt. (共同)。

Connect this *with* that. (連結)。

The duel was fought *with* swords. (道具)。

He destroyed the city *with* fire. (手段)。

Fill the bottle *with* water.

The floor was covered *with* a carpet. (道具)。

He is ill *with* influenza. (原因)。
She was beside herself *with* joy.
I am tired *with* reading.
She was silent *with* shame.

He looked upon us *with* anger. (其時の樣子)。
I will do it *with* pleasure.
Work *with* earnestness.
With ceaseless motion comes and goes the tide.
He listened to me *with* a look of distrust.

What is the matter *with* you. (關係)。

He tried to find fault *with* her.

Religion means gloom and sadness *with* me.

I have influence *with* him.

We agreed *with* them. (一致)。

On this point, I differ *with* him, (不一致)。

I am friends *with* her. (友誼)。

We must fight *with* them. (敵對)。

They soon became mixed *with* the crowed. (混入)。

His views don't accord *with* mine. (調和)。

They wear dark blue coats *with* big buttons. (所有)。

Do you see a vase *with* two handles.

He is the man *with* toothache.

The boy is in a fever. (全身に渡る病氣は in にて示し局部的の病氣は with にて示す)。

Within and without.

In は唯事物の中に物の存する意なれど *within* は限界の內側に物の存する意なり、inside は限界に接したる內側なれど within は限界の中に事物の限られたる意なり而して此の前置詞は時を示すにも用ひらる、*without* は within に對し或る限界外に物の存する意なれど此の前置詞は多く事物のなき事所有せざる事を意味するに至れり、而して without は時を示すに用ひられず。

Keep *within* the door.

It was *within* his grasp. (もはや手の中のもの、in なれば既に掌中のものとなりたる意)。

She is not *within* hearing.

It is *within* easy reach.

It stood *within* ten yard of me.

So many buildings stand *within* the walls.

He is certain to be back *within* five or six days. (以內、in なれば五六日立ちての意)。

The cat had to sleep *without* the door.

I can not do *without* the dictionary.

You can not come in *without* paying, but you can pay *without* coming in.

練習

1. 世に宥し難き事ども多きが中にも彼の黃色紙の無責任なる放言殊に國際關係などに關するもの程迷惑至極のものはあらじ。

Of all reprehensible things in the world, nothing is so troublesome as careless and irresponsible utterances of the yellow papers, especially on international relations.

2. 事業の成否は人の覺悟と能力とに依ると共に又年齡と密接の關係があるものである、晚年に至つて大業をなし遂げたるものもあるけれども其の事業の基礎は必ず早く青年時代或は壯年の時代に置かれたものである。 (七年、東北、農)

While one's success or failure in a work greatly depends on one's ability and will-power, it is also closely related to one's age. There is no denying the fact that some great works have been completed in the last years of distingnished lives, but that the foundation of them has been laid in the youth or manhood.

3. 氣候不順なため本年は昨年よりも病人が餘程多い。 (五年、醫、專)

Owing to the unseasonableness of the weather this year has seen far more sick persons than last year.

4. 明日の午後か遲くも明後日には必ず御返事を差上げます。 (五年、東北、工)

I will reply to you without fail by to-morrow afternoon, or the day after to-morrow at the latest.

5. 現代各地に行はるゝオリンピック大會の起源は古代希臘に

ありて、當時の大會は四年目毎に催さるゝオリンピヤの大祭に行はれ四日間にわたるものであつた。

The Olympics, which are held now at various parts of the world, have their origin in the ancient Greece, and the games of those days were played for five days in succession on the occasion of Grand Olympian festival, celebrated every four years.

6. 近頃神保町邊の珈琲店などの店頭にアイスクリームソーダと云ふ廣告をよく見る、あれは二三年前亞米利加人が始めた飲料で、今では巴里で大流行だそうだ、ほんとうの米國のアイスクリームソーダは非常にうまいと云ふ話である。

Lately we often come across a notice, bearing the word "Ice Cream Soda" and put up in front of some Coffee-houses in Jimbo-cho and its neighbourhood. The word means a drink which originated with the Americans a few years ago and is, it is said, much in vogue now in Paris. People say that real american ice cream soda tastes very nice.

7. 立體派は感傷派若しくは印象派の變體とも云ふべく事實其の物より得たる感情を事實に歸することなくして表顯せむとするものである、音樂家は自己の感情を諸君に示すに例へば小鳥の運動に關する感情ならば小鳥なる物を離れてよく之れを諸君に示す、而して諸君は全然小鳥を思ふ事なくして其の音樂を充分に經驗し得るのである、然して立體派の人は之れと同じ行き方を以て自己の有する事物の經驗を表顯するに事物其の物を吾人に示す事なくして云はゞ目に訴ふる音樂の形式を借りて之れを爲すものである。

Cubism might be another form of sentimentalism or impressionism. It tries to express the feeling from a a fact without holding on the fact itself. The musician can well give you his feelings about, say, the movements of birds without the birds, and you may fully experience the music without thinking of birds at all. Now, the cubist is doing the same thing, to express his own experience of things, so to speak, in a music to the eye without giving us the things themselves.

8. 七月二十九日、ロサンヂルス來電、カタリナ群島の保安官アヴァロン氏の報告によれば同群島に於て日本人漁夫と濠洲人漁夫とは紛爭をきわめつゝありと云ふ、日本人は濠洲人を責むるに强いて彼等をして漁場を去らしめたるかどを以てせり。

Los Angeles, July 29.——Justice of the Peace Avalon, of the Catalina Islands, has reported that Japanese and Australian fishermen are in conflict in the islands. The Japanese charge the Australians with having compelled them to leave the fishing grounds.

9. 白耳義議會は普通選擧法案を投票を以て可決せり。其資格としては年齡二十一歲に達すべき事と、六ケ月以上國內に居住する事とを要す。

The Belgium Chamber of Deputies voted in favour of the universal suffrage bill. The qualifications are that the age must be 21 and the residence in the country not less than six months.

10. 現今世界の事情は日を逐ふて我國民の責任をして重からし

む苟も青年學生たる者今後一段の精勵を加へ一意學業の研鑽に勤むると共に專心德性の修養に從ひ他日業を卒へ社會に出で能く邦家須要の器材となりて國運の發展に寄與し以て聖代の惠澤に報ゆる所なかるべからず。

The world affairs of the hour are requiring our countrymen more and more keenly day after day to fulfil our duty and do much for the sake of mankind. Every student must try to repay our Emperor for His blessings of the peaceful and glorious reign, taking to more diligent prosecution of his studies and more earnest cultivation of his moral character, to be able, when he has left school and start in life, to make a pillar of our country and render a great service to our national prosperity.

第三篇

文章の要素と構造

第十四章 要素

The Swedish lumber-men on this coast are now investigating if it is possible to raft lumber from British Columbia to Europe.

此の文に於て it is possible to raft lumber from British Columbia to Europe の如くそれ自身完全なる文章を爲しながら更に全體の文章中に於て一要素の狀態に在るものを節(clause)と云ふ、又 on this coast; from British Columbia; to Europe の如く完全なる文章には非れども各まとまりたる觀念を表はし文章中の要素を爲すものを句(phrase)と云ふ、而して句の中には成句、又は熟語と稱して宛も一語の如く取り扱はれ居るもの多きは人の知る所なり。

然れば文章の三要素として語、句、節の三つを學ぐべき事を知るべし。

又此の文章に於て最も主要なる語は lumber-men(主語)にして the なる冠詞と Swedish なる形容詞と又 on this coast なる形容句とを有す。次に重要なるは are investigating なる動詞にして此れに附隨する語としては now(時の副詞)及び其の目的語たる if it is……to Europe なる節との二つなり、if は接續詞にして it is 云々の節を率ひて investigate なる動詞の目

的を表示す、されば主語と動詞とは文章の二大中心にして此の二つさへ具備すれば如何に單簡なる文章と雖完全なりと云ひ得べし、主語を修飾するには形容詞的要素あり、動詞を修飾するには副詞的要素あり而して文章中の語、句、節、等を連結する連絡語を之れに加へて文章は次第に單純より複雜に移るものなり、今文章中の要素を示して試に表を作る事左の如し。

1. 主語要素（名詞、代名詞、名詞根詞、帶詞、句、節）。 2. 動詞。	文章の二大中心。
3. 形容詞要素（冠詞、形容詞、分詞、形容根詞、句、節、其他の形容詞として用ひられる語）。 4. 副詞要素（副詞、副詞根詞、句、節）。	修飾語。
5. 連絡要素（接續詞、關係代名詞、疑問代名詞、接續副詞）。	連絡語。

主語要素の例。

1. **The tree** stands there. （名詞）。
2. **He** was present. （代名詞）。
3. **To know** is to do. （名詞根詞）。
4. **Sailing** on a lake is very nice. （帶詞）。
5. **How to do it** is now under study, （句）。
6. **That it is true** is quite clear. （節）。

動詞の例。

1. I **was looked at.**
2. They **are** soldiers.
3. We **saw** them.

形容詞要素の例。

1. **The whole** class agreed to it. （冠詞、形容詞）。

2. The dog **running** this way is yours. （分詞）。
3. I want to have something **to eat.** （形容根詞）。
4. The man **in the room** is your uncle. （句）。
5. I showed him a book **which was mine.** （節）。

副詞要素の例。

1. They stood **firmly.** （副詞）。
2. He is hard **to please.** （副詞根詞）。
3. He has done it **with a firm resolution.** （副詞句）。
4. He was **so** frightened **that he could not speak.** （節）。

連絡要素の例。

1. He **and** I went out, **but** she stayed at home. （接續詞）。
2. He is the man **whom** I have spoken of. （關係代名詞）。
3. Do you know **where** he lives? （疑問副詞）。
4. I want to know **which** is for me. （疑問代名詞）。
5. We asked them **if** they were to do it. （接續詞）。
6. I shall be satisfied **so long as** he is faithful to me. （接續副詞）。

第拾五章 構造

前篇に述べたる如く、種々なる要素の働きにて文章は單純なる狀態より次第に複雜なる構造を有するに至る、而して此の構造の上より文章を分類して (1) 單文 (2) 複文 (3) 合成文の三となす事を得。

(1) 單文とは一個の主語を有しそれに對して唯一ケ條の事柄が述べられたるものなり、但し修飾語は何程之れを有するも妨げず。

1. That is a book.
2. He speaks English very well.
3. Standing at the door, he saw us at once.

(2) 複文とは一個の主節と一個又はそれ以上の從屬節とより成るものを云ふ。

1. Everybody knows that the world has made a great progress.
2. We can not see what he is doing.
3. The fact that I am now present at this meeting is a clear proof of my having a great regard to the purpose of this meeting.

(3) 合成文とは二個又はそれ以上の節が對立的關係にある文を云ふ。

1. John is an English boy and Mary is an American girl.
2. He is tall but (he is) weak.
3. He is a man of some years and experience, but he is apt to be imprudent.

斯るが故に單文は唯一個の中心を有し複文も亦主要中心は一個にして唯、單文と異る所は別に從屬的小中心を所有する事なり、而して合成文は二個又は二個以上の中心を所有せるものなり、素より修飾語の多き單文は簡單なる複文又は合成文よりも長き事往々にして之れありと雖、大體に於て合成文は複文より又複文は單文よりも複雜なる思想を表顯するに適する理なり、

此の故に表顯せむとする觀念の輕重、修飾語の强弱等を能く考慮し一個中心の單文を用ふるか又複文にすべきか更に又複中心の合成文を用ふべきかは自ら作者の運用に存するや云ふを待たず。

唯玆に注意すべきは單文は語簡にして意明らかなる性質を有すれば之れを重ねて用ふる場合全體の文章に能く力を生ずることを得れども又一面より其の度を過ぐる時は文章の暖か味を損ずる恐れなしとせず、文章を作爲する者よく此の理を考へ力强き單文と連絡語に富みて柔らかき複文と複中心にし動もすれば文意を不明ならしむる素質ある合成文とを適度に折衷交錯せしめて各自適當の文章を綴る樣充分注意せざる可からず。

文體は人格なりと云ふ語あり、明瞭なる文、晦澁なる文、力ある文、弱き文、華やかなるもの、おちつきてじみなるもの、はた又重々しき文、輕跳なる文、乃至は莊重と輕妙と絢爛と素朴等が多くは作者自身の性格の此の三樣の構文の混合量如何に及ぼす況響に存するものなる事を思はゞ文を作る者三思する所なかる可からず。

素より場合によりては必ず單文にせざる可からざる事もあり又或は合成文ならざる可からざる場合もあれど、時には又同じ思想を表顯するに此の三樣の構造何れにも依賴し得るものなり、斯かる場合に臨みてその何れの構造に倚るが至當なるかは文章前後の關係にまつと共に又作者の意の向ふ所如何によりて定まるものなり。

試みに同じ邦文を同時に此の三樣の構造の英文を以て譯し得る場合を例すること左の如し。

的をはずすに決つて居ますから、僕には射擊は無用です。

1. Being almost certain to miss mark, I need not

shoot, (單文)。

2. As I am almost certain to miss the mark, it is of no use for me to shoot. (複文)。

3. I am almost certain to miss the mark; so it is of no use to shoot. (合成文)。

(1) 單文譯に於ては特に I need not shoot に重きが置かれ的をはずすに決つて居ると云ふ申し譯は文の冒頭にはあれど比較的輕く片附けたる感あり。

(2) の複文譯に於ては as なる接續詞を以て此の申譯の語に訴ふる意をもたせ得て (1) の時より重味を生じたり。

(3) の合成文譯に於ては的をはずすに決つてると云ふ事を斷定的に云ひ放しにして併せて射擊を試みる必要もなき事を強く言ひ足したる感ありて二つの事を併立せしめて表はしたり。

第四篇

第拾六章 直接說話と間接說話

I 直接說話より間接說話へ

說話を傳達するに當りて其の說話通り一語を違へず傳ふる場合と又其の大意を取りて傳ふるものとの二樣あり前者を直接說話と云ひ後者を間接說話と云ふ。

直接說話を間接說話に變じ又反對に後者を前者に變ずる事は大概常識上の事にして別に難しとする所なしと雖、能く意を用ひざれば往々にして誤謬を生ずる事なしとせざれば左に大要注意すべき諸點を示さむとす、殊に英語の語法と日本語のそれと異る點の如きは留意を必要とすべし。

He says to me. "You must come at once" (直接說話)
He says that I must go at once. (間接說話)。

They say, "We will soon be back here."
They say they will soon be back there.

注意。(間接話法中の shall, will につきては既に助動詞の條に之を述べたり)。

Then I said, "I have some money."
Then I said I had some money,

主節の動詞が過去なれば從節の動詞は過去又は過去完了なる事は動詞の時の一致の條にて既に之れを知れり。

said の次の that は略すも可。

{Mother said "I will have these."
{Mother said that she would have those.

{They asked, "Who will go?"
{They asked who would go.

{He asked me "Is this yours?"
{He asked me if that was mine.

疑問文を直接話體より間接話體に變ずる時疑問詞なき時は if, 又は whether を挿入す。

{He said to me, "Don't go."
{He told me not to go.

命令文の場合には tell, ask, propose, order など適當の動詞を用ひ其後に根詞の形を用ふ。

{He cried "How sad I am to hear it."
{He expressed his sorrow at hearing it.

感動文は其の意味を損ぜぬやう適當の間接體に變ず。

{He said, "I should like to see her, if I could.
{He said that he should like to see her, if he could.

{He said, "The earth is round."
{He said that the earth is round.

{He said, "We can not be immortal."
{He said that we can not be immortal.

假令主節の動詞が過去なりとも從節に於て眞理、習慣、等が述べらるゝ場合には從節の動詞の時は現在なり、動詞の時現在の條參照。

II 直接說話文體裁の研究

1. "You are quite right," said his father, laughing. "The world has made a great progress, especially in our own times."

2. He said, "Well, you will make a great statesman, Master Tom."
3. "O yes, I want one," answered the boy simply.
4. "Yes," said Harry, "but it must be a true story."
5. "Well," said the captain, "I think I can tell you a true story."
6. "So you want me to tell you a story?" said old Captain Spanker of the British navy.
7. "Bravo, little drummer!" cried a tall man in a shabby gray coat. This officer was marching at the head of the line with a long pole in his hand, which he struck into the snow every now and then, to see how deep it was. "Bravo, my boy! With such music as that, one could march all the way to Moscow."
8. "No, no, general!" cried the soldiers, with one voice; "you must not run a risk as that. Let one of us go instead; your life is worth more than all of ours put together."
9. "Boy!" he shouted, as loudly as he could; "Where are you, my boy."
10. "We've been under fire and under snow together," said Macdonald, chafing the boy's cold hands tenderly; "and nothing shall part us after this, so long as we both live."
11. "It is lucky for you," said he, "that you have met with me."

12. "I cannot bear," she said, "to sit with folded hands, and see them perish. With God's help, we may yet save them."

13. "Very well. Do these;" and giving the boy a slate with some questions upon it, Mr. Bacon led him into a small room.

14. "This wo'nt do," said he. "You need not examine my stock before I employ you. I see you will not suit," and so sent him on his way.

著者試に座右の英語讀本を開きて目に觸るゝに任せて此等の直接說話を書き記し行けり、此等十四の類例は體裁に於て多少宛特異の點を有するものにして此等を通覽すれば直接說話の體裁につきて思ひ半ばに過ぐるものあらむ、注意すべき事項を列擧すれば、

1. 直接說話は多くの場合之れを二分して長きものと短きものとの二つとなし、短きものを冒頭におき其後に主節を置く。
2. 主節の動詞は多くの場合 quotation に近く置く、文例 1 と 2. を比較せば之れを知らむ、然し文例 9 に於て shouted なる動詞が "Boy!" より離れたるは as loudly as 云々の副詞に引かれたるなり。
3. 最初の quotation は花文字にて書き始むるも第二の quotation は狀況によりて必しも然らず。
4. 主節は第一の quotation に密接に結び附くものなれば其間は多く (') を以て隔つるのみ、但し quotation が (!) を有する時と雖之れに密着する主節は小文字なるが當然なり。
5. 主節と第二 quotation とは其の時の狀況によりて period, semicolon, 又は comma 等にて別かたる、(,) 又は (;) なる時は第二 quotation は小文字にて始め (.) なる時は大文字にて始むること勿論なり。

6. 又文例 7 の如く主節非常に長きものあるに留意せよ。
8. 文例 12 の如く第一 quotation の bear と第二の to sit とは密接の關係ある語なるも斯く分たれたるは聊か珍らし此の文に於ては hands 迄を第一 quotation とするが至當なれどそれにては聊か長きに失する嫌なきに非ず。
9. 文例 13 に於ては Do these の後に (;) あるに注意すべし。
10. 文例 14 に於ては第二 quotation の後に and so 以下の地の文が續きたるを見置くべし。

III 間接說話の體裁に就て

比較 { **He said that** he would go and talk with them. (1)。
He would go, **he said,** and talk with them. (2)。

(1) に於ては He said の語甚だ重く、(2) に於ては he said 甚だ輕し、He would go と云ひ來つて其の事が彼の云ひたる事なるに氣がつきこれは彼の云つた事であるがと輕く言ひ足したるに過ぎず、此の兩者を同一視すべからず。

He informed me **that** he was willing to do it, **that** it must be done by some one, and **that** he thought himself to be the right man to do it.

上揭の文例に於て報知したる事柄を三つに別ち三個の that (接續詞)を使用したるは英文の僻にして日本文的立場より云はゞ that は一つにて足る事なれども、英文にては斯く分つ習慣あるなり。

第十七章　總練習

邦文英譯の練習を爲す者動もすれば英文の表顯形式を暗誦して能事終れりと爲すは大なる考へ違にして、邦文英譯を學ぶに當りて最も注意を集中すべき點は、文章前後の關係、思想の順序配列にして、英文には英文特異の文脈あれば、それを能く省察して、纏まりたる思想、事實等を述べたる邦文を最も適當なる英文に引き直すことを練習せざる可からず、此の道より進みてこそ、はじめて能く自己の云はむと欲する處を直接に英文に綴ることを得るものにして、彼の表顯形式にのみ沒頭して斷片的英文に浮身をやつす徒が長文を草するに當りて、抑揚もなく緩急もなく、唯 Idiom の陳列に過ぎざる如き心地惡しき文を作爲して得意とせるは予輩の最も厭ふ所なりとす。

されば此の小冊子を終るに當りて、讀者諸君に課するに稍長き邦文の英譯を以てして、諸君をして前後纏りたる事實、終始一結せる思想等を材料として、如何に英文を作爲すべきかを知らしめむと欲す。

こゝに必ず注意すべき肝要の一事は常に平明の文章を作るやう工夫せざる可からざることなり、極めて平易に、又極めて明瞭に文をやるは決して容易の業に非ずして、達文の人にして始めて爲し得る事なれども、又文を學ぶ者の少時も忘るべからざる目標なりとす。

未だ文章に熟せざるものが誤りて修飾を以て文章の生命なるかの如く思意し、氣障なる用語の下に筋も徹らぬ事を述べたる程始末の惡しきものあらざる可く、山出しの下女が安白粉を塗りたるよりも不快なるべし。

Easy English is not easy. とは予の意見にして、此の小冊子の緒言に於て既に述べたる如く平易なる英語に習熟することが眞に英文を解するに至る唯一の道にして、同時に又平明 (plain) の二字は英文を練習するものゝ須臾も忘るべからざる標語なりと云ふを得べし。

(1) 嘘か眞か保證の限りでは無いが、此の頃或る外國船と日本船との間に次の樣な無線電信珍問答があつた、外『貴船は何丸なりや（フー アール ユー）』日『通信士なり（アイ アム ザ ヲペレーター）』外『貴船の位置は（ホエェヤ アール ユー）』日『無線電信室（イン ザ オペレーチング ルーム）』外『馬鹿ツ！（ユーアール フーリッシユ）』。

此れだけの話では別に何の變哲もないが、此の事實はたまゝ日本無線電信手の智識の貧弱さを示したもので、無線電信は既に世界の必要なる通信機關となり、殊に船舶への無電取付は英米其の他が法律を以て之れを强制して居る程なのに、日本の現狀はまだ斯くの如く幼稚なばかりか、それすら數の上に於て充分で無く、其他材料は足らず、技術者は足らず、實以て悲慘極まる話サと或る船舶業者は語つた。

Although there is no saying as to whether it is ascertained truth or not, such curious questions and answers as follows are said to have been exchanged by wireless of late, between a certain foreign ship and a Japanese one.

F. "Who are you?"
J. "I am the operator."
F. "Where are you?"
J. "In the operating-room."
F. "You are foolish."

This alone might make no novel news; but the fact happened to show the Japanese wireless operator's ignorance. Wireless has already become an indispensable means of communication of the world. And, as a matter of fact, England, America and some other powers have gone so far as to force their ships by the law to get fitted up with wireless telegraphy apparatus, while the present condition of our wireless service is so poor or rather wretched, and the number of the apparatus is helplessly small, to say nothing of the scarcity of materials and the dearth of technical experts.

All this is a talk attributed to a certain one of the shipping interest.

(2) 東大文科が婦人の聽講生を許可すると御利益は覿面で、去年迄はタツタ八九名しか聽講者のなかつた講座に百名以上も押しかけて來る、これでは耳が働いて居るのか目が働いて居るのか分らぬと或る教授は笑つて居た。

The Literature college of Tokyo Imperial University decided at last to admit attendance of ladies. And lo! It took an immediate and wonderful effect: lectures, which had hardly ten students until last year, came to draw so big an attendance of more than a hundred.

A professor was heard to say laughingly, "Goodness knows whether they attend the lectures to listen or to look at."

(3) 一言辯ず

東大文科に聽講生の多い譯

東大文學部に男子の聽講生が急に增加した原因は青鉛筆子の云ふやうな皮肉的なものではない、私の觀る所では、

1. 時代の然らしむる所で文學は文學部學生のみに必要なるものではないと云ふ思想の漲れること。

2. 試驗制度の改革によつて他の學部の學生は餘暇の出來たこと、殊に一年、二年の間に全科目受驗し終つて最後の一年間を自由研究に費す學生の多いこと。

が主なる原因であつて、現に私の友人F君は三年生だけれど、もう全科試驗濟で今は自分のための勉强に沒頭して居る、世の中には冗談や洒落を眞に受けて、東大學生が女子に自由に引つ張り廻はされて居るかの樣に吹聽するお目出度屋があるかもしれぬから一寸一言辯じて置く。

A Word in Defence.

Why so big an attendance to the lectures of literature? In his views about the cause of sudden increase of male students in the Literature college, Mr. Blue Pencil is so cynical that I can never agree with him. Now allow me to put here down my own views. In the first place, the spirit of the times has inspired students with the thought that literature is not only for the students of literature, but also for every one who wants to be fed with mental food. In the second place, on account of the new regulations of examination system, the students of the University have come to have much time to spare; and, in fact, there are many third year students

who can make free use of their time, having finished all the examinations in their first and second year days. These, I believe, are the chief reasons why many of them take to the study of literature. For example, there is my friend F, an under-graduate, who is now giving up all his time to the study of anything he likes.

Excuse me, I could not refrain from giving my own opinion in defence of my fellow students lest there should be any howling simpletons who, taking a mere joke as serious and true, would talk of us as if we were imprudently running after girl-students.

(4) 釜盗人。

釜を盗まれた者がありました、盗人は近所に住むで居る蹇だと云ふ噂があるので、行つて見ると、なるほどその釜があります、大層怒つて取り返そうとすると、

『この釜は昔から私の家にあるのです、私はよその物を盗むやうな事はしません』と云つて、どうしても返しません、仕方がないから訴へて出ました、役人は二人を呼び出して、その釜を前に置いて、取り調べました、訴へた人は

『此れは私が毎日使つて居た釜で御座います、それを私の留守に此の蹇が盗んだので御座います』

と申しますと又蹇は

『お役人様、御覽の通り私は足の立たない者で兩手をついて、やつといざり歩るく者で御座います、どうして釜の様な重い物が持つて行かれませう、その釜は私が前から持つて居たのでございます』

と申します、役人は暫時考へて居ましたが、そのうち蹇に向つて

『お前の云ふ事は眞實に尤もだ、この釜はお前の物に違ひあるまい、早速持て歸れ』

と申し渡しました、蹇は大いに喜んでその釜を冠つて兩手をついて膝行り出したので、役人は後から聲をかけて

『とら待て蹇、釜盗人は其の方にきまつた』と云つて下役共に云ひつけて縛らせました。

A Kettle-thief.

A man was stolen of his kettle. It was rumoured that a lame fellow who lived in the neighbourhood was the thief, and so the man went out to see whether it was true or not; and, indeed, there he found the kettle. He got very angry and was about to recover it, when, "stay, sir," cried the lame man; "this kettle is the one that has been kept in my house of old. I am not such a man as steal another's property." And he never consented to give it back. Having no other means to resort to, the man brought an action against the lame man.

The judge summoned them, and investigated the case, laying the kettle before them. "Your honour," began the complainant. "This is the kettle that had been in my daily use until it was stolen in my absence from home by this crippled fellow."

"Most honourable sir," said the lame. "I can only crawl by the help of my hands, you see. How could I carry about such a heavy thing as the kettle? This kettle, I assure

you, I have possessed from the beginning." The judge was lost in thought for a little while and then to the lame man he turned; "you are all right. Doubtless, it seems, this kettle is yours. Take it home at once," was the judgment. The lame man was greatly pleased and soon began to crawl with his hands, putting the kettle on his head. "Hold! Lame fellow," called out the judge after him. "Ther's no doubt. you are the very thief of the kettle." And he ordered the under-officials to arrest him.

(5) よい御天氣。

或る朝のこと大變雨がふつて居ました、仙太郎は剽輕者の平作叔父の所へ使に行きました、『仙太、お早よう、好いお天氣だね』と叔父様がにこ々しながら云ひました、『でも叔父さん、こんなに雨がふつて居ますぜ』と仙太郎は叔父様の顏を見ながら云ひました、『そうとも、雨がふつてるよ、だから好い御天氣だよ』と叔父様が答へました。仙太郎は妙な事を云ふ叔父様だと思ひながら『叔父様は、いつも僕を馬鹿にするんですね、笑談はよしてください、雨がふつてるぢやありませんか』と云ふと叔父さんが『仙太、怒るものではない、おれの云ふのはな、家鴨の爲めには好いお天氣だと云ふ事さ』と答へました、仙太郎は大聲をあげて笑ひました、叔父様も同じように笑ひました、そして家の前の池の中では叔父様の家の家鴨が愉快そうに遊んで居ました、なる程家鴨の喜ぶお天氣でした。

A fine Weather.

One morning it was raining very heavily. Sentaro went on an errand to the house of his uncle Heisaku, who was very fond of fun.

"Good morning, Senta, it is fine weather," said Heisaku smiling on him. "O, but, uucle, it is raining so heavily," replied Sentaro looking up at the uncle's face. "O yes, it is raining, so I say, it is fine weather," said Heisaku. But Senta could not understand him and cried, "uncle, you are always making fun of me, stop joking, it is raining, you see." "Senta. don't get angry with me, I mean, it is fine weather —for ducks, you see?" replied Heisaku. Sentaro laughed very loudly and so did the uncle; and Heisaku's ducks were playing very happily on the pond in front of the house, for it was very fine weather for them.

(6) 夏秋の交り目は氣候の變化が著しいのでいつも風邪にかゝりやすいのでありますが、今年はとりわけ氣候の劇變につれて普通の感冒から氣管支加答兒を起す者が非常に多くあります、又流行性感冒もぽつ〻々あるようです、少しでも鼻つ風の氣味があるか若しくは健康の體でも外出して歸つた際には含嗽をするやうにしたいものです。

At the turning period from summer to autumn, weather is often much unsettled, and indeed this year has seen so many cases of bronchial catarrh, into which a cold on the lungs is easily turned, affected by sudden changes of the atmospheric temperature. And some cases of influenza are found, too. So let us rinse our mouth and throat by gargling, when we have come home from outdoor tasks, especial-

ly if we find ourselves with some symptoms of a cold in the head; or even if we feel perfectly healthy.

(7) 加州日本人の立つ瀬のない事は左の一例でも知れる、從來日本人勞働者は低廉な賃銀で働いたとて排斥されたが、此頃は此等勞働者が獨立營業者となつて米人勞働者に安い甘い洋食を喰はせ小奇麗なホテルを經營するとジヤツプは米人の營業を侵略すると云つて排斥さるゝ有樣である。

The following facts among many others tell that the Japanese in California are in a hole. The Japanese labourers have been hated because of their low wages; and, now that they feed the American labourers with cheap and tasteful food, keeping cozy hotels on their own account, they are also rejected by the selfish Americans, who complain, "the Japs are stepping into our shoes."

(8) 紀念日の挨拶。

私は此の愉快なる日に當つて、名譽ある來賓諸賢、尊敬すべき諸先生、又は親愛なる學友諸君の前に於て一言申上ぐる事を許されまして此の上なく光榮に感ずる次第で御座います。

私思ひまするに、紀念日なるものは今日の我々を作り上げてくれた所の我等の過去を思ひ出すべき絶好の機會で御座います、時には心なき人々が我等は老人のまねをして徒らに過去に戀々たるに及ぶまいとか又は雄健の士は過去には用はあるまいとか云ふのを耳にいたしますが、斯う云ふ人達は吾人が過去に負ふ所が如何に大なるか又過去が吾人の爲に如何に貴き仕事をしてくれたかを知らないのであります。

過去は現在の母で御座いまして、今日の吾等を產んでくれたのは卽ち過去であります、過去がなければ、今日の私達はない譯であります。

そして私達は此の貴き我等の過去を省み祝ふ爲めに今日此所に一堂に會した次第で御座います、然しながら過去を祝すると云ふ事には唯徒らに紀念的の御祭騷のみではなく、何かそれ以上の意味がなければなるまいと存じます。

我等は何の爲めに過去を祝ふので御座いませうか、我校は旣に創立以來幾星霜を經て我々は今日此所に我が校の產聲を揚げた日を祝するのでありますが、扨て、繰り返すやうでありますが、私共は何の目的を以て我が校の若き日を紀念し祝するので御座いませうか、申すまでもなく、我等が我等の今日迄の成長を自ら祝する所以のものは、我校の爲めに一層光輝ある未來を作り一層貴き未來を仕上げんが爲めに吾人の英氣を新にしようと欲するの意に外ならぬのであります、そうです、吾人はこれより更らに英氣を加へねばなりませぬ、又諸君よ、一段の勸勉と一層の努力とを以て我が母校の位置をして更に高からしめねばならぬと存じます。

An Address on the Commemoration Day.

I feel greatly honoured to be allowed to speak a few words before our honourable guests, respectable professors, and dear schoolmates on this happy occasion. The commemoration day, I believe, is the very opportunity that reminds us of our past, which has made us what we are. I have heard some thoughtless people say that we have no need to look back to the past as old people often do, and that a vigorous man has nothing to do with the past. They, however, do

not know what they owe to the past, and how noble a work the past has done for them.

The past is the mother of the present; she has given birth to what we are now. Without the past, how can we be now? No, we are nothing without onr past; and here we are this day to celebrate that noble past of ours. But, look here, the celebration of the past must have some more meaning than a mere commemoration or festive display.

What do we celebrate the past for? Our school was established several years ago, and we are here to commemorate the starting day of our school. And now, with your permission, I ask again what is our purpose of commemorating the younger days of our school. Well, needless to say, it is just to refresh our energy to develop a nobler and more glorious future for our school, that we now congratulate ourselves upon our growth to the present time. More energy, I say; more diligence and harder work, my fellow-pupils, to push our dearest school to a higher and higher stage!

(9) 歐洲大戰の結果を豫知し得た者は世界で恐らく一人もあるまい、斯かる未曾有の變局が各方面に種々の革新を促すのは已むを得ないことで彼の廿世紀病の如きは其の一である、我國は禍亂の根源地を離れて居るので其の影響を被ることが比較的尠なかつたが、それでも幾分か此の病に感染して居るやうだ、切に青年の自覺を要する。

Nobody in the world could have foreseen the consequence of the great European war; and it is inevitable that such

an unheard-of situation should stimulate society to various kinds of reformation. What is called the twentieth-century malady is a striking instance of what has been introduced by the war. Fortunately the malady has been able to have comparatively little influence upon us, who are placed so far from the stage of the war distubrances. But something is not nothing, however little it might be. That is why our younger generation should be awakened to its own good sense not to fall a victim to the malady.

(10) 昨夜當地の活動寫眞館に火災起り觀客は大混亂の狀態に陷り少くとも四名の死者と八十名の負傷者とを出したり。

火はフイルムより發したるも直に消しとめたるが『火事よ、火事よ』の叫び聲に約二千名の觀客は總立ちとなり夢中に出口へ押し寄せ婦人小兒を踏み倒して逃げ出したり。

消防隊は勇敢に行動して右以上の大災害を醸すに至らざりき、觀客は全部支那人にして前記の死傷者の外行方不明となれるもの約一百名ありと云ふ。

A fire broke out last night in a movietheatre in this city, throwing the visitors into a great pell-mell. Four persons were killed and more than eighty injured, at least.

The film which caught fire was instantly put under control; but, hearing the shouts calling out "fire! fire!", the whole house of about two thousand spectators sprang to their feet and frenziedly made their way out, kicking down and treading on women and children.

The fire-brigade's brave efforts could keep the disaster to the limit aforesaid. It is said that the spectators were all chinese, and that about one hundred of them are missing as yet in addition to the killed and wounded mentioned above.

(11) 社會事業の生活難。

孤兒院や養老院の如き社會事業は最近經濟界不振の餘波を喰つて其の殆ど唯一の財源たる寄附金が急に減ずるし、一方には世間の不景氣のため孤兒や棄兒や扨は棄てられた老人などが續々入院して來ると云ふ有樣で、さなきだに收入減少で弱つて居るのに、此の有樣では所詮立ち行きそうも無いと云ふので、何れも何れも同じ樣に經營難を唱つて居る、殊に注目すべきは、好景氣の時には見る事の極めて少なかつた棄兒が近來急に增加して來た事で、被收容者側よりは却つて孤兒院自身の方が生活難を訴へて居る有樣だと云ふ。

Social Services in the Stress of Hard Living.

The times are very hard for social services. Those who are connected with an orphanage or an asylum for the aged are all much complaining of the present hardness. Under the influence of the latest economical dullness, these charitable institutions are so much distressed that they can hardly get along any more, the amount of contributions, which are their sole source of revenue, suddenly falling so small, but then, to make the matter worse, the badness of the times bringing in a never ending succession of orphans, foundlings or deserted old persons.

Now it is very much note-worthy that foundlings, seldom seen in good times, have suddenly increased in number of late days. And so, we are told, it is the orphan asylum itself that is in straits of hard living, not those who are to be received into it.

(12) 最近紐育からの消息に依ると女流飛行家ローラブラウエル孃はロングアイランドの飛行場で連續八十七回の宙返りを演つてのけた、孃は實に芳紀十八歲の乙女だから驚く。

According to the latest news from New York, Miss Rolla Browel, a lady-aviator, made a stunt of looping-the-loop eighty-seven times at a stretch, at the aerodrome of Long Island.

We are astonished to know that she is a young girl only eighteen years old.

(13) 飛行機自働車と云へば我國ではまだ實生活には緣の遠いものになつて居るが、最近印度のオクラホマ市に催された大舞踏會へ石油成金の印度紳士連が地方の別莊から續々飛行機で參列した、又新獨立國のチェツクですら去る九月に第一回の自働車博覽會を開いたさうだ。

Although the aeroplane and the automobile have very little to do with our daily life, it is an ascertained fact that some Indian oil parvenus arrived one after another at a grand ball, lately given in Okulahoma city of India, from their country-villas. And even the new republic of Czech is said

to have held the first automobile exhibition in September last.

(14) 行きつまれる世界改造の大業を促進するには、唯雜然たる思想の根本的理解を得ることにあると思ふ、男女や學校の別などを問はず總ての學生をして來つて人生本然の姿を探究せしめよ。

To urge on the great work of rebuilding the world, which seems now to have come to a stalemate, our perfect understanding of this jumble of so many different thoughts would be required. Come now, let all students, no matter which sex or what school they belong to, inquire into the fundamental truth of human life.

(15) 多くの金を使つて夏日光へ行くのは苦しみに行く樣なものだ、眞の日光の美を味はんとする者は宜しく秋季觀楓の時期を以て人工の美と自然の美とを對照するにしかず。

Visiting Nikko in summer time is nothing but earning worries for your expense. If you are to enjoy the real beauty of Nikko. you will visit the place in the season of autmn when the sight of scarlet-tinged leaves of trees is exquisitely beautiful and taste the beauty of contrast between the splendid landscape and the famous temple so elaborately built.

(16) 各學校では寒中休みが近づいた、休暇の來るのは嬉しいが其の前に學期試驗と云ふ關所を一つ越さねばならぬ、朝の電車で元氣よく騒いで居た學生連もきのふけふは何だかあらたまつた容子で人込みの中でまでノートを一生懸命に繰り廣げて居た。

The winter vacation of school is approaching. It is a delightful thing, the vacation; but we have to go through a difficulty of the terminal examination, before we get at it.

Some students who were always lively and noisy in the morning car, look grave now and are busy going over their note-books even in the crowded car.

(17) 教師たる者の本務は生徒を助くる點に在つて決して教壇に立ちて自己の學問を廣告することではない、生徒たる者は自分の爲すべき事を自ら爲すべく、事を已れ自身の手にて處理する事益多ければそれだけ愈學問の進歩を來すのである、自己の仕事を自ら爲す者にして始めて徹底的に學を修むることを得るのである。

A teacher's business is to help pupils, not to make display of his learning on the platform. A pupil should be eager to do his work for himself. The more he takes the matter into his own hands. the more he does make progress in study. It is one who tries to do his work by himself that can thoroughly learn his lessons.

(18) 墺國では物價騰貴と材料缺乏の應急手段として耐久耐水の紙製洋服が發明され、其の値段も三つ組一着三十二(日本の三十錢强)乃至五百七十五クローネで、それが又米國に輸出されて

一着二十仙乃至二弗七十五仙で市場に賣り出された所が頗る好評で、今では紐育の市中にも紙洋服姿の人を見受る樣になつたそうな。

In Austria, paper clothes of waterproof and durable quality have been invented, as a counter-measure for the advance of prices and the scarcity of materials. The prices are from thirty-two krones (a little over thirty sen) to five hundred and seventy-five, per suit. And they are favourably received in the American markets at from twenty cents to two dollars and seventy-five a suit. Now, it is said, some people in this kind of suit can he seen in New York city.

(19) タイムス紙通信員の所報によれば、羅馬に於ける寺院侵入計劃は家屋不足の爲め住居に困難せる人々の運動にして、此等の人々は既に空き家其の他の建物に押入り其の儘居据り居れりと。

The London Times correspondent at Rome reports that the plot for occupying temples there by strong hand is the movement started by those who are in the strain of a great shortage of housing.

And they are said to have also pushed their way into unoccupied houses or any other building which they can find to live in, never to leave them again.

(20) 茶目君は級中一等の怠惰者でありました、或る朝のこと先生が『皆さん、今朝は私は皆さんを敎へません、然し茶目さん、

(其の方へ向きながら) あなたが私の代りになつて級を敎へなさい、先生なんだから、あなたはなまける事は勿論出來ません、然し、その代り、何でも自分のすきな事を敎へてよろしい』と御仰いますと、茶目君が『先生、ほんたうに僕が先生の代りをするんですか』と聞き返したので『そうです、あなたが代りをするんです』と先生が答へますと、『それから何でも自分の云ひたい事を云つてようございますか』と又聞きましたから、『よろしいとも、何でも御仰しやい』と先生が答へました。

それから茶目さんは早速敎壇に立つて頗る先生らしくもつたいぶつて、さて級の子供等に向つて斯う云ひました、『皆樣は皆よい生徒です、だから御褒美に今日は御やすみにしてあげます、もう稽古はしませんから、皆、外へ出て遊んでよろしい』。

Chame was the idlest boy of the class. One morning the teacher said "Boys, I will not teach you myself this morning; but Chame, (turning to him) you will take my place and teach the class. Being a teacher, you can not be lazy; but yon may teach anything you like to the class".

"O, may I really take your place, sir?" asked Chame.

"Yes, my boy, you may," replied the teacher.

"And say anything I like to them?"

"Certainly."

Then Chame stood on the platform, trying as much as he can to look like a teacher. And he said to the class, "Boys, you are all very good boys; so you shall have a holiday. We have no lesson this morning; now, you may all go out and play."

(21) 赤いポスト。

或る時近眼の若い紳士が東京へ來ました、大學の赤門附近の或る宿に泊つて、夕飯をすませてから散歩に出かけました、彼れは葉書を郵便函に入れたいと思つて、しきりにたずねて居ました、とう〻〻本郷三丁目の角で赤いポストが立つて居るのを見附けて、彼れは直ぐ其の方へ歩みよりました、左の手に端書をつき出しながら、右の手をのばして圓い蓋を廻そうとしました、所が驚いた事には、其のポストが後しざりをして大きな聲で"何しやがるんでい"と怒鳴りました、それは赤い郵便函ではなくつて、客まちをして居る車夫でした、車夫が赤毛布を頭から被つてじつと立つて居たのでした。

A Red Post-box.

Once a young gentleman, who was short-sighted, came up to Tokyo, and put up at an inn near the famous Red-gate of the Tokyo Imperial University. After supper, he went out to take a walk in the vicinity. Wanting to post a post-card, he was looking for a post box. At last he found out a red post-box at the corner of Hongo Sanchome, and he approached it at once. He stretched out the right hand to turn its disk-lid, holding out the post-card in the left hand. Then, to his great astonishment, the post-box stepped back and cried angrily, "what do you mean?". It was not a post-box, but a rikishaman, who was standing still by his rikisha, wrapped in a red blanket from head to foot.

(22) ぶりき屋。

或る金持の老紳士の家の兩側に傳七、平六と云ふ二人のぶりき

屋がありました、毎日朝から晩まで二人はバン〻〻音をさせて仕事をして居ました、そこで此の老紳士はもう我慢が出來なくなつて、或晩のこと此の二人を招いて御馳走をしました、そして云ひますには『失禮ながら、私はあなた方が毎日やかましい音をさせるので弱つて居ます、實の所もう我慢がしきれません、そこで、御二人に三百圓宛引越料を差上ますから、何處かへ移つて頂きたいものです』とこれを聞いて二人は三百圓と云ふ金が貰へるので、大に喜んで早速承知しました、其の時傳七が平六を片隅の方へ呼んで小聲で暫時何か話して居ましたが、やがて二人は又老人の前へ出て、口を揃へて『旦那、わたし等は今晩直に引越しますから、今こゝで其の御金を頂きたいものです』と云ひますと、老人が其の樣に早く移轉すると云ふのを大そう喜んで、即座に三百圓宛を渡しました。

其の夜老紳士はもうこれで嫌な騒しい音を聞かないですむと思ふと非常にうれしくなつて、ぐつすり寢てしまいました、翌日朝老人は早く起きていつものやうなやかましい音も聞かず、靜かなうれしい氣持になつて、樂々と安樂椅子にもたれてのどかに新聞を讀み出しました、所が、これはどうした事か、忽ち一方の側からバンと云ふ音が聞えて來ました、それに續いて又片方の側でバンと音がしました、又一方からバン、更に片方からバン、バン、バン、バン、バンと騒がしく鳴り始めました、老人怒るまい事か、夢中になつて傳七の家へ駈けて行きました、行つて見ると又ビツクリしました、傳七の家に傳七は居らないで平六が仕事をして居ました、平六は老人の顏を見るやにこ〻〻して斯う云ひました『旦那、御早やう御座んす、昨晩は御金を頂いてどうもお氣の毒樣で、早速御云ひ附けの通り、手前は此ちらへ引越して參りました、傳七の野郎も又私の先の家へ引き移りましたやうなわけです、ハイ』